



# Sun™ Advanced Lights Out Manager ソフトウェア ユーザーマニュアル

---

Netra™ 240 サーバー

Sun Microsystems, Inc.  
[www.sun.com](http://www.sun.com)

Part No. 817-5006-11  
2004 年 7 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付属する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com, OpenBoot, SunVTS, Netra は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サンロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインターフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Advanced Lights Out Manager Software User's Guide for the Netra 240 Server Part No: 817-3174-11 Revision A
-----	--



Adobe PostScript

# 目次

---

はじめに xv

1. Sun Advanced Lights Out Manager の概要 1

ALOM の機能 1

ALOM の監視対象 2

ALOM の使用 2

障害およびエラー関連用語 4

Fault 状態 4

Failed 状態 4

プラットフォーム固有情報 4

2. ALOM の構成 5

ALOM の構成手順 5

ALOM の構成計画 6

ALOM 通信ポートの選択 6

シリアル管理ポート 7

ネットワーク管理 (Ethernet) ポート 8

外部モデムの設定 8

サンのコネクタの使用 8

独自のコネクタの作成 9

構成ワークシート	11
構成変数のワークシート	12
DHCP を使用したネットワークの構成	13
手動によるネットワークの構成	13
ホストサーバーの電源の投入	14
電子メールによる警告の設定	14
電子メールによる警告の設定	15
ALOM の設定	15
3. ALOM に関する一般的な作業	17
ALOM のリセット	18
システムコンソールと ALOM との切り替え	18
ロケータ LED の制御	19
ホストサーバーのリセット	19
サーバーの環境情報の表示	20
Ethernet (NET MGT) ポートを使用するための ALOM の再構成	20
setsc コマンドを使用したネットワークインタフェース変数の設定	23
scadm set コマンドを使用したネットワークインタフェース変数の設定	23
ALOM ユーザーアカウントの追加	24
ALOM ユーザーアカウントの削除	27
自分のアカウントやほかのユーザーアカウントのパスワードの変更	28
警告メッセージの送受信	29
カスタマイズした警告の送信	30
ALOM からの警告の受信	31
ALOM への接続	31
ALOM アカウントへのログイン	32
ALOM から警告を送信するスクリプトの作成	33
ALOM からほかの装置へのシステムコンソールのリダイレクト	34

ALOM 構成のバックアップ	36
ALOM のバージョンの表示	36
4. ALOM コマンドシェルの使用	37
ALOM コマンドシェルの概要	37
ALOM シェルコマンド	38
ALOM シェルコマンドの説明	41
bootmode	42
break	44
console	45
consolehistory	48
flashupdate	50
help	53
logout	54
password	55
poweroff	56
poweron	57
removefru	59
reset	60
resetsc	61
setalarm	62
setdate	63
setdefaults	65
setlocator	66
setsc	67
setupsc	68
showdate	70
showenvironment	71
showfru	74

showlocator 77  
showlogs 78  
shownetwork 80  
showplatform 81  
showsc 82  
showusers 84  
useradd 85  
userdel 86  
userpassword 87  
userperm 88  
usershow 91

5. ALOM 構成変数の使用 93
- ALOM 構成変数の概要 93
  - シリアル管理ポート変数 95
  - ネットワークインタフェース変数 95
  - 管理対象システムのインタフェース変数 96
  - ネットワーク管理および通知変数 97
  - システムユーザー変数 98
  - 構成変数の説明 99
    - if\_emailalerts 99
    - if\_network 101
    - if\_modem 102
    - mgt\_mailalert 104
    - mgt\_mailhost 106
    - netsc\_dhcp 108
    - netsc\_enetaddr 108
    - netsc\_ipaddr 109
    - netsc\_ipgateway 110

netsc_ipnetmask	111
netsc_tpelinktest	112
sc_backupuserdata	112
sc_clieventlevel	113
sc_cliprompt	113
sc_clitimeout	115
sc_clipasswdecho	116
sc_customerinfo	117
sc_escapechars	118
sc_powerondelay	118
sc_powerstatememory	119
ser_baudrate	120
ser_data	121
ser_parity	121
ser_stopbits	122
sys_autorestart	122
sys_consolegrablogout	123
sys_enetaddr	124
sys_eventlevel	124
sys_hostname	125
sys_xirtimeout	125
6. scadm ユーティリティの使用法	127
scadm ユーティリティの概要	127
scadm コマンドの一覧	130
scadm コマンドの概要	130
scadm コマンドの説明	132
scadm date	132
scadm download	133

scadm help 135  
scadm loghistory 136  
scadm modem\_setup 137  
scadm resetrsc 137  
scadm send\_event 138  
scadm set 139  
scadm show 140  
scadm shownetwork 141  
scadm useradd 142  
scadm userdel 143  
scadm usershow 144  
scadm userpassword 145  
scadm userperm 146  
scadm version 148

- 7. OpenBoot PROM の使用方法 149
  - ALOM コマンドシェルと OpenBoot PROM プロンプトの切り替え 149
  - reset-sc コマンド 150
  - .sc コマンド 150
- A. 障害追跡 153
  - モデム設定の障害追跡 153
  - ALOM の問題の障害追跡 154
  - ALOM によるサーバーの障害追跡 155
    - システムコンソール書き込みロックの概要 156
    - タイムアウトしたホストサーバーのリセット 156
  - ALOM シェルのエラーメッセージ 156
    - 使用方法に関するエラー 157
    - 一般的なエラー 158



FRU エラー	160
scaadm のエラーメッセージ	161
索引	169



# コード例

---

- コード例 3-1      `send_event` のスクリプトの例 33
- コード例 4-1      `help` コマンドの出力例 53
- コード例 4-2      `showenvironment` コマンドの出力例 71
- コード例 4-3      `showenvironment` コマンドの出力例 (サーバーの電源が切断されている場合) 73
- コード例 4-4      `showfru` コマンドの出力例 75
- コード例 4-5      `showlogs -v` コマンドの出力例 79
- コード例 6-1      `scadm help` コマンド 135
- コード例 6-2      `scadm show` コマンドの出力例 141
- コード例 6-3      `scadm usershow` の特定ユーザーの出力例 144
- コード例 7-1      `.sc` コマンドの出力例 151



# 表目次

---

表 2-1	RJ-45 と DB-25 コネクタ間の信号の変換	9
表 2-2	RJ-45 コネクタの信号の説明	10
表 2-3	DB-25 メスコネクタの信号の説明	10
表 2-4	機能別の Ethernet 変数	12
表 4-1	機能別の ALOM シェルコマンドの一覧	38
表 4-2	bootmode コマンドオプション	43
表 4-3	consolehistory コマンドオプション	50
表 4-4	flashupdate コマンドオプション	52
表 4-5	poweroff コマンドオプション	57
表 4-6	poweron での FRU の値	59
表 4-7	removefru での FRU の値	60
表 4-8	reset コマンドオプション	61
表 4-9	setdate コマンドオプション	64
表 4-10	setdefaults コマンドオプション	66
表 4-11	showlogs コマンドの出力結果	80
表 4-12	showsc コマンドオプション	84
表 4-13	userperm の権限レベル	89
表 5-1	if_network に関する処理	101
表 5-2	mgt_mailalert に関する処理	104
表 5-3	mgmt_mailhost に関する処理	106

表 5-4	netsec_dhcp に関する処理	108
表 5-5	netsec_ipaddr に関する処理	109
表 5-6	netsec_ipgateway に関する処理	110
表 5-7	netsec_ipnetmask に関する処理	111
表 5-8	netsec_tpelinktest に関する処理	112
表 5-9	sc_backuserdata に関する処理	113
表 5-10	sc_clieventlevel に関する処理	113
表 5-11	sc_cliprompt に関する処理	114
表 5-13	sc_passwdecho に関する処理	116
表 5-12	sc_clitimeout に関する処理	116
表 5-14	sc_customer_info に関する処理	117
表 5-15	sc_escapechars に関する処理	118
表 5-16	sc_powerondelay に関する処理	119
表 5-17	sc_powerstatememory に関する処理	120
表 5-18	sys_autorestart に関する処理	123
表 5-19	sys_eventlevel に関する処理	124
表 5-20	sys_xirtimeout に関する処理	126
表 6-1	scadm コマンドの一覧	130
表 6-2	scadm date コマンドオプション	132
表 6-3	scadm userperm の権限レベル	146

# はじめに

---

このマニュアルでは、Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) システムコントローラに関する情報について説明します。このコントローラを使用すると、Netra™ 240 サーバーの遠隔管理が可能になります。このマニュアルは、UNIX® コマンドについての知識と経験が豊富なシステム管理者を対象としています。

---

## マニュアルの構成

第 1 章では、Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) の概要について説明します。

第 2 章では、ALOM を使用して、サーバーに合わせてソフトウェアをカスタマイズする方法について説明します。

第 3 章では、ALOM を使用して容易に実行できる一般的な作業について説明します。

第 4 章では、ALOM のコマンド行インタフェースについて説明します。

第 5 章では、ALOM の動作を変更するために使用できる構成変数について説明します。

第 6 章では、Solaris™ オペレーティング・システム (Solaris OS) の機能の一部である scadm ユーティリティーについて説明します。このユーティリティーを使用すると、サーバーへのログイン中にさまざまな ALOM に関する作業を実行できます。

第 7 章では、ALOM をサポートする OpenBoot™ PROM の要素について説明します。

付録 A では、ALOM 診断についてと、ALOM に関する問題を障害追跡する方法について説明します。

---

# UNIX コマンド

このマニュアルには、UNIX の基本的なコマンド、およびシステムの停止、システムの起動、デバイスの構成などの基本的な手順の説明は記載されていません。

基本的なコマンドや手順についての説明は、次のマニュアルを参照してください。

- 『Sun 周辺機器 使用の手引き』
- Solaris オペレーティングシステムについてのオンライン AnswerBook2™
- 本システムに付属している他のソフトウェアマニュアル

---

## 書体と記号について

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
<b>AaBbCc123</b>	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	% <b>su</b> Password:
AaBbCc123 またはゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。 rm <b>ファイル名</b> と入力します。
『』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	% <b>grep</b> <code>``#define \</code> <code>XV_VERSION_STRING'</code>



---

# シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	マシン名%
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#
ALOM システムコントローラ (デフォルト)	SC>
OpenBoot PROM ファームウェア	ok

---

## 関連マニュアル

用途	タイトル	Part No.
設置の概要	『Netra 240 Server Quick Start Guide』 (英語版)	817-3904-xx
製品の最新情報	『Netra 240 Server Release Notes』 (英語版)	817-3142-xx
設置	『Netra 240 サーバー設置マニュアル』	817-4997-xx
安全のための注意事項	『Important Safety Information for Sun Hardware Systems』 (マルチリンガル版)	816-7190-xx
	『Netra 240 Server Safety and Compliance Manual』 (マルチリンガル版)	817-5018-xx
マニュアル Web サイトの URL	『Sun Netra 240 Server Product Documentation』 (英語版)	817-2697-xx
保守	『Netra 240 Server Service Manual』 (英語版)	817-2699-xx
管理	『Netra 240 サーバー管理マニュアル』	817-5014-xx

ALOM とホストサーバーの連携方法については、ホストサーバーのマニュアルを参照してください。次のマニュアルでは、ALOM に関する作業の方法を説明しています。

作業	タイトル
診断テストの実行	『SunVTS ユーザーマニュアル』 『SunVTS リファレンスカード』 『SunVTS テストリファレンスマニュアル』 『Sun Management Center ソフトウェアユーザーマ ニュアル』
システムおよびネットワークの 管理	『Solaris のシステム管理』 『SPARC: 日本語 Solaris のインストール (SPARC)』
オペレーティングシステム環境の 使用	『Solaris ユーザーズガイド』

上記のマニュアルは Solaris オペレーティングシステムに付属の Solaris マニュアルパッケージ、またはシステムハードウェアに付属の Computer Systems Supplement CD に入っています。

scadm コマンドのマニュアルページは、Solaris サプリメント CD に収録されている Solaris HW 固有のオンラインマニュアルページパッケージに含まれています。たとえば、Solaris 8 HW 7/03 オペレーティングシステムの場合、マニュアルページは SUNWs8hwman パッケージに含まれています。詳細は、サプリメント CD に付属のマニュアルか、Solaris メディアキットを参照してください。

---

## サン以外の Web サイト

このマニュアルで説明するサン以外の Web サイトの利用については、サンは責任を負いません。このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、広告、製品、またはその他の資料についても、サンは保証しておらず、法的責任を負いません。また、このようなサイトやリソース上、またはこれらを経由して利用できるコンテンツ、商品、サービスの使用や依存に関連して発生した実際の損害や損失、またはその申し立てについても、サンは一切の責任を負いません。

---

## Sun のオンラインマニュアル

各言語対応版を含むサンの各種マニュアルは、次の URL から表示または印刷、購入できます。

<http://www.sun.com/documentation>

---

## Sun の技術サポート

このマニュアルに記載されていない技術的な問い合わせについては、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

---

## コメントをお寄せください

弊社では、マニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

コメントには下記のタイトルと Part No. を記載してください。

『Sun Advanced Lights Out Manager ソフトウェアユーザーマニュアル』, Part No. 817-5006-11



## 第1章

---

# Sun Advanced Lights Out Manager の概要

---

この章では、Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) の概要について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 1 ページの「ALOM の機能」
- 2 ページの「ALOM の監視対象」
- 4 ページの「障害およびエラー関連用語」
- 4 ページの「プラットフォーム固有情報」

このあとの章では、ALOM の構成および使用について詳細に説明します。

---

## ALOM の機能

Sun Advanced Lights Out Manager (ALOM) は、Netra 240 サーバーの遠隔管理を可能にするシステムコントローラです。

ALOM ソフトウェアはホストサーバーにプリインストールされています。そのため、サーバーの電源を入れるとすぐに動作します。固有のインストール環境に合わせて ALOM の動作をカスタマイズすることができます。詳細は、5 ページの「ALOM の構成」を参照してください。

ALOM を使用すると、ネットワーク経由か、端末または端末サーバーに接続される専用のシリアルポートのいずれかを使用して、サーバーの管理や制御を行うことができます。ALOM では、コマンド行インタフェースが提供されています。これにより、地理的に分散したり直接の操作が不可能なマシンの遠隔管理を行うことができます。詳細は、38 ページの「ALOM シェルコマンド」を参照してください。

また、サーバーのシリアルポートから地理的に離れた場所でも、電源投入時自己診断 (POST) などの診断を遠隔から実行できます。詳細は、154 ページの「ALOM の問題の障害追跡」を参照してください。さらに、ALOM の設定によりハードウェア障害の電子メールによる警告、およびハードウェア警告、サーバーまたは ALOM に関連するその他のイベントを送信することができます。

ALOM は回路的にサーバーから独立しており、サーバーのスタンバイ電源を使用します。そのため、サーバーのオペレーティングシステムがオフラインになったり、サーバーの電源が切断されている場合でも、ALOM ファームウェアは機能し続けます。

---

## ALOM の監視対象

ここでは、Netra 240 サーバーで ALOM が監視できるコンポーネントの一部を示します。

監視対象コンポーネント	監視内容
ディスクドライブ	各スロットにドライブが存在するかどうか、および状態が OK であるかどうか
ファン	ファン速度、およびファンの状態が OK であるかどうか
CPU 温度	CPU が存在するかどうか、CPU 温度、熱警告または障害の状況
電源装置	各ベイに電源装置が存在するかどうか、および状態が OK であるかどうか
システム格納装置の温度	システムの環境温度、格納装置に関する熱警告または障害の状況
回路遮断器	回路遮断器が作動しているかどうか
サーバーの正面パネル	システムの回転式スイッチの位置および LED の状態
電圧	電圧が動作範囲内かどうか

---

## ALOM の使用

ALOM ソフトウェアはホストサーバーにプリインストールされています。そのため、サーバーの電源を入れるとすぐに動作します。外部の ASCII 端末をシリアル管理ポート (SERIAL MGT) に接続すれば、ALOM ソフトウェアを設定しなくてもすぐに ALOM を使用できます。外部端末の接続方法については、ホストサーバーのインストールガイドを参照してください。

ALOM ソフトウェアでは、ALOM ハードウェアが設置されているホストサーバーを監視できます。この場合、ホストサーバーのみが監視可能であり、ネットワーク上のほかのサーバーは監視できません。複数のユーザーがホストサーバーを監視できますが、権限を要求するコマンドを発行できるのは一度に 1 ユーザーのみです。ほかのユーザーの接続は読み取り専用モードになります。これらのユーザーはシステムコンソールや ALOM からの出力を参照するコマンドは実行できますが、設定の変更はできません。

ALOM に接続するには、次のようにさまざまな方法があります。

1. ASCII 端末を直接 SERIAL MGT ポートに接続します。詳細は、7 ページの「シリアル管理ポート」を参照してください。
2. telnet コマンドを使用し、NET MGT ポートの Ethernet 接続を介して ALOM に接続します。詳細は、8 ページの「ネットワーク管理 (Ethernet) ポート」を参照してください。
3. 外部モデムを SERIAL MGT ポートに接続し、モデムにダイヤルインします。このポートでは外部モデムへの発信呼び出しはサポートされていません。詳細は、8 ページの「外部モデムの設定」を参照してください。
4. 端末サーバーのポートを SERIAL MGT ポートに接続し、telnet コマンドを使用して端末サーバーに接続します。

はじめてサーバーの電源を入れると、ALOM はシステムの監視を自動的に開始し、事前に設定されているデフォルトのアカウントを使用してシステムコンソールへの出力を表示します。デフォルトアカウントは admin と呼ばれ、すべての (cuar) 権限が与えられています。権限については、146 ページの「権限レベル」を参照してください。

ALOM にログインして admin のパスワードを指定するには、次の手順に従います。

- ALOM コマンドプロンプト (sc>) で password コマンドを入力し、admin アカウントのパスワードを指定します (詳細は、55 ページの「password」を参照)。

ログインする前にタイムアウトした場合は、システムコンソールに戻り、次のメッセージが表示されます。

```
Enter #. to return to ALOM.
```

必要に応じて、ALOM にログインしたあとで、固有のインストール環境に合わせて ALOM の動作をカスタマイズすることができます。詳細は、5 ページの「ALOM の構成」を参照してください。

これで、ALOM ユーザーアカウントの追加などの一部の一般的な管理作業を実行できます。詳細は、17 ページの「ALOM に関する一般的な作業」を参照してください。

---

## 障害およびエラー関連用語

サンのすべてのサーバーには ALOM での表示および監視が可能な 2 つの処理状態 (ok と failed または failure) があります。一部のサーバーには fault という処理状態もあります。ここでは、fault 状態と failed 状態の相違点を説明します。

### Fault 状態

fault は、装置が縮退状態で動作しているが、まだ完全に機能している状態であることを示します。縮退により、この装置は fault とは表示されない装置よりも信頼性が低いこととなります。fault 状態の装置は、主な機能を引き続き実行することができます。

たとえば、内部のファンに障害が発生すると、電源装置は fault 状態になりますが、温度が危険しきい値を超えないかぎり、安定した電源を供給し続けることができます。このような fault 状態の電源装置は、温度、負荷、効率によっては機能が停止する可能性があります。そのため、fault 状態でない電源装置と比べて信頼性が低くなります。

### Failed 状態

failure は、装置がシステムの要求どおりに機能しない状態であることを示します。重大な障害や、複数の障害の併発が原因で装置に問題が発生します。failed 状態になると、装置は機能を停止し、システムリソースとして使用することができなくなります。

電源装置を例にした場合、安定した電源の供給が停止すると、電源装置は failed 状態になったとみなされます。

---

## プラットフォーム固有情報

flashupdate コマンドまたは scadm download コマンドのいずれかを使用して ALOM ファームウェアを更新する前に、Netra 240 の回転式スイッチがロック位置に設定されていないことを確認してください。詳細は、『Netra 240 Server Service Manual』(Part No. 817-2699-xx) を参照してください。



## 第2章

---

# ALOM の構成

---

この章は、次の基本的な構成作業について説明します。

- 5 ページの「ALOM の構成手順」
- 6 ページの「ALOM の構成計画」
- 6 ページの「ALOM 通信ポートの選択」
- 8 ページの「外部モデムの設定」
- 11 ページの「構成ワークシート」
- 14 ページの「電子メールによる警告の設定」
- 15 ページの「ALOM の設定」

---

## ALOM の構成手順

ALOM ソフトウェアはホストサーバーにプリインストールされているため、サーバーの電源を入れるとすぐに動作します。端末をシリアル管理ポート (SERIAL MGT) に接続すれば、すぐに ALOM を使用できます。

ただし、インストール環境に合わせて ALOM をカスタマイズする場合は、いくつかの基本的な作業を実行する必要があります。

ALOM のカスタマイズに必要な作業は、次のとおりです。

1. 構成のカスタマイズ方法を計画します。詳細は、6 ページの「ALOM の構成計画」を参照してください。
2. 構成ワークシートに設定を記録します。詳細は、12 ページの「構成変数のワークシート」を参照してください。
3. ホストサーバーの電源を入れます。詳細は、14 ページの「ホストサーバーの電源の投入」を参照してください。
4. `setupsc` コマンドを実行します。詳細は、15 ページの「ALOM の設定」を参照してください。

5. 構成変数を使用して ALOM ソフトウェアをカスタマイズします。詳細は、94 ページの「ALOM コマンドシェルの構成変数を使用する」を参照してください。

次に、これらの作業について説明します。

---

## ALOM の構成計画

ALOM ソフトウェアはホストサーバーにプリインストールされています。ALOM の再インストールまたはアップデートを行う場合は、この節の手順に従います。

---

**注** – ALOM 用のシリアル接続および Ethernet 接続の場所については、ホストサーバーのマニュアルを参照してください。

---

setupsc コマンドを実行して ALOM を設定する前に、ALOM でのホストサーバーの管理方法を決めておく必要があります。構成に関して決定する必要がある事項は、次のとおりです。

- 使用する ALOM 通信ポート (6 ページの「ALOM 通信ポートの選択」を参照)
- 警告メッセージの使用の有無および警告メッセージの送信先 (11 ページの「構成ワークシート」を参照)

これらの事項を決定したら、12 ページの「構成変数のワークシート」に示す構成ワークシートを印刷します。これを使用して、setupsc コマンドに対する応答を記録します。

---

## ALOM 通信ポートの選択

ALOM ハードウェアには、次の 2 種類の通信ポートがあります。

- シリアル管理ポート (SERIAL MGT)
- ネットワーク管理 (Ethernet) ポート (NET MGT)

どちらのポートでも ALOM コマンドシェルを使用できます。デフォルトでは、ALOM の起動時の通信には SERIAL MGT ポートが使用されます。

---

**注** – サーバーのシリアル管理およびネットワーク管理 (Ethernet) 接続の場所については、ホストサーバーのマニュアルを参照してください。

---

# シリアル管理ポート

ASCII 端末で ALOM シリアル管理ポートに接続することができます。このポートは汎用シリアルポートではなく、ALOM への接続および ALOM を介したサーバーコンソールへの接続に使用されます。Netra 240 サーバーでは、このポートは SERIAL MGT ポートと呼ばれます。詳細は、サーバーのマニュアルを参照してください。

シリアル管理ポート (SERIAL MGT) は、外部端末と ALOM またはホストサーバーとの ASCII 通信を行うための専用ポートです。このポートは標準の RJ-45 コネクタを使用します。

このシリアルポートはワークステーションからのシリアル接続などの外部端末または端末エミュレータにのみ使用可能です。ALOM シリアルポートは汎用シリアルポートではありませんが、Solaris オペレーティングシステムはこのポートを `tttya` として認識します。

汎用シリアルポートを使用する場合は、サーバーの背面パネルにある通常の 9 ピンシリアルポートを使用してください。Solaris オペレーティングシステムはこのポートを `tttyb` として認識します。サーバーのシリアルポートの詳細は、サーバーのマニュアルを参照してください。

コンソールのシリアルポートに次のパラメタが設定されていることを確認します。

- 9600 ボー
- 8 ビット
- パリティなし
- ストップビット 1
- ハンドシェイクなし

ホストサーバーは起動時に ALOM に関するこれらのパラメタを自動設定します。設定は読み取り専用で、ALOM の `sc>` プロンプトから変更することはできません。ALOM セッションを確立したあとで `sc>` プロンプトからパラメタの設定を参照するには、シリアルポート変数を確認します。詳細は、95 ページの「シリアル管理ポート変数」を参照してください。

## ▼ シリアルポートに接続する

### 1. ALOM に接続します。

ALOM システムコントローラのセッションを確立する方法の詳細は、31 ページの「ALOM への接続」および 32 ページの「ALOM アカウントへのログイン」を参照してください。

ALOM のシェルプロンプト (`sc>`) が表示されます。

2. システムコンソールに接続するには、ALOM システムコントローラウィンドウで次のように入力します。

```
sc> console
```

3. ALOM のシェルプロンプト (sc>) に戻るには、#. (ハッシュ記号とピリオド) を入力します。

## ネットワーク管理 (Ethernet) ポート

10 MB Ethernet ポートを使用すると、社内ネットワークから ALOM にアクセスすることができます。標準の Telnet クライアントと TCP/IP で ALOM に遠隔接続できます。Netra 240 サーバーでは、ALOM Ethernet ポートは NET MGT ポートと呼ばれます。

---

**注** – 端末装置を NET MGT ポートに接続する場合は、サーバーを 10M ビットのネットワークに接続する必要があります。ALOM では 100M ビットおよび 1G ビットのネットワークをサポートしていません。

---

詳細は、サーバーのマニュアルを参照してください。

---

## 外部モデムの設定

外部の PC や端末からモデムを使用して ALOM に接続するには、外部モデムをシリアル管理ポート (SERIAL MGT) に接続します。これによって、遠隔の PC を使用して ALOM ソフトウェアを実行できるようになります。

ただし、外部モデムの用途は、シリアルポートに接続して ALOM コマンドプロンプト (sc>) を表示するための受信 ASCII 接続に限られます。モデムを使用した ALOM からの送信はサポートされていません。

モデムを ALOM シリアルポートに取り付ける前に、出荷時設定にリセットします。ほとんどのモデムが、AT&F0 コマンドによって出荷時設定にリセットされます。

## サンのコネクタの使用

モデムを ALOM シリアル管理ポートに接続するには、専用のピン配列を使用した専用コネクタを作成または購入する必要があります。

モデムをこのポートに接続するには、パーツ番号 530-2889-03 の RJ-45/DB-25 コネクタ (一部変更したもの) および RJ-45/RJ-45 クロスオーバーケーブルを使用する方法があります。コネクタ 530-2889-03 は、ピン 6 の位置から DB-25 ピンを抜いてピン 8 の位置に差し込み、変更します。

## 独自のコネクタの作成

自分で配線する場合は、表 2-1 の情報に従って RJ-45 と DB-25 コネクタ間の信号を変換してください。

表 2-1 RJ-45 と DB-25 コネクタ間の信号の変換

RJ-45	DB-25
1 - RTS	5 - CTS
2 - DTR	6 - DSR
3 - TXD	3 - RXD
4 - GND	7 - GND
5 - RXD	7 - GND
6 - RXD	2 - TXD
7 - DCD	8 - DCD
8 - CTS	4 - RTS

図 2-1 および表 2-2 に、RJ-45 コネクタに関するピンの割り当てと信号を示します。

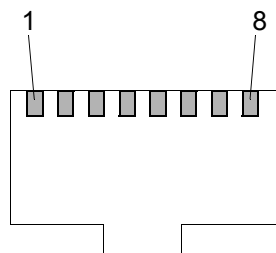


図 2-1 RJ-45 コネクタのピンの位置

表 2-2 RJ-45 コネクタの信号の説明

ピン	信号の説明	ピン	信号の説明
1	送信要求 (RTS)	5	接地 (Ground)
2	データ端末レディ (DTR)	6	受信データ (RXD)
3	送信データ (TXD)	7	データキャリア検出 (DCD)
4	接地 (Ground)	8	送信可 (Clear To Send : CTS)

図 2-2 および表 2-3 に、DB-25 コネクタに関するシリアルポートコネクタと信号を示します。

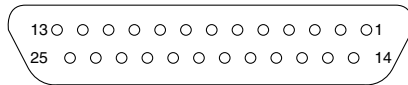


図 2-2 DB-25 メスコネクタのピンの位置

表 2-3 DB-25 メスコネクタの信号の説明

ピン番号	機能	入出力	信号の説明
1	なし	なし	*
2	TXD_A	O	送信データ
3	RXD_A	I	受信データ
4	RTS_A	O	送信レディ
5	CTS_A	I	送信可
6	DSR_A	I	データセットレディ
7	GND		信号接地
8	DCD_A	I	データキャリア検出
9	なし	なし	N.C.*
10	なし	なし	N.C*
11	DTR_B	O	データ端末レディ
12	DCD_B	I	データキャリア検出
13	CTS_B	I	送信可
14	TXD_B	O	送信データ
15	TRXC_A	I	送信クロック

表 2-3 DB-25 メスコネクタの信号の説明 (続き)

ピン番号	機能	入出力	信号の説明
16	RXD_B	I	受信データ
17	RXD_A	I	受信クロック
18	RXD_B	I	受信クロック
19	RTS_B	O	送信レディ
20	DTR_A	O	データ端末レディ
21	なし	なし	N.C.*
22	なし	なし	N.C.*
23	なし	なし	N.C.*
24	TXC_A	O	送信クロック
25	TXC_B	O	送信クロック

\* N.C. は「接続なし」の意味です。

詳細は、102 ページの「if\_modem」を参照してください。

## 構成ワークシート

インストール環境に合わせて ALOM をカスタマイズする場合にのみ、このワークシートを使用する必要があります。

ALOM をカスタマイズするには、構成変数を使用します。変数の詳細は、93 ページの「ALOM 構成変数の使用」を参照してください。

ALOM の構成変数を設定するには、次の 2 通りの方法があります。

- setupsc コマンドの実行時に変数の値を指定する (68 ページの「setupsc」を参照)
- setsc コマンドを使用して各変数を設定する (67 ページの「setsc」を参照)

この節を印刷し、次の表を使用して入力時の値を記録してください。この表は、サーバーソフトウェアの再インストールや ALOM 設定の変更が必要な場合に、ホストサーバーの設定記録としても利用できます。

端末装置が ALOM に接続されていることを確認してから ALOM ソフトウェアをカスタマイズしてください。手順については、6 ページの「ALOM 通信ポートの選択」を参照してください。ALOM 用のシリアル接続および Ethernet 接続の場所については、ホストサーバーのマニュアルを参照してください。

## 構成変数のワークシート

表 2-4 に、Ethernet 制御に必要な構成変数とそのデフォルト値を示します。いちばん右の列に実際に使用する値を入力してください。

表 2-4 機能別の Ethernet 変数

機能	値 / 応答	構成変数	デフォルト値	実際に使用する値
ネットワーク構成の制御方法	手動 (13 ページの「手動によるネットワークの構成」を参照)  DHCP を使用 (13 ページの「DHCP を使用したネットワークの構成」を参照)			
ALOM の IP アドレス		netssc_ipaddr (109 ページの「netssc_ipaddr」を参照)	0.0.0.0	
サブネットマスクの IP アドレス		netssc_ipnetmask (111 ページの「netssc_ipnetmask」を参照)	255.255.255.0	
宛先が ALOM と異なるサブネットにある場合に使用するデフォルトゲートウェイの IP アドレス		netssc_ipgateway (110 ページの「netssc_ipgateway」を参照)	0.0.0.0	
電子メールによる警告送信の有無 警告の送信に使用する電子メールアドレス (最大 2 つのメールサーバーを使用可)		mgt_mailalert (104 ページの「mgt_mailalert」を参照)	[]	デフォルトでは電子メールアドレスは設定されていません。
SMTP (メール転送プロトコル) メールサーバーの IP アドレス (最大 2 つのメールサーバーを使用可)		mgt_mailhost (106 ページの「mgt_mailhost」を参照)	0.0.0.0	

注 - ユーザーアカウントを手動で設定することもできます。



## 関連情報

- ALOM 構成変数の概要については、93 ページの「ALOM 構成変数の使用」を参照してください。
- 87 ページの「userpassword」

## DHCP を使用したネットワークの構成

ALOM 用に DHCP (動的ホスト構成プロトコル) を構成するには、2 通りの方法があります。

- `setupsc` スクリプト (68 ページの「`setupsc`」) を使用して、`netsc_dhcp` 変数を設定します (108 ページの「`netsc_dhcp`」を参照)。
- `setsc` コマンド (67 ページの「`setsc`」) を使用して、`netsc_dhcp` 変数の値に `true` (DHCP を有効にする) を設定します (108 ページの「`netsc_dhcp`」を参照)。

---

**注** - ネームサーバーマップ (ネットワーク情報サービス (NIS) またはドメインネームサービス (DNS)) の IP アドレスに関連付ける ALOM デバイス名には、ホストサーバー名の後ろに `-sc` を追加した名前を設定することをお勧めします。たとえば、ホストサーバー名が `bert` の場合、ALOM デバイス名は `bert-sc` です。

---

DHCP でネットワーク構成を制御する場合、ALOM に固定 IP アドレスが割り当てられるように DHCP サーバーを設定します。

## 手動によるネットワークの構成

ALOM 用に手動でネットワークを構成するには、2 通りの方法があります。

- `setupsc` スクリプトを使用して、ネットワーク構成変数を一度に設定します。
- `setsc` コマンドを使用して、各ネットワーク構成変数の値を個別に設定します。

各変数を個別に設定する場合は、次の変数を設定する必要があります。

- 101 ページの「`if_network`」
- 109 ページの「`netsc_ipaddr`」
- 111 ページの「`netsc_ipnetmask`」
- 110 ページの「`netsc_ipgateway`」

---

**注** - ネームサーバーマップ (NIS または DNS) の IP に関連付ける ALOM デバイス名には、ホストサーバー名の後ろに `-sc` を追加した名前を設定することをお勧めします。たとえば、ホストサーバー名が `bert` の場合、ALOM デバイス名は `bert-sc` です。

---

## ホストサーバーの電源の投入

システムの電源を入れる方法については、ホストサーバーのマニュアルを参照してください。電源が入っていない場合は、SER MGT ポートに接続された端末の電源を入れます。シリアルポートの詳細は、7 ページの「シリアル管理ポート」を参照してください。

ALOM に電源が供給されるとすぐに、SER MGT ポートがホストサーバーのコンソールのストリームに接続されます。ALOM に切り替えるには、「#。」(ハッシュ記号とピリオド)を入力します。起動時、ALOM には事前に設定された管理者アカウント (admin) が 1 件あります。

コンソールのストリームから ALOM に切り替えると、このアカウントのパスワードの作成を求めるプロンプトが表示されます。有効なパスワードの条件については、55 ページの「password」を参照してください。

デフォルトの admin アカウントには、すべての ALOM ユーザー権限 (cuar) が与えられています。権限の詳細は、88 ページの「userperm」を参照してください。この admin アカウントでは、ホストからのコンソール出力の表示、ほかのユーザーアカウントやパスワードの設定、ALOM の構成を行うことができます。

### 関連情報

- 119 ページの「sc\_powerstatememory」

---

## 電子メールによる警告の設定

電子メールによる警告を送信するには、ALOM の Ethernet ポートを有効にする必要があります (8 ページの「ネットワーク管理 (Ethernet) ポート」を参照)。

ホストサーバーに問題が発生すると、そのホストの ALOM アカウントにログイン中のすべてのユーザーに対して警告メッセージが送信されます。また、ALOM の設定によりログインしていないユーザーに電子メールによる警告を送信することもできます。警告を受けたユーザーは、該当のホストサーバーの ALOM アカウントに接続して問題に対処することができます。

## 電子メールによる警告の設定

ALOM ソフトウェアでは、警告メールを受信する一意の電子メールアドレスを 8 件まで設定できます。各電子メールアドレスは、特定の重要度 (Critical (高)、Major (中)、または Minor (低)) を受信するように設定できます。詳細は、30 ページの「カスタマイズした警告の送信」を参照してください。

---

## ALOM の設定

構成計画が完了したら、68 ページの「setupsc」に示す setupsc コマンドを実行します。画面の指示に従って、インストール環境に合わせて ALOM ソフトウェアをカスタマイズします。

---

**注** – ALOM ソフトウェアのカスタマイズは、ALOM ソフトウェアを使用できるようになってから行います。ALOM ソフトウェアは、サーバーの電源を入れるとすぐに動作します。

---

setupsc コマンドは、カスタマイズ可能な ALOM 機能を順に示すスクリプトを実行します。各機能は 1 つ以上の構成変数に関連付けられています。構成変数の詳細は、第 5 章を参照してください。機能を設定する場合は、setupsc スクリプトでプロンプトが表示されたときに **y** と入力します。機能をスキップするには、**n** と入力します。

あとから設定を変更する場合は、67 ページの「コマンドオプション」に示す setsc コマンドを実行します。

## ALOM ソフトウェアのカスタマイズ

setupsc スクリプトを使用すると、複数の構成変数を一度に設定できます。詳細は、94 ページの「関連情報」を参照してください。setupsc スクリプトを使用せずに 1 つ以上の構成変数を変更する場合は、67 ページの「setsc コマンドを使用する」に示す setsc コマンドを使用します。

### 関連情報

- 38 ページの「ALOM シェルコマンド」
- 11 ページの「構成ワークシート」
- 5 ページの「ALOM の構成手順」
- 127 ページの「scadm ユーティリティの概要」



# ALOM に関する一般的な作業

---

ALOM に `admin` でログインし、`admin` パスワードを指定すると、次のような一般的な管理作業を実行できます。

- 18 ページの「ALOM のリセット」
- 18 ページの「システムコンソールと ALOM との切り替え」
- 19 ページの「ロケータ LED の制御」
- 19 ページの「ホストサーバーのリセット」
- 20 ページの「サーバーの環境情報の表示」
- 20 ページの「Ethernet (NET MGT) ポートを使用するための ALOM の再構成」
- 24 ページの「ALOM ユーザーアカウントの追加」
- 27 ページの「ALOM ユーザーアカウントの削除」
- 28 ページの「自分のアカウントやほかのユーザーアカウントのパスワードの変更」
- 29 ページの「警告メッセージの送受信」
- 31 ページの「ALOM への接続」
- 32 ページの「ALOM アカウントへのログイン」
- 33 ページの「ALOM から警告を送信するスクリプトの作成」
- 34 ページの「ALOM からほかの装置へのシステムコンソールのリダイレクト」
- 36 ページの「ALOM 構成のバックアップ」
- 36 ページの「ALOM のバージョンの表示」

---

## ALOM のリセット

ALOM をリセットすると、ALOM ソフトウェアが再起動します。構成変数に新しい値を指定するなど、ALOM の設定を変更したら ALOM をリセットします。ALOM が応答しなくなった場合は、システムコンソールから ALOM をリセットします。

ALOM のリセットには、次の 2 通りの方法があります。

- `sc>` プロンプトで **resetsc** と入力します。詳細は、61 ページの「resetsc」を参照してください。
- システムコンソールのスーパーユーザー (#) プロンプトで **scadm resetrsc** と入力します。詳細は、137 ページの「scadm resetrsc」を参照してください。

---

## システムコンソールと ALOM との切り替え

- コンソール出力から ALOM の `sc>` プロンプトに切り替えるには、**#. (ハッシュ記号とピリオド)** を入力します。
- `sc>` プロンプトからコンソールに切り替えるには、**console** と入力します。

---

注 – #. (ハッシュ記号とピリオド) 文字シーケンスは、ALOM のデフォルトエスケープ文字シーケンスです。必要に応じて、`sc_escapechars` 変数を使用して、このエスケープシーケンスの最初の 1 文字を変更することができます。たとえば、`sc> setsc sc_escapechars a.` と実行します。詳細は、118 ページの「`sc_escapechars`」を参照してください。

---

システムコンソールからの出力を一時的にシリアル管理ポートにリダイレクトする場合は、『Netra 240 サーバー管理マニュアル』(Part No. 817-5014-xx) を参照してください。OpenBoot 構成変数の一覧は、『Netra 240 Server Service Manual』(Part No. 817-2699-xx) を参照してください。

---

## ロケータ LED の制御

ALOM を使用して、LED のオン/オフを制御したり、LED の状態を確認したりすることができます。

- LED をオンまたはオフにするには、`setlocator` コマンドを使用します。詳細は、66 ページの「`setlocator`」を参照してください。
- LED の状態を確認するには、`showlocator` コマンドを使用します。詳細は、77 ページの「`showlocator`」を参照してください。

---

## ホストサーバーのリセット

`sc>` プロンプトからホストサーバーをリセットするには、4 通りの方法があります。

- サーバーを正常にリセットするには、`poweroff` コマンドを入力してから `poweron` コマンドを入力します。正常なリセットにより Solaris オペレーティングシステムが停止します。`poweroff` コマンドを入力してから `poweron` コマンドを入力しない場合は、ホストサーバーはスタンバイモードになります。詳細は、56 ページの「`poweroff`」および 57 ページの「`poweron`」を参照してください。
- ホストサーバーの状態に関係なくサーバーを強制的に停止するには、`poweroff -f` コマンドを入力してから `poweron` コマンドを入力します。これにより、Solaris オペレーティングシステムに障害が発生した場合またはハングアップした場合でも、ホストサーバーはすぐにリセットされます。これは正常な停止ではないため、データが消失する可能性があります。
- サーバーを正常に停止せずにすぐにリセットするには、`reset` コマンドを入力します。`reset -x` オプションは XIR (外部強制リセット) と同様の機能です。詳細は、60 ページの「`reset`」を参照してください。
- サーバーに OpenBoot PROM プロンプト (`ok`) を表示するには、`break` コマンドを入力します。詳細は、45 ページの「`break`」を参照してください。

---

**注** `poweroff` コマンドまたは `poweroff -f` コマンドを実行すると、ALOM によって次のメッセージが表示されます。

---

```
SC Alert: Host system has shut down.
```

このメッセージが表示されるまで待機してから `poweron` コマンドを実行してください。

---

## サーバーの環境情報の表示

ここでは、サーバーの環境状態の表示および監視について説明します。

### ▼ showenvironment コマンドを使用する

サーバーの環境状態のスナップショットを表示するには、showenvironment コマンドを使用します。このコマンドで表示される情報は、システム温度、ハードドライブの状態、電源装置やファンの状態、正面パネル LED の状態、回転式スイッチの位置、電圧や電流センサーの状態、警告状態などです。このコマンドの結果は UNIX コマンドの prtdiag(1M) と同じ形式で出力されます。

---

注 – このコマンドの使用にはユーザー権限は不要です。

---

- showenvironment コマンドを使用するには、sc> プロンプトで次のように入力します。

```
sc> showenvironment
```

表示される出力結果はホストサーバーのモデルや構成によって異なります。サーバーがスタンバイモードの場合は、一部の環境情報を参照できないことがあります。詳細は、71 ページの「showenvironment」を参照してください。

---

## Ethernet (NET MGT) ポートを使用するための ALOM の再構成

デフォルトでは、ALOM はシリアル管理ポート (SERIAL MGT) を使用して、外部端末やほかの ASCII 装置との通信を行います。必要に応じて、ALOM の設定を変更し、Ethernet ネットワーク管理 (NET MGT) ポートを使用して telnet で ALOM に接続することもできます。

NET MGT ポートは標準の RJ-45 コネクタをサポートします。NET MGT ポートとネットワークとのハードウェア接続の確立方法については、サーバーのマニュアルを参照してください。



---

**注** – 端末装置を NET MGT ポートに接続する場合は、サーバーを 10M ビットのネットワークに接続する必要があります。ALOM では 100M ビットおよび 1 ギガビットのネットワークをサポートしていません。

---

ALOM ソフトウェアを設定して NET MGT ポートを使用した通信をするには、ネットワークインタフェース変数の値を指定する必要があります。詳細は、95 ページの「ネットワークインタフェース変数」を参照してください。

これらの変数の設定方法は 3 種類あります。

- `sc>` プロンプトから `setupsc` スクリプトを実行します。詳細は、68 ページの「`setupsc`」を参照してください。
- `sc>` プロンプトから `setsc` コマンドを指定して各変数の値を設定します。詳細は、67 ページの「`setsc`」を参照してください。
- `scadm set` コマンドを指定してシステムコンソールから各変数の値を設定します。詳細は、139 ページの「`scadm set`」を参照してください。

## ▼ `setupsc` スクリプトを実行する

1. `sc>` プロンプトで **`setupsc`** と入力して、`setupsc` スクリプトを実行します。

```
sc> setupsc
```

設定スクリプトが開始されます。

2. 次のいずれかの方法で、スクリプトを終了します。
  - 変更を保存してスクリプトを終了する場合は、`Ctrl-Z` を入力します。
  - 変更を保存せずにスクリプトを終了する場合は、`Ctrl-C` を入力します。

スクリプトの開始例を次に示します。

```
sc> setupsc  
Entering interactive script mode. To exit and discard changes to  
that point, use Ctrl-C or to exit and save changes to that point,  
use Ctrl- Z.
```

必要に応じて、スクリプトの対話型の質問に答えていくことで、一度にすべての ALOM 構成変数をカスタマイズできます。詳細は、93 ページの「ALOM 構成変数の概要」を参照してください。ネットワークインタフェース変数のみを設定するには、次のプロンプトが表示されるまで、各プロンプトで **Return** を押します。

```
Do you wish to configure the enabled interfaces [y]?
```

詳細は、95 ページの「ネットワークインタフェース変数」を参照してください。

## ▼ ネットワークインタフェース変数を設定する

1. `sc>` プロンプトで **y** と入力して、ネットワークインタフェース変数を設定することを確定します。

`setupsc` スクリプトから次のプロンプトが表示されます。

```
Should the SC network interface be enabled?
```

2. ネットワークインタフェースを有効にする場合は、**true** を入力するか、**Return** を押します。無効にする場合は、**false** を入力します。

これで、`if_network` 変数の値が設定されます。詳細は、101 ページの「`if_network`」を参照してください。

3. スクリプトの対話型の質問に答えていきます。

次の変数の値の設定を求めるプロンプトが表示されます。

- `if_modem` (`false` を指定する) – 102 ページの「`if_modem`」を参照
- `netsc_dhcp` – 108 ページの「`netsc_dhcp`」を参照
- `netsc_ipaddr` – 109 ページの「`netsc_ipaddr`」を参照
- `netsc_ipnetmask` – 111 ページの「`netsc_ipnetmask`」を参照
- `netsc_ipgateway` – 110 ページの「`netsc_ipgateway`」を参照
- `netsc_tpelinktest` – 112 ページの「`netsc_tpelinktest`」を参照

4. ネットワークインタフェース変数の設定が完了したら、**Ctrl-Z** を入力して変更を保存し、`setupsc` スクリプトを終了します。

必要に応じて、すべての ALOM 構成変数の設定を終了することができます。

ネットワーク構成を使用する前に、ALOM をリセットする必要があります。これには、次の 2 通りの方法があります。

- `sc>` プロンプトで `resetsc` コマンドを入力します。詳細は、61 ページの「`resetsc`」を参照してください。

- システムコンソールのスーパーユーザープロンプトで `scadm resetrsc` コマンドを入力します。詳細は、137 ページの「`scadm resetrsc`」を参照してください。

## setsc コマンドを使用したネットワークインタフェース変数の設定

ネットワークインタフェース変数の値は、`sc>` プロンプトから `setsc` コマンドを使用して設定できます。設定する変数ごとにコマンドを 1 回発行します。次に例を示します。

```
sc> setsc if_network true
sc> setsc netsc_ipaddr 123.123.123.123
```

次の各変数の値を指定 (またはデフォルト値を使用) します。

- `if_network` - 101 ページの「`if_network`」を参照
- `if_modem` - 102 ページの「`if_modem`」を参照
- `netsc_dhcp` - 108 ページの「`netsc_dhcp`」を参照
- `netsc_ipaddr` - 109 ページの「`netsc_ipaddr`」を参照
- `netsc_ipnetmask` - 111 ページの「`netsc_ipnetmask`」を参照
- `netsc_ipgateway` - 110 ページの「`netsc_ipgateway`」を参照
- `netsc_tpelinktest` - 112 ページの「`netsc_tpelinktest`」を参照

## scadm set コマンドを使用したネットワークインタフェース変数の設定

ネットワークインタフェース変数の値は、システムコンソールのスーパーユーザー (#) プロンプトから `scadm set` コマンドを使用して設定できます。設定する変数ごとにコマンドを 1 回発行します。次に例を示します。

```
# scadm set if_network true
# scadm set netsc_ipaddr 123.123.123.123
```

次の各変数の値を指定 (またはデフォルト値を使用) する必要があります。

- `if_network` - 101 ページの「`if_network`」を参照
- `if_modem` - 102 ページの「`if_modem`」を参照
- `netsc_dhcp` - 108 ページの「`netsc_dhcp`」を参照
- `netsc_ipaddr` - 109 ページの「`netsc_ipaddr`」を参照
- `netsc_ipnetmask` - 111 ページの「`netsc_ipnetmask`」を参照

- netsc\_ipgateway - 110 ページの「netsc\_ipgateway」を参照
- netsc\_tpelinktest - 112 ページの「netsc\_tpelinktest」を参照

詳細は、93 ページの「ALOM 構成変数の概要」を参照してください。

---

## ALOM ユーザーアカウントの追加

ALOM ユーザーアカウントの追加には、次の 2 通りの方法があります。

- ALOM コマンドシェルでの `sc>` プロンプトから追加する (次の節を参照)
- システムコンソールから追加する (25 ページの「scadm ユーティリティーを使用して ALOM ユーザーアカウントを追加する」を参照)

ALOM には、最大 15 件の一意のユーザーアカウントを追加できます。

### ▼ `sc>` プロンプトから ALOM ユーザーアカウントを追加する

1. `sc>` プロンプトで、`useradd` コマンドにユーザーに割り当てるユーザー名を指定して実行します。

次に例を示します。

```
sc> useradd joeuser
```

詳細は、85 ページの「`useradd`」を参照してください。

2. アカウントにパスワードを割り当てるには、`userpassword` コマンドにアカウントに割り当てるユーザー名を指定して実行します。

`userpassword` コマンドの詳細は、87 ページの「`userpassword`」を参照してください。パスワードの入力を求めるプロンプトが表示され、パスワードが確認されます。実際のパスワードは画面に表示されません。次に例を示します。

```
sc> userpassword joeuser
New password:
Re-enter new password:
```

---

注 – ユーザーのパスワードには一定の制限があります。指定したパスワードがこれらの制限に準拠していることを確認してください。詳細は、56 ページの「パスワードの制限」を参照してください。

---

3. アカウントに権限を割り当てるには、`userperm` コマンドにアカウントに割り当てられたユーザー名とそのユーザーに与える権限レベルを指定して実行します。

次に例を示します。

```
sc> userperm joeuser cr
```

また、1 件の ALOM ユーザーの権限とパスワードの状態を参照したり、すべての ALOM ユーザーアカウントに関する情報を参照することもできます。

- 1 件の ALOM ユーザーの権限とパスワードの状態を表示するには、`sc>` プロンプトで、`usershow` コマンドに割り当てられたユーザー名を指定して実行します。

次に例を示します。

```
sc> usershow joeuser
Username                Permissions             Password?
joeuser                 --cr                   Assigned
```

詳細は、91 ページの「usershow」を参照してください。

- ALOM ユーザーのアカウント、権限、およびパスワードの一覧を表示するには、`sc>` プロンプトで `usershow` と入力します。

次に例を示します。

```
sc> usershow
Username                Permissions             Password?
admin                   cuar                   Assigned
wwilson                 --cr                   none
joeuser                 --cr                   Assigned
```

## ▼ `scadm` ユーティリティーを使用して ALOM ユーザーアカウントを追加する

システムコンソールから ALOM ユーザーアカウントを追加および設定するには、`scadm` ユーティリティーを使用します。次の手順を実行します。

1. システムコンソールにスーパーユーザーでログインします。

2. # プロンプトで、scadm useradd コマンドにユーザーに割り当てるユーザー名を指定して実行します。

次に例を示します。

```
# scadm useradd joeuser
```

3. アカウントにパスワードを割り当てるには、scadm userpassword コマンドにアカウントに割り当てられたユーザー名を指定して実行します。

パスワードの入力を求めるプロンプトが表示され、パスワードが確認されます。実際のパスワードは画面に表示されません。次に例を示します。

```
# scadm userpassword joeuser
New password:
Re-enter new password:
```

---

**注** – ユーザーのパスワードには一定の制限があります。指定したパスワードがこれらの制限に準拠していることを確認してください。詳細は、56 ページの「パスワードの制限」を参照してください。

---

4. アカウントに権限を割り当てるには、userperm コマンドにアカウントに割り当てられたユーザー名とそのユーザーに与える権限レベルを指定して実行します。

次に例を示します。

```
# scadm userperm joeuser cr
```

詳細は、146 ページの「scadm userperm」および 56 ページの「パスワードの制限」を参照してください。

また、1 件の ALOM ユーザーの権限とパスワードの状態を参照したり、すべての ALOM ユーザーアカウントに関する情報を参照することもできます。

- 1 件の ALOM ユーザーの権限とパスワードの状態を表示するには、# プロンプトで、scadm usershow コマンドに割り当てられたユーザー名を指定して実行します。

次に例を示します。

```
sc> usershow joeuser
Username           Permissions           Password?
joeuser            --cr                  Assigned
```

詳細は、91 ページの「usershow」を参照してください。

- ALOM ユーザーのアカウント、権限、およびパスワードの一覧を表示するには、# プロンプトで **scadm usershow** と入力します。次に例を示します。

```
# scadm usershow
Username           Permissions           Password?
admin              cuar                  Assigned
wwilson           --cr                  none
joeuser            --cr                  Assigned
```

---

## ALOM ユーザーアカウントの削除

ALOM ユーザーアカウントの削除には、次の 2 通りの方法があります。

- ALOM コマンドシェルの **sc>** プロンプトから削除する (次の節を参照)
- システムコンソールから **scadm** ユーティリティーを使用して削除する

---

注 – デフォルトの **admin** アカウントを ALOM から削除することはできません。

---

### ▼ **sc>** プロンプトから ALOM ユーザーアカウントを削除する

**sc>** プロンプトから ALOM ユーザーアカウントを削除するには、次の手順を実行します。

- **sc>** プロンプトで、**userdel** コマンドに削除するアカウントのユーザー名を指定して実行します。

次に例を示します。

```
sc> userdel joeuser
Are you sure you want to delete user <joeuser> [y/n]? y
sc>
```

## ▼ scadm ユーティリティーを使用して ALOM ユーザーアカウントを削除する

システムコンソールから ALOM ユーザーアカウントを削除するには、scadm ユーティリティーを使用します。次の手順を実行します。

1. システムコンソールにスーパーユーザーでログインします。
2. # プロンプトで、scadm userdel コマンドに削除するアカウントのユーザー名を指定して実行します。  
次に例を示します。

```
# scadm userdel joeuser  
Are you sure you want to delete user <joeuser> [y/n]? y  
#
```

---

## 自分のアカウントやほかのユーザーアカウントのパスワードの変更

次の手順に従って、自分のパスワードやほかのユーザーのパスワードを変更することができます。

### ▼ 自分の ALOM パスワードを変更する

自分の ALOM アカウントのパスワードは、sc> プロンプトから変更できます。パスワードの変更には、ユーザー権限は必要ありません。

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> password
```



このコマンドを実行すると、現在のパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。正しいパスワードを入力すると、新しいパスワードの入力を 2 回要求されます。次に例を示します。

```
sc> password
password: Changing password for username
Enter current password: *****
Enter new password: *****
Re-enter new password: *****
sc>
```

## ▼ ほかのユーザーの ALOM パスワードを変更する

---

注 – ほかのユーザーのパスワードを変更するには、u レベルのユーザー権限が必要です。詳細は、146 ページの「権限レベル」を参照してください。

---

ほかのユーザーの ALOM アカウントのパスワードを変更するには、次の 2 通りの方法があります。

- sc> プロンプトで userpassword コマンドを入力します。詳細は、87 ページの「userpassword」を参照してください。
- システムコンソールの # プロンプトで scadm userpassword コマンドを入力します。詳細は、145 ページの「scadm userpassword」を参照してください。

---

## 警告メッセージの送受信

ALOM をカスタマイズして、特定のイベントが発生したときに、ALOM にログインしているすべてのユーザーに電子メールによる警告を送信することができます。送信する警告のレベル (Critical (高)、Major (中)、Minor (低)) をユーザーごとに指定したり、イベントメッセージをカスタマイズして各ユーザーに電子メールで送信したりすることができます。詳細は、138 ページの「scadm send\_event」を参照してください。

ALOM ソフトウェアを使用すると、直接またはスクリプトを使用して、警告を送受信することができます。また、警告レベルには次の 3 種類があります。

- Critical (高)
- Major (中)
- Minor (低)

---

注 – 電子メールによる警告を設定できるのは最大 8 ユーザーです。各電子メールは、特定の重要度の警告を受信するように設定できます。

---

## ▼ 電子メールによる警告を設定する

1. ALOM で Ethernet ネットワーク管理ポート (NET MGT) が使用できるように設定されていること、およびネットワークインタフェース変数が設定されていることを確認します。

詳細は、20 ページの「Ethernet (NET MGT) ポートを使用するための ALOM の再構成」を参照してください。

2. `if_emailalerts` 変数を `true` に設定します。

詳細は、99 ページの「`if_emailalerts`」を参照してください。

3. `mgt_mailhost` 変数の値を設定し、ネットワーク上の 1 つまたは 2 つのメールホストを指定します。

詳細は、106 ページの「`mgt_mailhost`」を参照してください。

4. `mgt_mailalert` 変数の値を設定し、各ユーザーの電子メールアドレスと警告レベルを指定します。

詳細は、104 ページの「`mgt_mailalert`」を参照してください。

## カスタマイズした警告の送信

カスタマイズした警告を送信するには、`scadm` コマンドの `send_event -c` を使用します。この方法には次の 2 通りがあります。

- スーパーユーザーのプロンプトからすぐに警告を送信します。詳細は、127 ページの「`scadm` ユーティリティの概要」を参照してください。
- 指定された状況で警告を送信するスクリプト (コマンドファイル) を作成します。詳細は、125 ページの「`sys_hostname`」を参照してください。また、138 ページの「`scadm send_event`」および 33 ページの「ALOM から警告を送信するスクリプトの作成」も参照してください。

## ALOM からの警告の受信

ホストサーバーのコンソールに接続せずに ALOM コマンドシェルを使用した場合は、Major (中) または Critical (高) レベルのイベントが検出されると、ALOM からの警告メッセージを受信します。警告メッセージは ALOM コマンドの入力中に表示されることがあります。この場合は、Return を押してコマンドを再入力してください。

次に例を示します。

```
sc> cons
MAJOR: Fan1 Faulty
sc> console
```

ALOM は次の形式で警告メッセージを生成します。

```
$HOSTID $EVENT $TIME $CUSTOMERINFO $HOSTNAME message
```

- \$CUSTOMERINFO の詳細は、117 ページの「sc\_customerinfo」を参照してください。
- \$HOSTNAME の詳細は、125 ページの「sys\_hostname」を参照してください。

---

## ALOM への接続

ALOM に接続する方法を次に示します。

- ASCII 端末を直接 SERIAL MGT ポートに接続します。詳細は、7 ページの「シリアル管理ポート」を参照してください。
- telnet コマンドを使用し、NET MGT ポートの Ethernet 接続を介して ALOM に接続します。詳細は、20 ページの「Ethernet (NET MGT) ポートを使用するための ALOM の再構成」を参照してください。
- 外部モデムを SERIAL MGT ポートに接続し、モデムにダイヤルインします。このポートでは外部モデムへの発信呼び出しはサポートされていません。詳細は、8 ページの「外部モデムの設定」を参照してください。
- 端末サーバーのポートを SERIAL MGT ポートに接続し、telnet コマンドを使用して端末サーバーに接続します。

---

# ALOM アカウントへのログイン

使用する ALOM ポートに対してハードウェアの接続が確立されていることを確認します。Netra 240 サーバーでは、Ethernet ポートには NET MGT というラベルが付いています。シリアルポートには SERIAL MGT というラベルが付いています。これらのポート、およびポートへの装置の接続方法の詳細は、サーバーのインストールガイドを参照してください。

ALOM にはじめて接続したときは、自動的に admin アカウントで接続されます。このアカウントにはすべての (cuar) 権限が与えられます。ALOM の使用を続けるには、まずこのアカウントのパスワードを指定する必要があります。パスワードを指定すると、ALOM の使用を続行できるようになります。次回ログインするときは、パスワードを指定する必要があります。admin でログインすると、ユーザーの追加、パスワードの指定、権限の設定を行うことができます。

このプロセスの詳細は、146 ページの「権限レベル」、85 ページの「useradd」、87 ページの「userpassword」および 88 ページの「userperm」を参照してください。

## ▼ ALOM にログインする

すべてのユーザー (admin およびその他のユーザー) は、次の手順で ALOM にログインします。

### 1. ALOM に接続します。

詳細は、31 ページの「ALOM への接続」を参照してください。

### 2. 接続が確立されたら、# (ハッシュ記号とピリオド) を入力して、システムコンソールからエスケープします。

### 3. ALOM ログイン名とパスワードを入力します。

実際のパスワードは画面に表示されず、入力した各文字がアスタリスク (\*) で画面に表示されます。ログインに成功すると、コマンドプロンプトが表示されます。

```
sc>
```

これで、ALOM コマンドの使用またはシステムコンソールへの切り替えを行うことができるようになります。詳細は、37 ページの「ALOM コマンドシェルの概要」および 7 ページの「シリアル管理ポート」を参照してください。

ALOM イベントログにログイン情報が記録されます。5 分間でログインに 6 回以上失敗すると、重要度が「高」のイベントが生成されます。詳細は、78 ページの「showlogs」を参照してください。

## 関連情報

- 6 ページの「ALOM 通信ポートの選択」
- 7 ページの「シリアル管理ポート」

---

# ALOM から警告を送信するスクリプトの作成

scadm send\_event コマンドをスクリプトに組み込んで、ALOM イベントを記録したり、特定の状況が発生した場合に警告を送信したりすることができます。重要度が「高」の警告をカスタマイズして送信するには、-c オプションを使用します。詳細は、138 ページの「scadm send\_event」を参照してください。

次の例は、dmon.pl という名前の Perl スクリプトで指定のディスクパーティションが一定容量 (%) を超えたときに ALOM 警告を送信する場合を示しています。

---

**注** – このスクリプトは Netra 240 ホストサーバー用に記述されています。uname -i コマンドを使用してホストサーバーのプラットフォーム名を取得し、次の例の SUNW,Netra 240 の文字列を適宜変更してください。

---

このスクリプトを使用するには、監視する各ディスクパーティションごとに個別のエントリを crontab ユーティリティーに送信します。詳細は、crontab (1) のマニュアルページを参照してください。

コード例 3-1 send\_event のスクリプトの例

```
#!/usr/bin/perl
# Disk Monitor
# USAGE: dmon <mount> <percent>
# e.g.: dmon /usr 80
@notify_cmd = '/usr/platform/SUNW,Netra 240/sbin/scadm';
if (scalar(@ARGV) != 2)
{
print STDERR "USAGE: dmon.pl <mount_point> <percentage>\n";
print STDERR " e.g. dmon.pl /export/home 80\n\n";
exit;
}
```

```

}
open(DF, "df -k|");
$title = <DF>;
$found = 0;
while ($fields = <DF>)
{
chop($fields);
($fs, $size, $used, $avail, $capacity, $mount) = split(' ', $fields);
if ($ARGV[0] eq $mount)
{
$found = 1;
if ($capacity > $ARGV[1])
{
print STDERR "ALERT: '", $mount, "\" is at ", $capacity, \
" of capacity, sending notification\n";
$notify_msg = 'mount point "'. $mount. "' is at '. $capacity.' of capacity';
exec (@notify_cmd, 'send_event', '-c', $notify_msg) || die "ERROR: $!\n";
}
}
}
if ($found != 1)
{
print STDERR "ERROR: '", $ARGV[0],
"\" is not a valid mount point\n\n";
}
close(DF);

```

## ALOM からほかの装置へのシステムコンソールのリダイレクト

はじめてホストサーバーの電源を入れると、ALOM はシステムコンソールに出力を表示するように初期設定されます。ホストサーバーでは、SER MGT ポートは ttya と表示されます。

システムコンソールに接続する装置は、シリアル管理ポートに接続されている端末以外の装置でもかまいません。また、ホストサーバーの背面パネルにある汎用ポート (ttyb) を使用することもできます。このポートには 10101 というラベルが付いています。詳細は、サーバーのマニュアルを参照してください。

## ▼ システムコンソールをリダイレクトする

システムコンソールからの出力を ttyb にリダイレクトするには、次の手順を実行します。

1. ALOM の `sc>` プロンプトで `break` コマンドを入力して、ホストサーバーに OpenBoot PROM プロンプト (`ok`) を表示します。

kadb デバッガが構成されている場合は、`$q` と入力して kadb を終了します。コマンドの詳細は、45 ページの「break」を参照してください。

2. `sc>` プロンプトで `console` コマンドを入力し、サーバーのシステムコンソールに接続します。

```
sc> console
ok
```

このコマンドについては、46 ページを参照してください。

3. `ok` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
ok setenv input-device ttyb
ok setenv output-device ttyb
```

4. これらの変更をすぐに適用するには、`ok` プロンプトで `reset-all` と入力します。このコマンドを実行しなかった場合は、次回ホストサーバーの電源を再投入したときに変更が適用されます。

これらの変更は、次の節で示すように OpenBoot PROM の設定を手動で ALOM (ttya) に戻すまで有効です。

## ▼ デフォルトコンソールを ALOM (ttya) にリセットする

1. `ok` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
ok setenv input-device ttya
ok setenv output-device ttya
```

2. これらの変更をすぐに適用するには、`ok` プロンプトで `reset-all` と入力します。このコマンドを実行しなかった場合は、次回ホストサーバーの電源を再投入したときに変更が適用されます。

---

## ALOM 構成のバックアップ

ALOM の構成設定を記録するバックアップファイルを定期的に遠隔システムに作成する必要があります。ユーティリティーの概要については、127 ページの「scadm ユーティリティーの概要」を参照してください。次のコマンドは、scadm コマンドを使用して *remote-filename* というバックアップファイルに情報をコピーする方法を示しています。

---

**注** – これらのコマンドを使用する前に、scadm ユーティリティーへのパスを設定する必要があります。詳細は、128 ページの「scadm ユーティリティーへのパスを設定する」を参照してください。

---

```
# scadm show > remote-filename
# scadm usershow > remote-filename
#
```

ファイル名には、ALOM が制御するサーバー名を含めたわかりやすい名前を付けてください。必要があれば、あとからこのファイルを参照して設定を復元することができます。

---

## ALOM のバージョンの表示

showsc コマンドを使用すると、ALOM ソフトウェアの構成に関する情報が表示されます。

たとえば、ALOM のバージョンを表示するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showsc version
Advanced Lights Out Manager v1.3
```

詳細は、82 ページの「showsc コマンドを使用する」を参照してください。



## 第4章

---

# ALOM コマンドシェルの使用

---

この章では、次の内容について説明します。

- 37 ページの「ALOM コマンドシェルの概要」
  - 38 ページの「ALOM シェルコマンド」
  - 42 ページの「ALOM シェルコマンドの説明」
- 

## ALOM コマンドシェルの概要

ALOM コマンドシェルは、単純なコマンド行インタフェースです。ALOM コマンドシェルでは、ホストサーバーの管理や診断、制御、および ALOM の構成や管理を行うことができます。

ALOM コマンドシェルでは `sc>` プロンプトが表示されます。ALOM は 1 サーバーあたり、同時に 4 つの Telnet セッションと 1 つのシリアルセッションをサポートします。これにより、一度に 5 つのコマンドシェルを実行できます。

ALOM アカウントにログインすると、ALOM シェルプロンプト (`sc>`) が表示されます。ここで ALOM シェルコマンドを入力することができます。詳細は、32 ページの「ALOM アカウントへのログイン」および 38 ページの「ALOM シェルコマンド」を参照してください。

---

**注** - これらのコマンドには、`scadm` ユーティリティから実行できるものもあります。詳細は、127 ページの「`scadm` ユーティリティの概要」および 130 ページの「`scadm` コマンドの一覧」を参照してください。

---

## ▼ コマンドオプションを入力する

使用するコマンドに複数のオプションがある場合、次の例に示すように、各オプションを個別に入力することも、まとめて入力することもできます。次の2つのコマンドの機能は同じです。

```
sc> poweroff -f -y
sc> poweroff -fy
```

### 関連情報

- 156 ページの「ALOM シェルのエラーメッセージ」
- 32 ページの「ALOM アカウントへのログイン」
- 30 ページの「カスタマイズした警告の送信」

---

## ALOM シェルコマンド

次の表に、ALOM シェルコマンドとその機能の概要を示します。

表 4-1 機能別の ALOM シェルコマンドの一覧

CLI コマンド	概要	参照先
構成コマンド		
password	現在のユーザーのログインパスワードを変更します。	55 ページの「password」
setdate	管理対象のオペレーティングシステムが動作していないときに、日付と時刻を設定します。	63 ページの「setdate」
setdefaults [-y] [-a]	すべての ALOM 構成パラメータをデフォルト値にリセットします。-y オプションを指定すると、確認メッセージが表示されません。-a オプションを指定すると、ユーザー情報が出荷時設定にリセットされます (1 つの admin アカウントのみ)。	65 ページの「setdefaults」
setsc	指定した ALOM パラメータに、割り当てる値を設定します。	67 ページの「setsc」
setupsc	対話型構成スクリプトを実行します。このスクリプトでは、ALOM 構成変数を設定します。	68 ページの「setupsc」

表 4-1 機能別の ALOM シェルコマンドの一覧 (続き)

CLI コマンド	概要	参照先
showplatform [-v]	ホストシステムのハードウェア構成に関する情報と、そのハードウェアがサービスを提供しているかどうかを表示します。-v オプションを指定すると、表示するコンポーネントの詳細な情報が表示されます。	81 ページの「showplatform」
showfru	ホストサーバーの FRU (現場交換可能ユニット) に関する情報を表示します。	74 ページの「showfru」
showusers [-g]	現在 ALOM にログインしているユーザーの一覧を表示します。このコマンドの表示形式は UNIX コマンドの who と同様です。-g オプションを指定すると、lines で指定した行数を表示するごとに一時停止します。	84 ページの「showusers」
showsc [-v]	現在の非揮発性のランダムアクセスメモリー (NVRAM) 構成パラメータを表示します。-v オプションは詳細情報を表示する場合に必要です。	82 ページの「showsc」
showdate	ALOM に設定された日付を表示します。Solaris OS と ALOM の時間は同期していますが、ALOM の時間は現地時間ではなく、ユニバーサル時間で表示されます。	70 ページの「showdate」
usershow	すべてのユーザーのアカウントおよび権限レベル、パスワード割り当ての有無を表示します。	91 ページの「usershow」
useradd	ALOM にユーザーアカウントを追加します。	85 ページの「useradd」
userdel [-y]	ALOM からユーザーアカウントを削除します。-y オプションを指定すると、確認メッセージが表示されません。	86 ページの「userdel」
userpassword	ユーザーパスワードを設定または変更します。	87 ページの「userpassword」
userperm	ユーザーアカウントの権限レベルを設定します。	88 ページの「userperm」
<b>ログコマンド</b>		
showlogs [-v]	ALOM イベントバッファに記録されたすべてのイベントの履歴を表示します。	78 ページの「showlogs」
consolehistory [-v] [boot   run]	ホストサーバーのコンソール出力バッファを表示します。-v オプションを指定すると、指定したログの内容がすべて表示されます。	49 ページの「consolehistory」

表 4-1 機能別の ALOM シェルコマンドの一覧 (続き)

CLI コマンド	概要	参照先
<b>状態および制御コマンド</b>		
showenvironment	ホストサーバー環境の状態を表示します。表示される情報は、システムの温度、電源装置の状態、正面パネル LED の状態、ハードドライブの状態、ファンの状態、電圧や電流センサーの状態、回転式スイッチの位置などです。	71 ページの「showenvironment」
shownetwork [-v]	現在のネットワーク構成情報を表示します。-v オプションを指定すると、DHCP サーバーについての情報も含めたネットワークに関する追加情報が表示されます。	80 ページの「shownetwork」
console [-f]	ホストシステムのコンソールに接続します。-f オプションを指定すると、コンソールの書き込みロックが強制的に別のユーザーに移動します。	46 ページの「console」
break [-y]	ホストサーバー上で動作している Solaris OS を中断し、OpenBoot PROM または kadb に制御を移します。	45 ページの「break」
bootmode [skipdiag   diag   reset_nvram   normal   bootscript=" <i>string</i> "]	起動時のホストサーバーの OpenBoot PROM ファームウェアメソッドを制御します。	42 ページの「bootmode」
flashupdate	ALOM ファームウェアをアップデートします。このコマンドでは、メインファームウェアイメージおよび bootmon ファームウェアイメージを ALOM にダウンロードします。	50 ページの「flashupdate」
reset [-y] [-x]	ホストサーバーのハードウェアリセットを生成します。-x オプションを指定すると、XIR (外部強制リセット) が生成されます。-y オプションを指定すると、確認メッセージが表示されません。	60 ページの「reset」
poweroff [-y] [-f]	ホストサーバーからの主電源の供給を停止します。-y オプションを指定すると、確認メッセージが表示されません。-f オプションを指定すると、ただちに強制停止します。	56 ページの「poweroff」
poweron	ホストサーバーまたは FRU に主電源を供給します。	57 ページの「poweron」
setalarm [critical   major   minor   user] [on   off]	アラームおよび関連付けられた LED をオンまたはオフにします。	62 ページの「setalarm」
setlocator [on/off]	サーバーのロケータ LED をオンまたはオフにします。この機能はロケータ LED を装備したホストサーバーでのみ使用可能です。	66 ページの「setlocator」

表 4-1 機能別の ALOM シェルコマンドの一覧 (続き)

CLI コマンド	概要	参照先
showlocator	現在のロケータ LED のオンまたはオフの状態を表示します。この機能はロケータ LED を装備したホストサーバーでのみ使用可能です。	77 ページの「showlocator」
<b>FRU コマンド</b>		
showfru	ホストサーバーの FRU (現場交換可能ユニット) に関する情報を表示します。	74 ページの「showfru」
removefru [-y] [FRU]	FRU (電源装置など) を取り外す準備を行い、ホストシステムの取り外し可能インジケータを点灯させます。-y オプションを指定すると、確認メッセージが表示されません。	59 ページの「removefru」
<b>その他のコマンド</b>		
help	ALOM コマンドの一覧およびその構文と機能概要を表示します。	53 ページの「help」
resetsc [-y]	ALOM を再起動します。-y オプションを指定すると、確認メッセージが表示されません。	61 ページの「resetsc」
showlogs [-v]	ALOM イベントバッファに記録されたすべてのイベントの履歴を表示します。	78 ページの「showlogs」
showdate	ALOM に設定された日付を表示します。Solaris OS と ALOM の時間は同期していますが、ALOM の時間は現地時間ではなく、ユニバーサル時間で表示されます。	70 ページの「showdate」
usershow	すべてのユーザーのアカウントおよび権限レベル、パスワード割り当ての有無を表示します。	91 ページの「usershow」
useradd	ALOM にユーザーアカウントを追加します。	85 ページの「useradd」
userdel [-y]	ALOM からユーザーアカウントを削除します。-y オプションを指定すると、確認メッセージが表示されません。	86 ページの「userdel」
userpassword	ユーザーパスワードを設定または変更します。	87 ページの「userpassword」
userperm	ユーザーアカウントの権限レベルを設定します。	88 ページの「userperm」
logout	ALOM シェルのセッションからログアウトします。	54 ページの「logout」

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の使用」
- 127 ページの「scadm ユーティリティーの概要」

---

# ALOM シェルコマンドの説明

以降のページでは、ALOM シェルコマンドの説明をアルファベット順に示します。

## bootmode

ホストサーバーの初期化中またはサーバーのリセット後にホストサーバーのファームウェアの動作を制御するには、`bootmode` コマンドを使用します。

次回サーバーをリセットしたときに、`bootmode` の設定は、サーバーの **OpenBoot PROM** 診断の `diag-switch?`、`post-trigger`、および `obdiag-trigger` の設定より優先されます。10 分経ってもサーバーのリセットを検出できない場合、ALOM はこのコマンドを無視し、`bootmode` の設定をクリアして `normal` に戻します。

`bootmode` コマンドの `reset_nvram` オプションでは、**OpenBoot** の NVRAM (非揮発性読み取り専用メモリー) 変数をデフォルトに設定します。`diag-switch?` のデフォルトは次回サーバーをリセットするまで有効になりません。これは、**OpenBoot** がシステムの診断モードのスナップショットをすでに作成しているためです。このスナップショットは、回転式スイッチの位置および `diag-switch?` の値、`bootmode diag/skip_diag` の優先指定で構成されます。診断モードが設定されると、次回リセットするまでこの設定が適用されます。

- `diag-switch?` を `true` に設定すると、デフォルトの `diag-device` が起動デバイスになります。
- `diag-switch?` を `false` に設定すると、デフォルトの `boot-device` が起動デバイスになります。

## ▼ `bootmode` コマンドを使用する

---

**注** – このコマンドを使用するには、**r** レベルのユーザー権限が必要です。詳細は、88 ページの「`userperm`」を参照してください。

---

`bootmode` コマンドのすべてのオプションでは、コマンドの発行後 10 分以内にホストサーバーをリセットする必要があります。`poweroff` および `poweron` コマンド、または `reset` コマンドを 10 分以内に実行しないと、`bootmode` コマンドは無視され、`bootmode` の設定は `normal` に戻ります。詳細は、56 ページの「`poweroff`」、57 ページの「`poweron`」および 60 ページの「`reset`」を参照してください。

1. sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> bootmode option(s)
```

*option(s)* は指定するオプション (skip\_diag、diag、reset\_nvram、normal、または *bootscript = "string"*) です。

2. poweroff のあとに poweron を入力するか (推奨)、reset を入力します。

たとえば、次のように入力します。

```
sc> bootmode skip_diag
sc> poweroff
Are you sure you want to power off the system [y/n]? y
SC Alert: Host system has shut down.
sc> poweron
```

または、次のように入力します。

```
sc> bootmode reset_nvram
sc> reset
```

bootmode diag オプションを指定すると、OpenBoot PROM の post-trigger の設定にかかわらず、次回リセットしたあとに POST (電源投入時自己診断) が実行されます。また、obdiag-trigger の設定にかかわらず、次回リセットしたあとには OpenBoot 診断テストが実行されます (diag-script が none に設定されていない場合)。

## コマンドオプション

オプションを指定せずに bootmode コマンドを実行すると、ALOM は現在選択されている起動モードとその有効期限を表示します。

```
sc> bootmode [skip_diag, diag, reset_nvram, normal, bootscript="string"]
```

bootmode コマンドには次のオプションがあります。

表 4-2 bootmode コマンドオプション

オプション	説明
skip_diag	サーバーの診断を強制的にスキップします。bootmode skip_diag コマンドを実行したら、10 分以内に poweroff コマンドおよび poweron コマンドを実行する必要があります。
diag	サーバーで強制的に完全な POST 診断を実行します。bootmode diag コマンドを実行したら、10 分以内に poweroff コマンドおよび poweron コマンドを実行する必要があります。
reset_nvram	ホストシステムの OpenBoot PROM の NVRAM に設定されているすべてのパラメータを出荷時設定にリセットします。サーバーを 10 分以内にリセットする必要があります。詳細は、60 ページの「reset」を参照してください。
normal	標準設定で起動します。サーバーは低レベルの診断を実行します。bootmode normal を実行したら、サーバーをリセットする必要があります。詳細は、60 ページの「reset」を参照してください。
bootscript = "string"	起動時のホストサーバーの OpenBoot PROM ファームウェアメソッドを制御します。現在の bootmode の設定には影響しません。string の長さは最大 64 バイトです。同じコマンドで bootmode と bootscript を設定できます。次に例を示します。 <pre>sc&gt; bootmode reset_nvram bootscript = "setenv diag-switch? true"</pre> <pre>SC Alert: SC set bootmode to reset_nvram, will expire 20030305211833</pre> <pre>SC Alert : SC set bootscript to "setenv diag-switch? true"</pre> サーバーをリセットして OpenBoot PROM が bootscript に保存されている値を読み取ると、OpenBoot PROM の変数 diag-switch? にユーザーが指定した true が設定されます。 <b>注意:</b> bootmode bootscript = "" を設定すると、bootscript の値は空になります。 bootmode の設定を表示するには、次のように入力します。 <pre>sc&gt; bootmode</pre> <pre>Bootmode : reset_nvram</pre> <pre>Expires WED MAR 05 21:18:33 2003</pre> <pre>bootscript="setenv diagswitch? true"</pre>

## 関連情報

- 38 ページの「ALOM シェルコマンド」
- 60 ページの「reset」
- 18 ページの「システムコンソールと ALOM との切り替え」



## break

サーバーに OpenBoot PROM プロンプト (ok) を表示するには、break コマンドを使用します。kadb デバッガが構成されている場合は、break コマンドを実行するとサーバーがデバッグモードになります。

サーバーの正面パネルの回転式スイッチがロック位置に設定されていないこと、およびシステムコンソールが ALOM に接続されていることを確認してください。詳細は、4 ページの「プラットフォーム固有情報」を参照してください。正面パネルの回転式スイッチがロック位置に設定されていると、エラーメッセージ「Error: Unable to execute break as system is locked」が表示されます。

### ▼ break コマンドを使用する

---

注 – このコマンドを使用するには、c レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「userperm」を参照してください。

---

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> break option
```

指定可能な *option* は *-y* です。

break コマンドを入力すると、サーバーから ok プロンプトが返されます。

### コマンドオプション

break コマンドのオプションは *-y* のみです。

*-y* を指定すると、「Are you sure you want to send a break to the system [y/n]？」という確認メッセージを表示せずに処理が中断されます。

### 関連情報

- 38 ページの「ALOM シェルコマンド」
- 88 ページの「userperm」

## console

console モードに入り、ALOM コマンドシェルからシステムコンソールに接続するには、console コマンドを使用します。このコマンドを実行すると、標準の Solaris ログインプロンプトが表示されます。システムコンソールを終了して ALOM コマンドシェルに戻るには、**#.** (ハッシュ記号とピリオド) を入力します。

複数のユーザーが ALOM からシステムコンソールに接続できますが、コンソールへの書き込みアクセスが許可されるのは一度に 1 ユーザーのみです。ほかのユーザーが入力した文字は無視されます。これは「書き込みロック」と呼ばれます。この場合、ほかのユーザーセッションは「読み取り専用モード」でコンソールセッションを参照することになります。システムコンソールにアクセスしているユーザーがほかにいない場合は、コンソールセッションに最初に接続したユーザーが console コマンドを実行すると、自動的に書き込みロックを取得することになります。ほかのユーザーが書き込みロック中の場合は、**-f** オプションを指定して強制的に書き込みロックを取得することができます。この場合、ほかのユーザーの接続は強制的に読み取り専用モードに切り替わります。

---

**注** - **-f** オプションを使用する前に、ホストサーバー上で OpenBoot PROM と Solaris オペレーティングシステムの両方の変数を構成しておく必要があります。OpenBoot PROM および Solaris オペレーティングシステムの構成については、48 ページの「**-f** オプションを構成する」を参照してください。

---

### ▼ console コマンドを使用する

---

**注** - このコマンドを使用するには、**c** レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「**userperm**」を参照してください。

---

1. `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> console option
```

必要に応じて、`option` には **-f** を指定します。

Solaris のシステムプロンプトが表示されます。

---

**注** - 表示される Solaris システムプロンプトは、ホストサーバーのデフォルトの Solaris シェルによって異なります。詳細は、xvii ページの「シェルプロンプトについて」を参照してください。

---

2. Solaris システムプロンプトから `sc>` プロンプトに戻るには、エスケープ文字シーケンスを入力します。

デフォルトシーケンスは `#.` (ハッシュ記号とピリオド) です。

`admin` アカウントが書き込みロック中の場合、`console` コマンドの出力結果には次のメッセージが表示されます。

```
sc> showusers
Username      Connection    Login Time    Client IP Addr  Console
-----
admin         serial       Nov 13 6:19   system
jeff          net-1        Nov 13 6:20   xxx.xxx.xxx.xxx
sc> console
Enter #. to return to ALOM.
%
```

書き込みロック中でない場合、`console` コマンドの結果には次のように別のメッセージが表示されます。

```
sc> console
Console session already in use. [view mode]
Enter #. to return to ALOM.
%
```

書き込みロック中でない場合に、`console` コマンドに `-f` オプションを指定して実行すると、`console` コマンドの結果には次のようなメッセージが表示されます。

```
sc> console -f
Warning: User <admin> currently has write permission to this
console and forcibly removing them will terminate any current write
actions and all work will be lost. Would you like to continue?
[y/n]
```

## コマンドオプション

console コマンドのオプションは `-f` のみです。このオプションでは、ほかのユーザーの書き込みロックを強制的に解放し、自分のコンソールセッションに割り当てます。これにより、ほかのユーザーのコンソールセッションは読み取り専用モードになります。このオプションを指定すると、次のメッセージが表示されます。

```
Warning: User username currently has write permission to this
console and forcibly removing them will terminate any current write
actions and all work will be lost. Would you like to continue
[y/n]?
```

また、書き込みロック中のユーザーには次のメッセージが表示されます。

```
Warning: Console connection forced into read-only mode.
```

### ▼ `-f` オプションを構成する

console コマンドで `-f` オプションを使用する前に、ホストサーバー上で OpenBoot PROM と Solaris オペレーティングシステムの両方を構成する必要があります。

1. OpenBoot PROM 変数を構成するには、ok プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
ok setenv ttya-ignore-cd false
```

ok プロンプトを表示する方法については、サーバーの管理マニュアルを参照してください。

2. 次に、Solaris オペレーティングシステムを構成する必要があります。スーパーユーザーでログインし、スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。2 番目のコマンドは、この例では 3 行で示されていますが、すべて 1 行で入力してください。

```
# pmadm -r -p zsmon -s ttya
# pmadm -a -p zsmon -s ttya -i root -fu -m
"/dev/term/a:I::/usr/bin/login::9600:ldterm,ttcompat:ttya login\:
::tvi925:n:" -v 1
```

## 関連情報

- 38 ページの「ALOM シェルコマンド」

- 89 ページの「権限レベル」
- 95 ページの「シリアル管理ポート変数」

## consolehistory

ALOM バッファにログインされたシステムコンソールメッセージを表示するには、`consolehistory` コマンドを使用します。次のシステムコンソールログを参照できます。

- **boot ログ** – このログには、最後にリセットしたあとでホストサーバーから受信した POST、OpenBoot PROM、および Solaris の起動メッセージが記録されています。
- **run ログ** – このログには、POST、OpenBoot PROM、および Solaris 起動メッセージからの最新のコンソール出力が記録されています。また、ホストサーバーのオペレーティングシステムからの出力も記録されています。

各バッファには最大 64K バイトの情報を記録できます。

ホストサーバーのリセットを感知すると、ALOM はデータを boot ログバッファに書き込み始めます。Solaris オペレーティングシステムが起動され動作していることをサーバーが感知すると、ALOM はバッファを run ログに切り替えます。

### ▼ consolehistory コマンドを使用する

---

**注** – このコマンドを使用するには、**c** レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「`userperm`」を参照してください。

---

- `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> consolehistory logname option(s)
```

`logname` は表示するログの名前 (boot または run) です。オプションを指定せずに `consolehistory` コマンドを実行すると、ALOM は run ログの最後の 20 行を返します。

---

**注** – コンソールログに記録されているタイムスタンプはサーバーの時間を反映しています。このタイムスタンプは現地時間を反映していますが、ALOM イベントログではユニバーサル時間を使用しています。Solaris オペレーティングシステムはシステム時間と ALOM 時間の同期をとります。

---

## コマンドオプション

consolehistory コマンドの 2 つのログには次のオプションがあります。-g オプションと -b、-e、または -v の各オプションを組み合わせることもできます。-g オプションを指定しない場合、画面出力は一時停止しません。

表 4-3 consolehistory コマンドオプション

オプション	説明
-b lines	ログバッファの先頭から表示する行数を指定します。次に例を示します。 consolehistory boot -b 10
-e lines	ログバッファの最後から表示する行数を指定します。このコマンドの実行中にログに新しいデータが記録された場合、この新しいデータは画面出力に追加されます。次に例を示します。 consolehistory run -e 15
-g lines	画面出力を一時停止する前に表示する行数を指定します。一時停止するたびに、メッセージ「Paused: Press 'q' to quit, any other key to continue.」が表示されます。次に例を示します。 consolehistory run -v -g 5
-v	指定したログの内容をすべて表示します。

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## flashupdate

flashupdate コマンドを使用して、指定した場所から新しいバージョンの ALOM ファームウェアをインストールします。コマンドオプションで入力する値によって、ダウンロードするサイトの IP アドレスと、ファームウェアイメージを保存する場所のパスを指定します。

ALOM 製品ページのダウンロードサイトへのリンクは、次のサイトを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/alom.html>

ALOM ファームウェアイメージには、メインファームウェアと bootmon (起動監視) ファームウェアの 2 種類があります。bootmon ファームウェアは低レベルのブートストラップイメージです。flashupdate コマンドを使用する前に、適切なイメージの場所を確認してください。



---

**注意** – ファームウェアのアップデート処理中に、`scadm resetrsc` コマンドを使用しないでください。ALOM をリセットする必要がある場合は、アップデートが完了するまで待ってください。アップデート中に `scadm resetrsc` コマンドを使用すると、ALOM ファームウェアに障害が発生し、使用できなくなる場合があります。詳細は、137 ページの「`scadm resetrsc`」を参照してください。

---

## ▼ flashupdate コマンドを使用する

---

**注** – このコマンドを使用するには、**a** レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「`userperm`」を参照してください。

---

このコマンドを使用するには、次の情報が必要です。

- ファームウェアイメージをダウンロードするサーバーの IP アドレス
- イメージを保存する場所のパス
- プロンプトに入力するユーザー名とパスワード

これらの情報が不明な場合はネットワーク管理者に問い合わせてください。サーバーの正面パネルに回転式スイッチが付いている場合は、コマンドを開始する前に、回転式スイッチが標準 (ロックされていない状態) の位置に設定されていることを確認してください。回転式スイッチがロック (ロックされた状態) の位置に設定されている状態でこのコマンドを実行すると、ファームウェアのアップデートは失敗します。正面パネルの回転式スイッチの詳細は、サーバーのマニュアルを参照してください。

1. `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。 `ipaddr` にはファームウェアイメージが保存されているサーバーの IP アドレス、 `pathname` にはパス名を指定します。
  - メインファームウェアイメージの場合は、次のようにコマンドを入力します。

```
sc> flashupdate -s ipaddr -f pathname/alommainfw
```

- bootmon イメージの場合は、次のようにコマンドを入力します。

```
sc> flashupdate -s ipaddr -f pathname/alombootfw
```

---

**注** – `pathname` に使用するパスは `/usr/platform/platform-name/lib/images/(alommainfw|alombootfw)` です。 `platform-name` の適切な値を調べるには、 `uname -i` コマンドを使用します。詳細は、128 ページの「`scadm ユーティリティーへのパスを設定する`」を参照してください。

---

2. プロンプトが表示されたら、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザー名とパスワードは、ALOM ではなく UNIX または LDAP に基づいたものを入力します。

ユーザー名とパスワードを入力すると、ダウンロード処理が続行します。ダウンロード中には、連続したピリオドが画面に表示されます (-v オプションを選択すると、ダウンロード処理中に状態メッセージが表示されます)。ダウンロードが終了すると、「Update complete」というメッセージが表示されます。

3. `resetsc` コマンドを入力して ALOM をリセットします。

詳細は、61 ページの「`resetsc`」を参照してください。

次に例を示します (`xxx.xxx.xxx.xxx` を有効な IP アドレスに置き換えます)。

```
sc> flashupdate -s xxx.xxx.xxx.xxx -f
/usr/platform/SUNW,Netra240/lib/images/alommainfw
Username: joeuser
Password: *****
.....
Update complete. To use the new image the device will need to be
reset using 'resetsc'.
sc>
```

## コマンドオプション

`flashupdate` コマンドには次のオプションがあります。

表 4-4 `flashupdate` コマンドオプション

オプション	説明
-s <i>ipaddr</i>	ファームウェアイメージを <i>ipaddr</i> にあるサーバーからダウンロードするよう ALOM に指示します。 <i>ipaddr</i> は 123.456.789.012 などの標準的なドット表記の IP アドレスです。
-f <i>pathname</i>	ALOM にイメージファイルの保存場所を指示します。 <i>pathname</i> は /files/ALOM/fw/alommainfw のようなイメージファイルの名前を含めたフルディレクトリパスです。
-v	詳細出力を表示します。このオプションを指定すると、ダウンロードの進行状況に関する詳細情報が表示されます。

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」



# help

help コマンドを使用すると、すべての ALOM コマンドの一覧と各コマンドの構文が表示されます。

## ▼ help コマンドを使用する

---

注 – このコマンドの使用にはユーザー権限は不要です。

---

- 次のいずれかを実行します。

- 使用可能なコマンドのヘルプを表示するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc > help
```

- 特定のコマンドのヘルプを表示するには、sc> プロンプトで help とコマンド名を入力します。

```
sc> help command-name
```

*command-name* は指定する特定のコマンド名です。

次に例を示します。

```
sc> help poweron  
This command applies power to the managed system or FRU and turns  
off ok-2-remove LED on FRU with FRU option.  
sc>
```

コマンドを指定せずに help を入力した場合の出力例を次に示します。

### コード例 4-1 help コマンドの出力例

```
sc> help  
Available commands  
-----  
poweron [FRU]  
poweroff [-y] [-f] r  
removefru [-y] [FRU]  
reset [-y] [-x]  
break [-y]
```

#### コード例 4-1 help コマンドの出力例 (続き)

```
bootmode [normal|reset_nvram|diag|skip_diag]
console [-f]
consolehistory [-b lines|-e lines] [-g lines] [-v] [boot|run]
showlogs [-b lines|-e lines] [-g lines] [-v]
setlocator [on|off]
showlocator
showenvironment
showfru
showplatform [-v]
showsc [-v] [param]
shownetwork [-v]
setsc [param] [value]
setalarm <alarm> [on | off]
setupsc
showdate
setdate [[mmdd] HHMM | mdddHHMM[cc]yy] [.SS]
resetsc [-y]
flashupdate [-s IPaddr -f pathname] [-v]
setdefaults [-y] [-a]
useradd username
userdel [-y] username
usershow username
userpassword username
userperm username [c] [u] [a] [r]
password
showusers [-g lines]
logout
help command
sc>
```

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## logout

logout コマンドを使用して、ALOM セッションを終了し、ALOM シリアル接続または Telnet 接続をクローズします。

## ▼ logout コマンドを使用する

---

注 – このコマンドの使用にはユーザー権限は不要です。

---

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> logout
```

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## password

現在ログインしているアカウントの ALOM パスワードを変更するには、`password` コマンドを使用します。このコマンドは、UNIX の `passwd(1)` コマンドと同じ機能です。

## ▼ password コマンドを使用する

---

注 – このコマンドを使用すると、ユーザー固有の ALOM アカウントのパスワードを変更できます。このコマンドの使用にはユーザー権限は不要です。管理者がユーザーのパスワードを変更する場合は、`userpassword` コマンドを使用します。詳細は、87 ページの「`userpassword`」を参照してください。

---

- sc> プロンプトで `password` と入力します。

このコマンドを実行すると、現在のパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。正しいパスワードを入力すると、新しいパスワードの入力を 2 回要求されます。

次に例を示します。

```
sc> password  
password: Changing password for username  
Enter current password: *****  
Enter new password: *****  
Re-enter new password: *****  
sc>
```

## パスワードの制限

パスワードには次の制限があります。

- 6～8文字で指定する必要があります。
- 2文字以上の英字(大文字または小文字)と1文字以上の数字または特殊文字を使用する必要があります。
- ログイン名と同じものは使用できません。また、ログイン名の文字を逆にしたり並べ変えたものも使用できません。照合には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。
- 古いパスワードと3文字以上異なるものにする必要があります。照合には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## poweroff

ホストサーバーの電源を切ってスタンバイモードにするには、`poweroff` コマンドを使用します。サーバーの電源がすでに切断されている場合、このコマンドは機能しません。ただし、ALOM はサーバーのスタンバイ電源を使用しているため、サーバーの電源が切断されていても機能し続けます。スタンバイモードでは、一部の環境情報が参照できません。

### ▼ poweroff コマンドを使用する

---

**注** – このコマンドを使用するには、**r** レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「`userperm`」を参照してください。

---

- `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> poweroff option(s)
```

`option(s)` は、必要に応じて指定するオプションです。

オプションを指定せずに `poweroff` コマンドを実行すると、Solaris オペレーティングシステムの正常な停止を開始します。この機能は、Solaris の `shutdown`、`init`、または `uadmin` コマンドと同様です。

poweroff コマンドでシステムが完全に停止するまで最長で 65 秒かかる場合があります。これは、正常な停止が完了するまで ALOM が待機してから、システムの電源を切るためです。

---

**注** – poweroff コマンドによってシステムが停止すると、次のメッセージが表示されます。

---

```
SC Alert: Host system has shut down.
```

このメッセージが表示されるまで待機してから、システムの電源を再投入してください。

## コマンドオプション

poweroff コマンドには次のオプションがあります。両方のオプションを同時に使用することも可能です。詳細は、38 ページの「コマンドオプションを入力する」を参照してください。

表 4-5 poweroff コマンドオプション

オプション	説明
-f	ホストの状態に関係なく、ただちに強制停止します。Solaris OS の停止が失敗した場合は、このオプションを使用してすぐにシステムの電源を切ってください。このコマンドの機能は Solaris OS の halt コマンドと同様です。つまり、システムの正常な停止やファイルシステムの同期は行いません。
-y	操作中に「Are you sure you want to power off the system?」という確認メッセージが表示されないようにします。

## 関連情報

- 38 ページの「ALOM シェルコマンド」
- 42 ページの「bootmode」
- 57 ページの「poweron」

## poweron

サーバーの電源を入れるには、poweron コマンドを使用します。ホストサーバーの回転式スイッチがロック位置に設定されている場合、またはサーバーの電源がすでに入っている場合、このコマンドは機能しません。

## ▼ poweron コマンドを実行する

---

注 – このコマンドを使用するには、**r** レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「userperm」を参照してください。

---

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> poweron
```

---

注 – poweroff コマンドを使用してホストサーバーの電源を切ると、次のメッセージが表示されます。

---

```
SC Alert: Host system has shut down.
```

このメッセージが表示されるまで待機してから、システムの電源を再投入してください。

- サーバーの特定の FRU の電源を入れるには、次のコマンドを入力します。

```
sc> poweron fru
```

*fru* には、電源を入れる FRU の名前を指定します。

たとえば、電源装置 0 の電源を入れるには、次のように入力します。

```
sc> poweron PS0
```

## コマンドオプション

poweron コマンドのオプションは *fru* のみです。

*fru* オプションを指定すると、指定した FRU の電源が入ります。たとえば、ホストサーバーの電源装置を交換する際に、このコマンドを使用できます。ALOM では、次の FRU をサポートしています。

表 4-6 poweron での FRU の値

値	説明
PS0	ホストサーバーの電源装置 0 の電源を入れます。
PS1	ホストサーバーの電源装置 1 の電源を入れます。

## 関連情報

- 38 ページの「ALOM シェルコマンド」
- 42 ページの「bootmode」
- 56 ページの「poweroff」

## removefru

FRU を取り外す準備を行い、ホストサーバー上の該当する取り外し可能 LED を点灯させるには、`removefru` コマンドを使用します。取り外し可能 LED の位置については、サーバーのマニュアルを参照してください。

### ▼ removefru コマンドを使用する

- `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> removefru fru
```

*fru* には取り外すための準備を行う FRU の名前を指定します。

たとえば、電源装置 0 を取り外す準備を行うには、次のように入力します。

```
sc> removefru PS0
```

## コマンドオプション

`removefru` コマンドのオプションは *fru* のみです。

*fru* オプションを指定すると、指定の FRU を取り外す準備を行います。ALOM は次の FRU をサポートしています。

表 4-7 `removefru` での FRU の値

値	説明
PS0	ホストサーバーの電源装置 0 を取り外す準備を行います。
PS1	ホストサーバーの電源装置 1 を取り外す準備を行います。

## reset

ホストサーバーをすぐに強制リセットするには、`reset` コマンドを使用します。サーバーは、`bootmode` コマンドで指定したオプション (ある場合) を使用して再起動します。詳細は、42 ページの「`bootmode`」を参照してください。`reset` コマンドではシステムの正常な停止を行わないため、データが失われる可能性があります。できるかぎり、Solaris オペレーティングシステムからサーバーをリセットするようにしてください。

OpenBoot PROM の `auto-boot?` 変数が `false` に設定されていると、サーバーで Solaris オペレーティングシステムを起動して、操作を再開する必要がある場合があります。

### ▼ `reset` コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、`r` レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「`userperm`」を参照してください。

- `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> reset option(s)
```

`option(s)` は指定するオプションです。



## コマンドオプション

reset コマンドには次のオプションがあります。両方のオプションを同時に使用することも可能です。詳細は、37 ページの「ALOM コマンドシェルの概要」を参照してください。

表 4-8 reset コマンドオプション

オプション	説明
-x	サーバーの XIR (外部強制リセット) と同様の機能です。XIR が発生するとサーバーは OpenBoot PROM モードに変わり、ok プロンプトが表示されます。このオプションではサーバーのメモリーやレジスタの内容の多くが保存されるため、ドライバやカーネルのデバッグに便利です。
-y	操作中に「Are you sure you want to power off the system?」という確認メッセージが表示されないようにします。

## 関連情報

- 38 ページの「ALOM シェルコマンド」
- 89 ページの「権限レベル」

## resetsc

resetsc コマンドは ALOM のハードリセットを行う場合に使用します。これにより、現在のすべての ALOM セッションが終了します。

### ▼ resetsc コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「userperm」を参照してください。

1. リセットするには、次のコマンドを入力します。

```
sc> resetsc option
```

指定可能な *option* は -y です。

コマンドを実行すると、次のメッセージが表示されます。

```
Are you sure you want to reset the SC [y/n]?
```

2. 処理を続けるには **y** と入力し、ALOM のリセットを中止するには **n** と入力します。

## コマンドオプション

resetsc コマンドのオプションは **-y** のみです。

**-y** オプションを使用すると、確認メッセージを表示せずにリセットが行われます。

## 関連情報

- 38 ページの「ALOM シェルコマンド」
- 89 ページの「権限レベル」
- 150 ページの「reset-sc コマンド」

## setalarm

setalarm コマンドは、Netra 240 サーバーのアラーム (4 つのドライ接点アラームリレーと 4 つの対応する LED インジケータ) を制御する場合に使用します。

アラームには次の 4 種類があります。

- Critical (高)
- Major (中)
- Minor (低)
- User (ユーザー)

システムの状態に応じて、これらのアラームを設定または解除できます。

## ▼ setalarm コマンドを使用する

---

注 – このコマンドを使用するには、**a** レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「userperm」を参照してください。

---

- **sc>** プロンプトで、**setalarm** とオプション (**critical**、**major**、**minor**、または **user**) を入力し、その後 **on** または **off** を入力します。

たとえば、Critical (高) のアラームをオンにするには、次のように入力します。

```
sc> setalarm critical on
```

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## setdate

ALOM の現在の日付と時間を設定するには、setdate コマンドを使用します。

サーバーの起動時に ALOM の現在の日付と時間が設定されます。また、動作中にも定期的に ALOM の日付と時間が設定されます。サーバーの起動時または動作中に setdate コマンドを使用しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。

```
sc> setdate 1200
Error: Unable to set clock while managed system OS is running.
```

setdate コマンドは、サーバーが OpenBoot PROM の状態か、電源が切断されている状態である場合のみ機能します。

---

注 – OpenBoot PROM の状態で日付を設定する場合は、break コマンドを使用して OpenBoot PROM に切り替えても、ALOM の日付は設定できません。OpenBoot PROM の状態で ALOM の日付を設定するには、OpenBoot PROM auto-boot? 変数を false に設定してから、ホストサーバーをリセットします。

---

## ▼ setdate コマンドを使用する

---

注 – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「userperm」を参照してください。

---

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setdate mmdDHHMMccyy.SS
```

このコマンドでは世紀、年、月、日、時、分、秒の設定が可能です。年、月、日を省略すると、現在の日付の値がデフォルトで使用されます。世紀や秒の値も省略可能です。

---

**注** – サーバーは現地時間を使用しますが、ALOM はユニバーサル時間を使用します。ALOM ではタイムゾーンの変換や夏時間の変更はサポートしていません。

---

次の例では、時間を 2003 年 9 月 16 日 21 時 45 分 (午後 9 時 45 分) (UTC) に設定しています。

```
sc> setdate 091621452003
MON SEP 16 21:45:00 2003 UTC
```

次の例では、時間を現在年の 9 月 16 日 21 時 45 分 (午後 9 時 45 分) (UTC) に設定しています。

```
sc> setdate 09162145
MON SEP 16 21:45:00 2003 UTC
```

次の例では、時間を現在年月日の 21 時 45 分 (午後 9 時 45 分) (UTC) に設定しています。

```
sc> setdate 2145
MON SEP 16 21:45:00 2003 UTC
```

## コマンドオプション

setdate コマンドには次のオプションがあります。

表 4-9 setdate コマンドオプション

オプション	説明
mm	月
dd	日
HH	時 (24 時間制)
MM	分

表 4-9 setdate コマンドオプション (続き)

オプション	説明
.SS	秒
cc	世紀 (年の上 2 桁)
YY	年 (年の下 2 桁)

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## setdefaults

setdefaults コマンドは、すべての ALOM 構成変数を出荷時設定の値に戻す場合に使用します。-a オプションを指定すると、ALOM 構成とすべてのユーザーの情報が出荷時設定に戻ります。

### ▼ setdefaults コマンドを使用する

注 – このコマンドを使用するには、**a** レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「userperm」を参照してください。権限レベルのコマンドを実行するにはパスワードを設定する必要があります。

1. sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setdefaults option(s)
```

option(s) は指定するオプションです。

「Please reset your ALOM」というメッセージが表示されます。

2. resetsc コマンドを実行して ALOM をリセットします。

ALOM がリセットされると、値は出荷時設定に戻ります。次に例を示します。

```
sc> setdefaults  
Are you sure you want to reset the SC configuration [y/n]? y  
Note: Please reset your ALOM to make the new configuration active.
```

```
sc> setdefaults -a
Are you sure you want to reset the SC configuration and users
[y/n]? y
Note: Please reset your ALOM to make the new configuration active.
```

## コマンドオプション

setdefaults コマンドには次のオプションがあります。

表 4-10 setdefaults コマンドオプション

オプション	説明
-a	すべての ALOM 構成変数が出荷時設定に戻り、ユーザーのアカウントおよび構成情報もクリアされます。システム上に残るアカウントは、パスワードが指定されていない admin ユーザーアカウントだけです。
-y	操作中に「Are you sure you want to reset the SC configuration?」という確認メッセージが表示されないようにします。

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## setlocator

ホストサーバーのロケータ LED をオンまたはオフにするには、setlocator コマンドを使用します。ロケータ LED の詳細は、サーバーのマニュアルを参照してください。

### ▼ setlocator コマンドを使用する

注 – このコマンドの使用にはユーザー権限は不要です。

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setlocator option
```

*option* は on または off のいずれかです。

次に例を示します。

```
sc> setlocator on
sc> setlocator off
```

ロケータ LED の状態を表示するには、showlocator コマンドを使用します。詳細は、77 ページの「showlocator」を参照してください。

## コマンドオプション

setlocator コマンドには、on と off の 2 つのオプションがあります。

## 関連情報

- 38 ページの「ALOM シェルコマンド」
- 77 ページの「showlocator」

## setsc

ALOM ソフトウェアはホストサーバーにプリインストールされているため、サーバーの電源を入れるとすぐに実行することができます。インストール環境に合わせて ALOM の構成をカスタマイズするには、setupsc コマンドを使用して初期構成を設定します。ALOM の初期構成を設定したあとでその設定を更新する必要がある場合は、setsc コマンドを使用します。構成に関する詳細は、5 ページの「ALOM の構成手順」を参照してください。setupsc コマンドの詳細は、68 ページの「setupsc」を参照してください。

---

**注** – setsc コマンドを実行するスクリプトを作成して、複数の変数 (すべてのイベント変数など) を設定することができます。

---

## ▼ setsc コマンドを使用する

---

**注** – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「userperm」を参照してください。

---

コマンドを実行する前に、構成テーブルが存在することと、変更する各構成変数に指定されている値に間違いがないことを確認してください。詳細は、11 ページの「構成ワークシート」および 93 ページの「ALOM 構成変数の使用」を参照してください。

- `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc variable value
```

*variable* には構成変数、*value* には構成変数の値を指定します。

次に例を示します。

```
sc> setsc netsc_ipaddr xxx.xxx.xxx.xxx
```

*xxx.xxx.xxx.xxx* には、有効な IP アドレスを指定します。

設定する変数に複数の値を指定する場合は、空白文字で区切って値を入力します。`setsc` コマンドはスクリプトとコマンドプロンプトの両方で使用するように設計されているため、変数に値を入力しても情報は返されません。

構成変数を指定せずに `setsc` コマンドを実行すると、設定できる変数の一覧が表示されます。

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## setupsc

ALOM をカスタマイズするには、`setupsc` コマンドを使用します。

コマンドを実行する前に、構成テーブルが存在することと、変更する各構成変数に指定されている値に間違いがないことを確認してください。詳細は、11 ページの「構成ワークシート」および 93 ページの「ALOM 構成変数の使用」を参照してください。

### ▼ setupsc コマンドを使用する

---

**注** – このコマンドを使用するには、a レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「userperm」を参照してください。

---



1. `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

設定スクリプトが開始されます。

2. 次のいずれかの方法で、スクリプトを終了します。

- 変更を保存してスクリプトを終了する場合は、**Ctrl-Z** を入力します。
- 変更を保存せずにスクリプトを終了する場合は、**Ctrl-C** を入力します。

スクリプトの開始例を次に示します。

```
sc> setupsc
Entering interactive script mode. To exit and discard changes to
that point, use Ctrl-C or to exit and save changes to that point,
use Ctrl-Z.
```

ALOM をカスタマイズするには、対話型の質問に答えます。

各構成変数を有効にするかどうかを問い合わせるメッセージが表示されます。詳細は、93 ページの「ALOM 構成変数の使用」を参照してください。

- 変数を有効にして、その値を設定できるようにする場合は、**y** と入力します。
- 括弧内のデフォルト値を使用する場合は、**Return** を押します。
- 変数を無効にして次に進む場合は、**n** と入力します。

次に例を示します。

```
Should the SC network interface be enabled [y]?
```

**y** を入力するか、**Return** を押してデフォルト値を確定すると、`setupsc` スクリプトから変数の値の入力を求めるプロンプトが表示されます。このスクリプトでは、次の種類の変数を設定できます。

- 95 ページの「シリアル管理ポート変数」
- 95 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 96 ページの「管理対象システムのインタフェース変数」
- 97 ページの「ネットワーク管理および通知変数」
- 98 ページの「システムユーザー変数」

---

**注** – シリアルインタフェース変数は設定したり変更したりする必要はありません。これは、ホストサーバーによって自動的に設定されます。

---

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の使用」
- 38 ページの「ALOM シェルコマンド」
- 11 ページの「構成ワークシート」
- 5 ページの「ALOM の構成」

## showdate

ALOM の現在の日付と時間を表示するには、`showdate` コマンドを使用します。

ALOM はユニバーサル時間を表示し、ホストサーバーは現地の日付と時間を表示します。

### ▼ showdate コマンドを使用する

---

注 – このコマンドの使用にはユーザー権限は不要です。

---

- `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showdate
```

次に例を示します。

```
sc> showdate
MON SEP 16 21:45:00 2002 UTC
```

ALOM の日付と時間を変更するには、`setdate` コマンドを使用します。詳細は、63 ページの「`setdate`」を参照してください。

---

注 – サーバーの起動時に、サーバーと ALOM の現在の日付と時間の同期がとられません。

---

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

# showenvironment

サーバーの環境状態のスナップショットを表示するには、`showenvironment` コマンドを使用します。このコマンドで表示される情報は、システムの温度、ハードドライブの状態、電源装置やファンの状態、正面パネル LED の状態、回転式スイッチの位置、電圧や電流センサーの状態、警告状態などです。このコマンドの結果は、UNIX コマンドの `prtdiag(1M)` と同じ形式で出力されます。

## ▼ showenvironment コマンドを使用する

---

注 – このコマンドの使用にはユーザー権限は不要です。

---

- `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showenvironment
```

表示される出力結果はホストサーバーのモデルや構成によって異なります。スタンバイモードでは、一部の環境情報を参照できない場合があります。

ホストサーバーの電源が投入されている場合の出力例を次に示します。

### コード例 4-2 showenvironment コマンドの出力例

```
sc> showenvironment

===== Environmental Status =====

-----
System Temperatures (Temperatures in Celsius):
-----
Sensor          Status    Temp LowHard LowSoft LowWarn HighWarn HighSoft
HighHard
-----
MB.P0.T_CORE    OK        68   --    --    --    110    115
  118
MB.P1.T_CORE    OK        50   --    --    --    110    115
  118
MB.T_ENC        OK        24  -11   -9   -7    57     60
  63

-----
Front Status Panel:
-----
Keyswitch position: UNKNOWN
```

コード例 4-2 showenvironment コマンドの出力例 (続き)

```

-----
System Indicator Status:
-----
MB.LOCATE          MB.SERVICE          MB.ACT
-----
OFF                OFF                  ON
-----

System Disks:
-----
Disk  Status          Service  OK2RM
-----
HDD0  OK                OFF      OFF
HDD1  OK                OFF      OFF
-----

Fans (Speeds Revolution Per Minute):
-----
Sensor            Status          Speed  Warn  Low
-----
F2.RS             OK              3668  2000  2000
F3.RS             OK              3729  2000  2000
MB.P0.F0.RS      OK              3629  2000  2000
MB.P0.F1.RS      OK              3688  2000  2000
-----

Voltage sensors (in Volts):
-----
Sensor            Status          Voltage LowSoft LowWarn HighWarn HighSoft
-----
MB.P0.V_CORE      OK              1.45   --    1.26   1.54   --
MB.P1.V_CORE      OK              1.45   --    1.26   1.54   --
MB.V_VTT          OK              1.23   --    1.17   1.43   --
MB.V_GBE_+2V5     OK              2.48   --    2.25   2.75   --
MB.V_GBE_CORE     OK              1.20   --    1.08   1.32   --
MB.V_VCCTM        OK              2.55   --    2.25   2.75   --
MB.V_+2V5         OK              2.47   --    2.34   2.86   --
MB.V_+1V5         OK              1.51   --    1.35   1.65   --
MB.BAT.V_BAT      OK              3.45   --    2.70   --    --
-----

Power Supply Indicators:
-----
Supply  Active  Service  OK-to-Remove
-----
PS0     ON      OFF      OFF
PS1     ON      OFF      OFF
-----

Power Supplies:
-----
Supply  Status          Underspeed Overtemp  Overvolt  Undervolt

```

コード例 4-2 showenvironment コマンドの出力例 (続き)

```

Overcurrent
-----
PS0      OK                OFF      OFF      OFF      OFF      OFF
PS1      OK                OFF      OFF      OFF      OFF      OFF

-----
Current sensors:
-----
Sensor           Status
-----
MB.FF_SCSI       OK

-----
System Alarms:
-----
Alarm              Relay          LED
-----
ALARM.CRITICAL    OFF            OFF
ALARM.MAJOR       OFF            OFF
ALARM.MINOR       OFF            OFF
ALARM.USER        OFF            OFF

```

ホストサーバーの電源が切断されているときに表示される環境情報を次に示します。

コード例 4-3 showenvironment コマンドの出力例 (サーバーの電源が切断されている場合)

```

sc> showenvironment

===== Environmental Status =====

-----
System Temperatures (Temperatures in Celsius):
-----
Sensor           Status      Temp LowHard LowSoft LowWarn HighWarn HighSoft
HighHard
-----
CPU temperature information cannot be displayed when System power is off.
MB.T_ENC         OK          22    -11    -9     -7     57     60
63

-----
Front Status Panel:
-----
Keyswitch position: UNKNOWN

-----
System Indicator Status:
-----

```

コード例 4-3 showenvironment コマンドの出力例 (サーバーの電源が切断されている場合) (続き)

```
MB.LOCATE          MB.SERVICE          MB.ACT
-----
OFF                OFF                  OFF

Disk Status information cannot be displayed when System power is off.

Fan Status information cannot be displayed when System power is off.

Voltage Rail Status information cannot be displayed when System power is
off.

-----
Power Supply Indicators:
-----
Supply   Active   Service  OK-to-Remove
-----
PS0      ON       OFF      OFF
PS1      ON       OFF      OFF

-----
Power Supplies:
-----
Supply  Status           Underspeed  Overtemp  Overvolt  Undervolt
Overcurrent
-----
PS0     OK                OFF         OFF        OFF        OFF        OFF
PS1     OK                OFF         OFF        OFF        OFF        OFF

Current sensor information cannot be displayed when System power is off.

Alarm Status information cannot be displayed when System power is off.
```

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## showfru

showfru コマンドを使用すると、ホストサーバーの FRU PROM の内容がすべて表示されます。出力形式は Solaris オペレーティングシステムの prtfru コマンドと同様です。

## ▼ showfru コマンドを使用する

---

注 – このコマンドの使用にはユーザー権限は不要です。

---

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showfru
```

showfru コマンドの出力例を次に示します。

### コード例 4-4 showfru コマンドの出力例

```
sc> showfru
FRU_PROM at MB.SEEPROM
  Timestamp: FRI FEB 28 01:11:12 2003
  Description: FRUID, INSTR, M'BD, 2X1.28GHZ, CPU
  Manufacture Location: Hsinchu, Taiwan
  Sun Part No: 3753120
  Sun Serial No: 000786
  Vendor JEDEC code: 3E5
  Initial HW Dash Level: 02
  Initial HW Rev Level: 0F
  Shortname: MOTHERBOARD

FRU_PROM at ENC.SEEPROM
  Timestamp: MON FEB 17 03:03:59 2003
  Description: FRUID, PRGM, INSTR, 2U, IN/FACE, LOW
  Manufacture Location: Hsinchu, Taiwan
  Sun Part No: 3706004
  Sun Serial No: 000047
  Vendor JEDEC code: 3E5
  Initial HW Dash Level: 01
  Initial HW Rev Level: 0C
  Shortname: SCSI

FRU_PROM at HCM.SEEPROM is not present

FRU_PROM at PS0.SEEPROM
  Timestamp: FRI JAN 24 04:16:51 2003
  Description: FRUID, PRGM, INSTR, PSU, 2U, DC
  Manufacture Location: BAO'AN, CHINA
  Sun Part No: 3001567
  Sun Serial No: 000103
  Vendor JEDEC code: 37A
  Initial HW Dash Level: 01
```

コード例 4-4 showfru コマンドの出力例 (続き)

```
Initial HW Rev Level: 01
Shortname: PSU

FRU_PROM at PS1.SEEPROM
Timestamp: FRI JAN 24 04:20:41 2003
Description: FRUID, PRGM, INSTR, PSU, 2U, DC
Manufacture Location: BAO'AN, CHINA
Sun Part No: 3001567
Sun Serial No: 000104
Vendor JEDEC code: 37A
Initial HW Dash Level: 01
Initial HW Rev Level: 01
Shortname: PSU

FRU_PROM at ALARM.SEEPROM
Timestamp: TUE APR 22 08:17:54 2003
Description: FRUID, PRGM, INSTR, ALARM BOARD
Manufacture Location: Hsinchu, Taiwan
Sun Part No: 3706005
Sun Serial No: ??????
Vendor JEDEC code: 3E5
Initial HW Dash Level: 01
Initial HW Rev Level: 0B
Shortname: ALARM

FRU_PROM at MB.P0.B0.D0.SEEPROM
Timestamp: MON JAN 27 12:00:00 2003
Description: SDRAM DDR, 512 MB
Manufacture Location:
Vendor: Samsung
Vendor Part No: M3 12L6420DT0-CA2

FRU_PROM at MB.P0.B0.D1.SEEPROM
Timestamp: MON JAN 27 12:00:00 2003
Description: SDRAM DDR, 512 MB
Manufacture Location:
Vendor: Samsung
Vendor Part No: M3 12L6420DT0-CA2

FRU_PROM at MB.P0.B1.D0.SEEPROM is not present

FRU_PROM at MB.P0.B1.D1.SEEPROM is not present

FRU_PROM at MB.P1.B0.D0.SEEPROM
Timestamp: MON JAN 27 12:00:00 2003
Description: SDRAM DDR, 512 MB
Manufacture Location:
```



#### コード例 4-4 showfru コマンドの出力例 (続き)

```
Vendor: Samsung
Vendor Part No: M3 12L6420DT0-CA2

FRU_PROM at MB.P1.B0.D1.SEEPROM
Timestamp: MON JAN 27 12:00:00 2003
Description: SDRAM DDR, 512 MB
Manufacture Location:
Vendor: Samsung
Vendor Part No: M3 12L6420DT0-CA2

FRU_PROM at MB.P1.B1.D0.SEEPROM is not present

FRU_PROM at MB.P1.B1.D1.SEEPROM is not present

sc>
```

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## showlocator

ホストサーバーのロケータ LED の状態 (オンまたはオフ) を表示するには、`showlocator` コマンドを使用します。ロケータ LED の詳細は、サーバーのマニュアルを参照してください。

### ▼ showlocator コマンドを使用する

---

注 – このコマンドの使用にはユーザー権限は不要です。

---

- `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showlocator
```

- ロケータ LED がオンの場合、ALOM の出力結果は次のようになります。

```
sc> showlocator
Locator LED is ON
```

- ロケータ LED がオフの場合、ALOM の出力結果は次のようになります。

```
sc> showlocator
Locator LED is OFF
```

ロケータ LED の状態を変更するには、setlocator コマンドを使用します。詳細は、66 ページの「setlocator」を参照してください。

## 関連情報

- 38 ページの「ALOM シェルコマンド」
- 66 ページの「setlocator」

## showlogs

ALOM のイベントバッファに記録されたすべてのイベントの履歴を表示するには、showlogs コマンドを使用します。表示されるイベントには、サーバーリセットイベント、システムの状態を変更するすべての ALOM コマンド (たとえば、reset、poweroff、poweron) などがあります。詳細は、60 ページの「reset」、56 ページの「poweroff」、および 57 ページの「poweron」を参照してください。

ログに記録される各イベントの形式を次に示します。

```
date hostname: message
```

date は ALOM が記録したイベントの発生時間を表します。hostname はホストサーバー名、message はイベントの簡単な説明です。

オプションを指定せずに showlogs コマンドを実行すると、ALOM はイベントログの最後の 20 行を表示します。

## ▼ showlogs コマンドを使用する

---

注 – このコマンドの使用にはユーザー権限は不要です。

---

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showlogs option(s)
```

option(s) は指定するオプションです。

イベントログエントリの例を次に示します。

```
NOV 15 11:12:25 labserver: "SC Login: User johnsmith Logged on."
```

---

**注** – ALOM イベントログのタイムスタンプは、ユニバーサル時間です。

---

次の例は、`-v` オプションを指定した `showlogs` コマンドの出力結果を示しています。`-v` オプションを指定すると、固定イベントログが表示されます。固定イベントログには NVRAM の内容が記録されます。

コード例 4-5      `showlogs -v` コマンドの出力例

```
sc> showlogs -v
Persistent event log
-----
MAY 19 11:22:03 wgs40-232: 0004000e: "SC Request to Power Off Host Immediately."
MAY 19 11:22:12 wgs40-232: 00040029: "Host system has shut down."
MAY 19 11:22:43 wgs40-232: 00040002: "Host System has Reset"
Log entries since MAY 19 14:57:08
-----
MAY 19 14:57:08 wgs40-232: 00060003: "SC System booted."
MAY 19 14:57:35 wgs40-232: 00060000: "SC Login: User rich Logged on."
```

## コマンドオプション

showlogs コマンドには次の 4 つのオプションがあります。-g オプションと -b、-e、または -v の各オプションを組み合わせて指定することもできます。-g オプションを指定しない場合、画面出力は一時停止しません。

表 4-11 showlogs コマンドの出力結果

オプション	説明
-v	バッファファイルのすべての内容と NVRAM の内容 (固定イベントログ) を表示します。
-b <i>lines</i>	ログバッファの先頭からイベントを表示します。 <i>lines</i> には行数を指定します。たとえば、次のコマンドではバッファの最初の 100 行が表示されます。 <code>showlogs -b 100</code>
-e <i>lines</i>	ログバッファファイルの最後からイベントを表示します。 <i>lines</i> には行数を指定します。このコマンドの実行中にログに新しいデータが記録された場合、この新しいデータは画面出力に追加されます。次に例を示します。 <code>showlogs -e 10</code>
-g <i>lines</i>	一度に画面に表示する行数を制御します。 <i>lines</i> には行数を指定します。一時停止するたびに次のメッセージが表示されます。 - -pause-- Press 'q' to quit, any other key to continue.

## 関連情報

- 38 ページの「ALOM シェルコマンド」
- 49 ページの「consolehistory」

## shoynetwork

shoynetwork コマンドを使用すると、ALOM の現在のネットワーク構成が表示されます。

**注** – 最後に ALOM を起動してから ALOM のネットワーク構成を変更した場合は、このコマンドの出力結果に変更後の構成情報が表示されないことがあります。変更後の構成を表示するには、ALOM を再起動してください。ALOM の再起動については、34 ページの「ALOM からほかの装置へのシステムコンソールのリダイレクト」を参照してください。

## ▼ shownetwork コマンドを使用する

---

注 – このコマンドの使用にはユーザー権限は不要です。

---

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> shownetwork option
```

指定可能な *option* は *-v* です。

このコマンドの出力結果は次の例のようになります。xxx.xxx.xxx.xxx にはネットワーク構成の IP アドレス、ネットマスク、Ethernet アドレスが表示されます。

```
sc> shownetwork
SC network configuration is:
IP Address: XXX.XXX.XXX.XXX
Gateway address: XXX.XXX.XXX.XXX
Netmask: XXX.XXX.XXX.XXX
Ethernet Address: XX:XX:XX:XX:XX:XX
```

## コマンドオプション

shownetwork コマンドのオプションは *-v* のみです。

**shownetwork -v** と入力すると、DHCP サーバーの情報 (構成されている場合) など、ネットワークの詳細情報が表示されます。詳細は、13 ページの「DHCP を使用したネットワークの構成」を参照してください。

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## showplatform

ホストサーバーのプラットフォーム ID および状態に関する情報を表示するには、showplatform コマンドを使用します。

## ▼ showplatform コマンドを使用する

---

注 – このコマンドの使用にはユーザー権限は不要です。

---

- sc> プロンプトで **showplatform** と入力します。  
ホストサーバーから次のような情報が返されます。

```
sc> showplatform
SUNW,Netra-240
Domain          Status
-----          -
sumatra53       OS Running
```

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## showsc

showsc コマンドを使用すると、ALOM ソフトウェア構成とファームウェアのバージョンに関する情報が表示されます。

## ▼ showsc コマンドを使用する

---

注 – このコマンドの使用にはユーザー権限は不要です。

---

- 次のいずれかを実行します。
  - ALOM のすべての構成情報を表示するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showsc
```

- 特定の構成変数の値を表示するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showsc param
```

*param* は *param* オプションです。詳細は、93 ページの「ALOM 構成変数の使用」を参照してください。

次の例の *xir* は、*sys\_autorestart* 構成変数の現在の値です。

```
sc> showsc sys_autorestart
xir
```

*sys\_autorestart* については、122 ページの「*sys\_autorestart*」を参照してください。

*-v* オプションを指定すると、指定した変数の詳細情報が表示されます。

たとえば、ALOM のバージョンを表示するには、次のいずれかを入力します。

```
sc> showsc version
Advanced Lights Out Manager v1.3
```

```
sc> showsc -v version
Advanced Lights Out Manager v1.3
SC Firmware version: 1.3.0
SC Bootmon version: 1.3.0
SC Bootmon Build Release: 37
SC bootmon checksum: C717B0FB
SC Bootmon built May 13 2003, 15:05:48
SC Build Release: 37 SC firmware checksum: 1BECB05A
SC firmware built May 13 2003, 15:05:33
SC firmware flashupdate MAY 19 2003, 14:55:38
SC System Memory Size: 8 MB
SC NVRAM Version = a
SC hardware type: 1
```

## コマンドオプション

showsc コマンドには次のオプションがあります。オプションを指定せずに showsc を実行すると、すべての構成変数が表示されます。

表 4-12 showsc コマンドオプション

オプション	説明
-v	-v オプションを <i>param</i> オプションと一緒に使用すると、指定した構成変数の詳細情報が表示されます (表示される内容は変数によって異なります)。
<i>param</i>	showsc コマンドにこのオプションを指定すると、指定した構成変数またはパラメタの値が表示されます。

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## showusers

現在 ALOM にログインしているユーザーの一覧を表示するには、showusers コマンドを使用します。一覧には、接続の種類、各ユーザーセッションの期間、クライアントの IP アドレス (ユーザーがネットワークに接続している場合)、ホストシステムのコンソールへの書き込みロックの有無 (これによって、ユーザーにコンソールセッションへの入力が可能されるか、ユーザーはコンソールストリームを読み取り専用モードで監視するだけであるかが決まる) などの詳細情報が表示されます。

### ▼ showusers コマンドを使用する

注 - このコマンドの使用にはユーザー権限は不要です。

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> showusers option
```

指定可能な *option* は *-g lines* です。



次に例を示します。

```
sc> showusers
username connection  login time      client IP addr      console
-----
joeuser      serial   Sep 16 10:30
bigadmin     net-3    Sep 14 17:24    123.123.123.123    system
sueuser      net-2    Sep 15 12:55    123.223.123.223
```

1 ユーザーが複数のセッションを実行している場合は、すべてのセッションが表示されます。

## コマンドオプション

showusers コマンドのオプションは `-g lines` のみです。

このオプションを指定すると、`lines` で指定した行数を表示するごとに一時停止します。一時停止するたびに次のメッセージが表示されます。

```
--pause-- Press 'q' to quit, any other key to continue
```

警告状態またはイベントが検出されると、このメッセージのあとにその情報が表示されます。表示を継続するには任意のキーを押します。表示を終了して `sc>` プロンプトに戻るには `q` を押します。

## useradd

ALOM にユーザーアカウントを追加するには、`useradd` コマンドを使用します。

### ▼ useradd コマンドを使用する

---

注 – このコマンドを使用するには、`u` レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「`userperm`」を参照してください。

---

- `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> useradd username
```

`username` は ALOM に追加するアカウントのユーザー名です。

*username* には次の制限があります。

- 英字、数字、ピリオド (.)、下線 (\_)、およびハイフン (-) を使用できます。
- 1 文字以上の英小文字を使用して、16 文字以内で指定する必要があります。
- 英字で始める必要があります。

ALOM には、最大 15 件の一意のユーザーアカウントを追加できます。

ユーザー名にパスワードを割り当てるには、`userpassword` コマンドを使用します。詳細は、87 ページの「`userpassword`」を参照してください。

ユーザー名に権限レベルを設定するには、`userperm` コマンドを使用します。詳細は、88 ページの「`userperm`」を参照してください。

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## userdel

ALOM のユーザーアカウントを削除するには、`userdel` コマンドを使用します。アカウントを削除すると、削除されたユーザーの構成情報は復元できません。

指定したユーザー名が **ALOM** ユーザーの一覧に存在しない場合、エラーメッセージが返されます。また、一覧に 1 ユーザーしか存在しない場合、ユーザーアカウントは削除できません。

---

注 – ALOM では、デフォルトの `admin` ユーザーアカウントは削除できません。

---

### ▼ `userdel` コマンドを使用する

---

注 – このコマンドを使用するには、**u** レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「`userperm`」を参照してください。

---

- `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> userdel useracct
```

*useracct* は削除するユーザーアカウント名です。

## コマンドオプション

`userdel` コマンドのオプションは `-y` のみです。

`-y` オプションを指定して `userdel` コマンドを実行すると、次の確認メッセージを表示せずにアカウントが削除されます。

```
Are you sure you want to delete user username [y/n]?
```

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## `userpassword`

指定したユーザーアカウントのパスワードを変更するには、`userpassword` コマンドを使用します。このコマンドは、管理者が ALOM のユーザーアカウントを変更する必要があるが、そのユーザーのパスワードが不明である場合に使用します。自分の ALOM アカウントのパスワードを変更する場合は、`password` コマンドを使用します。詳細は、55 ページの「`password`」を参照してください。

### ▼ `userpassword` コマンドを使用する

---

**注** – このコマンドを使用するには、**u** レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「`userperm`」を参照してください。

---

- `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> userpassword username
```

`username` はパスワードを変更するユーザーアカウントの名前です。

このコマンドを実行しても、現在のパスワードの入力は要求されません。

次に例を示します。

```
sc> userpassword msmith
New password:
Re-enter new password:
sc>
```

## パスワードの制限

パスワードには次の制限があります。

- 6～8文字で指定する必要があります。
- 2文字以上の英字(大文字または小文字)と1文字以上の数字または特殊文字を使用する必要があります。
- ユーザーのログイン名と同じものは使用できません。また、ユーザーのログイン名の文字を逆にしたり並べ変えたものも使用できません。照合には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。
- 古いパスワードと3文字以上異なるものにする必要があります。照合には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」

## userperm

指定したユーザーアカウントの権限レベルを設定または変更するには、`userperm` コマンドを使用します。デフォルトでは、初期設定の段階で `ALOM admin` アカウントが作成されます。このアカウントを削除したり、ユーザー権限を変更したりすることはできません。

## 権限レベル

すべてのユーザーが ALOM 情報を参照できますが、ALOM の機能の実行や設定の変更には権限が必要です。ユーザーの権限レベルは 4 種類あります。0 ~ 4 の権限レベルを指定します。

表 4-13 userperm の権限レベル

権限レベル	説明
a	管理 (Administrative)。このユーザーには、ALOM 構成変数の状態の変更や ALOM の再起動を行う権限があります。詳細は、93 ページの「ALOM 構成変数の使用」および 61 ページの「resetsc」を参照してください。
u	ユーザー管理 (User administration)。このユーザーには、ユーザーの追加やユーザーの削除、ユーザー権限の変更、ほかのユーザーの権限レベルの変更を行う権限があります。詳細は、85 ページの「useradd」および 86 ページの「userdel」を参照してください。
c	コンソール権限 (Console permission)。このユーザーには、ホストサーバーのシステムコンソールに接続する権限があります。詳細は、46 ページの「console」を参照してください。
r	リセット/電源権限 (Reset/power permission)。このユーザーには、ホストサーバーのリセットや、サーバーの電源の投入または切断を行う権限があります。詳細は、60 ページの「reset」、57 ページの「poweron」、および 56 ページの「poweroff」を参照してください。

指定したユーザーに権限を割り当てない (権限レベル 0 を割り当てる) 場合は、ユーザーの権限は読み取り専用になります。これは新規 ALOM ユーザーアカウントのデフォルトの権限レベルです。

**注** - ALOM をはじめて起動するときに使用するアカウントのデフォルトユーザー権限は読み取り専用です。デフォルトの admin アカウントにパスワードを設定すると、権限は cuar (フル権限) に変更されます。

ユーザーの権限レベルを参照するには、usershow コマンドを使用します。詳細は、91 ページの「usershow」を参照してください。

### ▼ userperm コマンドを使用する

**注** - このコマンドを使用するには、u レベルのユーザー権限が必要です。

- `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> userperm username permission(s)
```

*username* には権限を割り当てるユーザー名、*permission(s)* にはユーザーに割り当てる権限を指定します。

たとえば、ユーザー `msmith` に `c` および `r` のユーザー権限を割り当てるには、`ALOM` コマンドプロンプトで次のように入力します。

```
sc> userperm msmith cr
```

ユーザーの権限レベルを表示するには、`usershow` コマンドを使用します。

権限が読み取り専用であるユーザーは、次のコマンドのみ使用できます。

- `help`
- `password`
- `showdate`
- `shownetwork`
- `showenvironment`
- `showlogs`
- `consolehistory`
- `showsc`
- `logout`
- `showlocator`

権限が読み取り専用であるユーザーの場合は、次の例の `jeremy` と同様の出力結果になります。

```
sc> usershow  
Username          Permissions      Password  
-----  
admin             cuar            Assigned  
jeremy           ----            Assigned
```

## 関連情報

38 ページの「`ALOM` シェルコマンド」

## usershow

指定したユーザーの ALOM アカウントおよびユーザーに付与された権限、パスワードの割り当ての有無を表示するには、usershow コマンドを使用します。詳細は、88 ページの「userperm」および 87 ページの「userpassword」を参照してください。

ユーザー名を指定せずに usershow を実行すると、すべての ALOM アカウントが表示されます。

### ▼ usershow コマンドを使用する

---

**注** - このコマンドを使用するには、**u** レベルのユーザー権限が必要です。ユーザー権限の設定については、88 ページの「userperm」を参照してください。

---

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> usershow username
```

*username* は指定するユーザー名です。

次に例を示します。

```
sc> usershow  
Username      Permissions      Password?  
admin         cuar             Assigned  
wwilson       cuar             Assigned  
jadams        --cr            None
```

```
sc> usershow wwilson  
Username      Permissions      Password?  
wwilson       cuar             Assigned
```

## 関連情報

38 ページの「ALOM シェルコマンド」





## 第5章

---

# ALOM 構成変数の使用

---

この章では、ALOM の構成変数について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 95 ページの「シリアル管理ポート変数」
- 95 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 96 ページの「管理対象システムのインタフェース変数」
- 97 ページの「ネットワーク管理および通知変数」
- 98 ページの「システムユーザー変数」

---

## ALOM 構成変数の概要

ALOM には、ALOM の動作を変更するための非揮発性の構成変数があります。これらの変数には、あらかじめデフォルト値が設定されています。はじめて変数をカスタマイズする場合は、対話型のスクリプトコマンド `setupsc` を使用します。個々の変数の設定を変更するには、ALOM コマンドシェルまたは `scadm set` コマンドを使用できます。詳細は、68 ページの「`setupsc`」および 139 ページの「`scadm set`」を参照してください。

## ▼ ALOM コマンドシェルの構成変数を使用する

---

注 – ALOM コマンドシェルから構成変数を設定するには、a レベルのユーザー権限が必要です。scadm ユーティリティーで ALOM 構成変数を設定するには、ホストサーバーにスーパーユーザーでログインする必要があります。ユーザー権限の設定については、88 ページの「userperm」を参照してください。scadm については、127 ページの「scadm ユーティリティーの概要」を参照してください。

---

### ALOM コマンドシェルの場合

- 設定可能な変数の値を指定するには、setupsc コマンドを使用します。  
詳細は、68 ページの「setupsc」を参照してください。
- 構成変数とその設定を表示するには、showsc コマンドを使用します。  
詳細は、82 ページの「showsc」を参照してください。
- 構成変数の値を設定するには、setsc コマンドを使用します。  
詳細は、67 ページの「setsc」を参照してください。
- すべての変数を出荷時設定にリセットするには、setdefaults コマンドを使用します。  
詳細は、65 ページの「setdefaults」を参照してください。

### scadm ユーティリティーの場合

- 現在の値を表示するには、show コマンドを使用します。  
詳細は、140 ページの「scadm show」を参照してください。
- 値を変更するには、set コマンドを使用します。  
詳細は、139 ページの「scadm set」を参照してください。

## 関連情報

127 ページの「scadm ユーティリティーの概要」

---

## シリアル管理ポート変数

シリアル管理ポート変数はホストシステムの起動時に設定される読み取り専用の変数です。ALOM はシリアル管理ポート変数を使用して、ホストサーバー上のシリアル管理 (SER MGT) の設定を通知します。これらの変数の現在の値を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。詳細は、82 ページの「`showsc`」を参照してください。`scadm` ユーティリティーを使用して設定を表示するには、`scadm showsc` コマンドを使用します。詳細は、140 ページの「`scadm show`」を参照してください。

次のシリアルポート変数は、その設定を参照することはできますが、変更はできません。

- 120 ページの「`ser_baudrate`」
- 121 ページの「`ser_data`」
- 121 ページの「`ser_parity`」
- 122 ページの「`ser_stopbits`」

### 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 68 ページの「`setupsc`」
- 67 ページの「`setsc`」
- 82 ページの「`showsc`」

---

## ネットワークインタフェース変数

ネットワークインタフェース変数を使用して、ALOM がホストサーバー上の NET MGT ポートの Ethernet 接続で使用するネットワーク設定を指定します。

ALOM には、次のネットワークインタフェース変数があります。

- 99 ページの「`if_emailalerts`」
- 101 ページの「`if_network`」
- 102 ページの「`if_modem`」
- 108 ページの「`netsc_dhcp`」
- 109 ページの「`netsc_ipaddr`」
- 111 ページの「`netsc_ipnetmask`」
- 110 ページの「`netsc_ipgateway`」
- 112 ページの「`netsc_tpelinktest`」
- 108 ページの「`netsc_enetaddr`」

ALOM コマンドシェルの場合

- これらの変数の値を指定するには、`setupsc` コマンドを使用します。  
詳細は、68 ページの「`setupsc`」を参照してください。
- 構成変数とその設定を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。  
詳細は、82 ページの「`showsc`」を参照してください。
- 構成変数の値を設定するには、`setsc` コマンドを使用します。  
詳細は、67 ページの「`setsc`」を参照してください。
- すべての変数を出荷時設定にリセットするには、`setdefaults` コマンドを使用します。  
詳細は、65 ページの「`setdefaults`」を参照してください。

scadm ユーティリティーの場合

- 現在の値を表示するには、`show` コマンドを使用します。  
詳細は、140 ページの「`scadm show`」を参照してください。
- 値を変更するには、`set` コマンドを使用します。  
詳細は、139 ページの「`scadm set`」を参照してください。

## 関連情報

93 ページの「ALOM 構成変数の概要」

---

# 管理対象システムのインタフェース変数

ホストサーバーに情報を受け渡すときの ALOM の動作を指定するには、管理対象システムのインタフェース変数を使用します。インタフェース変数には、設定可能な変数とデフォルト設定を変更できない変数があります。

ALOM には、次の管理対象システムのインタフェース変数があります。

- `sys_autorestart` (設定可) (122 ページの「`sys_autorestart`」を参照)
- `sys_eventlevel` (設定可) (124 ページの「`sys_eventlevel`」を参照)
- `sys_hostname` (設定不可) (125 ページの「`sys_hostname`」を参照)
- `sys_enetaddr` (設定不可) (124 ページの「`sys_enetaddr`」を参照)
- `sys_xirtimeout` (設定可) (125 ページの「`sys_xirtimeout`」を参照)

#### ALOM コマンドシェルの場合

- 設定可能な変数の値を指定するには、`setupsc` コマンドを使用します。  
詳細は、68 ページの「`setupsc`」を参照してください。
- 構成変数とその設定を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。  
詳細は、82 ページの「`showsc`」を参照してください。
- 設定可能な変数の値を設定するには、`setsc` コマンドを使用します。  
詳細は、67 ページの「`setsc`」を参照してください。
- すべての変数を出荷時設定にリセットするには、`setdefaults` コマンドを使用します。  
詳細は、65 ページの「`setdefaults`」を参照してください。

#### scadm ユーティリティーの場合

- 現在の値を表示するには、`show` コマンドを使用します。  
詳細は、140 ページの「`scadm show`」を参照してください。
- 値を変更するには、`set` コマンドを使用します。  
詳細は、139 ページの「`scadm set`」を参照してください。

## 関連情報

93 ページの「ALOM 構成変数の概要」

---

# ネットワーク管理および通知変数

ネットワーク管理および通知変数を使用して、ALOM によるホストシステムの管理方法および警告の送信方法を指定します。

ALOM は次のネットワーク管理および通知変数をサポートしています。

- `mgt_mailhost` (106 ページの「`mgt_mailhost`」を参照)
- `mgt_mailalert` (104 ページの「`mgt_mailalert`」を参照)

ALOM コマンドシェルの `sc>` プロンプトから次の機能を使用できます。

- インタフェース変数を設定するには、`setupsc` コマンドを使用します。  
68 ページの「`setupsc`」を参照してください。

- 現在の設定を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。  
詳細は、82 ページの「`showsc`」を参照してください。
- 変数の値を変更するには、`setsc` コマンドを使用します。  
詳細は、67 ページの「`setsc`」を参照してください。

## 関連情報

93 ページの「ALOM 構成変数の概要」

---

# システムユーザー変数

システムユーザー変数を使用すると、ホストサーバーの識別方法およびホストサーバーとの対話方法をカスタマイズできます。`setupsc` スクリプトで `ALOM` をカスタマイズする場合は、`setupsc` からのプロンプトが表示されたときに **y** を入力すると、これらの変数を操作できます。詳細は、68 ページの「`setupsc`」を参照してください。

- 112 ページの「`sc_backupuserdata`」
- 113 ページの「`sc_clieventlevel`」
- 116 ページの「`sc_clipasswdecho`」
- 113 ページの「`sc_cliprompt`」
- 115 ページの「`sc_clitimeout`」
- 117 ページの「`sc_customerinfo`」
- 118 ページの「`sc_escapechars`」
- 118 ページの「`sc_powerondelay`」
- 119 ページの「`sc_powerstatememory`」

ALOM コマンドシェルの場合

- 設定可能な変数の値を指定するには、`setupsc` コマンドを使用します。  
詳細は、68 ページの「`setupsc`」を参照してください。
- 構成変数とその設定を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。  
詳細は、82 ページの「`showsc`」を参照してください。
- 設定可能な変数の値を設定するには、`setsc` コマンドを使用します。  
詳細は、67 ページの「`setsc`」を参照してください。
- すべての変数を出荷時設定にリセットするには、`setdefaults` コマンドを使用します。  
詳細は、65 ページの「`setdefaults`」を参照してください。

scadm ユーティリティの場合

- 現在の値を表示するには、`show` コマンドを使用します。  
詳細は、140 ページの「`scadm show`」を参照してください。
- 値を変更するには、`set` コマンドを使用します。  
詳細は、139 ページの「`scadm set`」を参照してください。

## 関連情報

93 ページの「ALOM 構成変数の概要」

---

# 構成変数の説明

ここでは、ALOM の構成変数をアルファベット順に説明します。

## `if_emailalerts`

電子メールによる警告を有効にするには、この変数を使用します。この変数に `true` (有効) を設定すると、ALOM ネットワーク管理および通知変数の値を設定できるようになります。詳細は、97 ページの「ネットワーク管理および通知変数」を参照してください。ネットワーク管理および通知変数の `mgt_mailhost` および `mgt_mailalert` では、電子メールによる警告の管理方法を指定し、警告を有効にします。詳細は、106 ページの「`mgt_mailhost`」および 104 ページの「`mgt_mailalert`」を参照してください。

---

注 - `if_emailalerts` を有効にする前に、`if_network` 変数を有効にする必要があります。詳細は、101 ページの「`if_network`」を参照してください。

---

ALOM コマンドシェルの場合

- この変数の値を指定するには、`setupsc` コマンドを使用します。  
詳細は、68 ページの「`setupsc`」を参照してください。
- 値を設定または変更するには、`setsc` コマンドを使用します。  
詳細は、67 ページの「`setsc`」を参照してください。
- この変数の現在の値を表示するには、`showsc` コマンドを使用します。  
詳細は、82 ページの「`showsc`」を参照してください。

## ▼ setupsc コマンドを使用して if\_emailalerts 変数を設定する

1. sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

setupsc スクリプトから次のプロンプトが表示されます。

```
Should the SC email alerts be enabled [y]?
```

2. インタフェースを設定する場合 (値を true に設定する場合) は、**y** を入力します。  
この変数のデフォルト値は true (有効) です。

## ▼ setsc コマンドを使用して if\_emailalerts 変数を変更する

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc if_emailalerts response
```

*response* には、電子メールによる警告を有効にする場合は true、無効にする場合は false を指定します。



## if\_network

ALOM ネットワークインタフェースを有効にするには、この変数を使用します。この変数に true (有効) を設定すると、ALOM ネットワークインタフェース変数を使用できるようになります。詳細は、95 ページの「ネットワークインタフェース変数」を参照してください。

表 5-1 if\_network に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティー
設定可能な変数の値の指定	68 ページの「setupsc」	
構成変数の設定の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
構成変数の設定または変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」
すべての変数の出荷時設定へのリセット	65 ページの「setdefaults」	

### ▼ setupsc コマンドを使用して if\_network 変数を設定する

1. sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

setupsc スクリプトから次のプロンプトが表示されます。

```
Do you wish to configure the enabled interfaces [y]?
```

2. インタフェースを設定する場合は **y** を入力します。  
この変数のデフォルト値は true (有効) です。

### ▼ setsc コマンドを使用して if\_network 変数を変更する

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc if_network response
```

*response* には、ネットワークインタフェースを有効にする場合は `true`、無効にする場合は `false` を指定します。

## if\_modem

ALOM では、外部モデムからシリアルモデム通信を受信して遠隔管理を行うことができます。通信を受信するには、遠隔からシステムにアクセスする前に、ローカルでモデムのハードウェアと ALOM ソフトウェアを設定しておく必要があります。

シリアル管理ポート (SERIAL MGT) に取り付けられたモデムは、ポートを排他的に使用します。ALOM を Ethernet で使用するよう設定して、ローカルユーザーが Telnet を介して ALOM に接続できるようにします。詳細は、5 ページの「ALOM の構成」または 13 ページの「手動によるネットワークの構成」を参照してください。

## ▼ シリアル管理ポートを設定してモデムを使用する

1. 次のいずれかを実行して、`if_modem` 変数を `true` に設定します。

- Telnet セッションで ALOM にログインして次のように入力します。

```
sc> setsc if_modem true
SC Alert: Serial Mgt port input is disabled until a modem call is
received.
```

- ホストサーバーにログインし、`scadm` ユーティリティーで次のように入力します。

```
# scadm set if_modem true
May 19 13:59:07 wgs40-232 rmclomv: Serial Mgt port input is
disabled until a modem call is received SC Alert: Serial Mgt port
input is disabled until a modem call is received
```

2. モデムをシリアル管理ポート (SERIAL MGT) に接続して、モデムの電源を入れます。

DTR および CTS、AA のライトが点灯します。

---

注 - `if_modem` 変数を `true` に設定すると、シリアル管理ポートの DCD 信号の設定を高くするか、`if_modem` 変数を `false` に戻さないかぎり、シリアル接続での入力は無効になります。SERIAL MGT ポートを使用するには、モデムを接続する必要があります。ただし、Telnet を使用すれば、NET MGT ポートを介して ALOM に接続できます。

---

## ▼ シリアル管理ポートをモデムを使用しない状態に戻す

1. モデムの電源を切ります。
2. シリアル管理ポート (SERIAL MGT) から RJ-45 モデム接続を取り外します。
3. モデムを接続する前に別の装置がシリアル管理ポートに取り付けられていた場合は、その装置をシリアル管理ポートに再接続します。
4. 次のいずれかを実行して、`if_modem` 変数を `false` に設定します。
  - Telnet セッションで ALOM にログインして次のように入力します。

```
sc> setsc if_modem false
```

- ホストシステムにログインし、`scadm` ユーティリティーで次のように入力します。

```
# scadm set if_modem false
```

## mgt\_mailalert

電子メールによる警告を設定するには、この変数を使用します。電子メールによる警告の設定手順は、使用する方法により多少異なります。最大 8 件の電子メールアドレスを指定できます。

表 5-2 mgt\_mailalert に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティー
値の指定	68 ページの「setupsc」	
現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
値の設定または変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」

### ▼ setupsc コマンドを使用して mgt\_mailalert 変数を設定する

1. sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setupsc
```

setupsc スクリプトから次のプロンプトが表示されます。

setupsc コマンドを使用して mgt\_mailalert を設定する場合、情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。各メッセージのあとの角括弧内には、デフォルト値が表示されます。

```
Enter the number of email recipients to configure [0]? 2
```

2. 電子メールの受信者数を入力します。

メッセージのあとの角括弧内には、デフォルト値 (0) が表示されます。

受信者を 1 件指定するたびに次のメッセージが表示されます。*n* は現在設定している受信者数を表します (たとえば、上の例のように 2 を入力すると、アドレス 1 の警告を設定したあとで、アドレス 2 の警告を設定するように指示するメッセージが表示されます)。

```
Enter the email address for recipient n (maximum of 128 characters)
[]? johnsmith@sysadmin.com
```

3. 上の例のように、受信者の電子メールアドレスを入力します。

ALOM では最大 128 文字の電子メールアドレスを設定できます。ここで次のようなメッセージが表示されます。

```
Enter the level of events to send to recipient <n> where valid
settings are 1 (critical), 2 (critical and major) and 3 (critical,
major and minor) [2]?
```

4. 受信者に送信する警告レベルに対応する番号を入力します。

## ▼ setsc コマンドを使用して mgt\_mailalert 変数を変更する

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc mgt_mailalert email level
```

*email* には警告の宛先電子メールアドレス、*level* には送信する警告のレベル (critical、major、または minor) を指定します。

次に例を示します。

```
sc> setsc mgt_mailalert kevin@abc.com 1
```

- mgt\_mailalert のエントリを削除するには、この変数の値を再指定して警告レベルを省略します。

たとえば、前述の例のエントリを削除するには、次のように入力します。

```
sc> setsc mgt_mailalert kevin@abc.com
```

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 97 ページの「ネットワーク管理および通知変数」
- 82 ページの「showsc」

## mgt\_mailhost

ALOM から電子メールによる警告を送信する 1 または 2 台のメールサーバーの IP アドレスを指定するには、この変数を使用します。

表 5-3 mgmt\_mailhost に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティー
変数の値の指定	68 ページの「setupsc」	
変数の現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
変数の値の変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」

### ▼ setsc コマンドを使用して mgt\_mailhost 変数を変更する

- sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc mgt_mailhost ipaddr1 ipaddr2
```

*ipaddr1* および *ipaddr2* は、指定するメールホストの IP アドレスです。

たとえば、setsc で 1 台のメールサーバーを指定するには、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。xxx.xxx.xxx.xxx には、メールサーバーの IP アドレスを指定します。

```
sc> setsc mgt_mailhost xxx.xxx.xxx.xxx
```

デフォルト IP アドレスは 0.0.0.0 です。

**注** – デフォルト IP アドレス 0.0.0.0 は無効な IP アドレスです。このコマンドでは、有効な IP アドレスを入力する必要があります。

2 台のメールサーバーを指定するには、次のコマンドを入力します。1 台目のメールサーバーと 2 台目のメールサーバーの IP アドレスは、空白文字 1 個で区切ります。

```
sc> setsc mgt_mailhost xxx.xxx.xxx.xxx yyy.yyy.yyy.yyy
```

## ▼ scadm ユーティリティーを使用して mgt\_mailhost 変数を変更する

- サーバーのスーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm set mgt_mailhost ipaddr1 ipaddr2
```

*ipaddr1* および *ipaddr2* は、指定するメールホストの IP アドレスです。

たとえば、scadm set で 1 台のメールサーバーを指定するには、# プロンプトで次のコマンドを入力します。*xxx.xxx.xxx.xxx* には、メールサーバーの IP アドレスを指定します。

```
# scadm set mgt_mailhost xxx.xxx.xxx.xxx
```

デフォルト IP アドレスは 0.0.0.0 です。

---

**注** - デフォルト IP アドレス 0.0.0.0 は無効な IP アドレスです。このコマンドでは、有効な IP アドレスを入力する必要があります。

---

2 台のメールサーバーを指定するには、次のコマンドを入力します。1 台目のメールサーバーと 2 台目のメールサーバーの IP アドレスは、空白文字 1 個で区切ります。

```
# scadm set mgt_mailhost xxx.xxx.xxx.xxx yyy.yyy.yyy.yyy
```

### 関連情報

- 97 ページの「ネットワーク管理および通知変数」
- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 82 ページの「showsc」

## netsc\_dhcp

ネットワーク構成の取得に DHCP を使用するかどうかを指定するには、この変数を使用します。有効な値は true および false です。デフォルト値は false です。

表 5-4 netsc\_dhcp に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティー
変数の値の指定	68 ページの「setupsc」	
現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
変数の値の変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」

### 関連情報

- 95 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 82 ページの「showsc」

## netsc\_enetaddr

ALOM の MAC アドレス (Ethernet アドレス) を標準の 6 バイト形式 (たとえば、0a:2c:3f:1a:4c:4d) で表示するには、この変数を使用します。この変数は出荷時に設定されます。この変数は設定または変更することができます。

ALOM コマンドシェルの場合、次の機能を使用できます。

- この変数の現在の値を表示するには、showsc コマンドを使用します。詳細は、82 ページの「showsc」を参照してください。

scadm ユーティリティーの場合、次の機能を使用できます。

- 現在の値を表示するには、show コマンドを使用します。詳細は、140 ページの「scadm show」を参照してください。

### 関連情報

- 95 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 82 ページの「showsc」



# netsc\_ipaddr

ALOM の IP アドレスを指定するには、この変数を使用します。

表 5-5 netsc\_ipaddr に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティー
変数の値の指定	68 ページの「setupsc」	
現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
変数の値の変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」

この変数のデフォルト IP アドレスは 0.0.0.0 です。

**注** - ALOM のネットワーク構成の取得に DHCP を使用している場合は、この変数を設定する必要はありません。netsc\_dhcp に true が設定されていると、setupsc スクリプトでは netsc\_ipaddr の設定を求めるプロンプトが表示されません。詳細は、108 ページの「netsc\_dhcp」および 68 ページの「setupsc」を参照してください。

一般的な IP アドレスは 0 ~ 255 の 4 つの数字を小数点で区切って表記します。これは標準ドット表記と呼ばれます。

指定した IP アドレスと指定したサブネットマスクおよびゲートウェイアドレスが対応していない場合は、次のエラーメッセージが表示されます。netsc\_ipgateway および netsc\_ipnetmask には、それぞれゲートウェイアドレスとサブネットマスクが表示されます。

```
Error: Invalid IP address for gateway address netsc_ipgateway and IP netmask netsc_ipnetmask.
```

入力したすべての値に間違いがないことを確認します。詳細は、110 ページの「netsc\_ipgateway」および 111 ページの「netsc\_ipnetmask」を参照してください。正しい IP アドレスが不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

## 関連情報

- 95 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 82 ページの「showsc」

## netsc\_ipgateway

デフォルト IP ゲートウェイ (ルーターとも呼びます) の IP アドレスを指定するには、この変数を使用します。ゲートウェイを使用すると、ほかのサブネットワークにアクセスすることができます。

表 5-6 netsc\_ipgateway に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティー
変数の値の指定	68 ページの「setupsc」	
現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
変数の値の変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」

この変数のデフォルト IP アドレスは 0.0.0.0 です。

**注** – ALOM のネットワーク構成の取得に DHCP を使用している場合は、この変数を設定する必要はありません。netsc\_dhcp が true に設定されていると、setupsc スクリプトでは netsc\_ipgateway の設定を求めるプロンプトが表示されません。詳細は、108 ページの「netsc\_dhcp」および 68 ページの「setupsc」を参照してください。

一般的な IP アドレスは 0 ~ 255 の 4 つの数字を小数点で区切って表記します。これは標準ドット表記と呼ばれます。

指定した IP アドレスと指定したサブネットマスクおよび ALOM IP アドレスが対応していない場合は、次のエラーメッセージが表示されます。netsc\_ipnetmask および netsc\_ipaddr には、それぞれサブネットマスクと IP アドレスが表示されます。

```
Error: Invalid IP gateway address for IP address netsc_ipaddr and IP netmask netsc_ipnetmask.
```

入力したすべての値に間違いがないことを確認します。これらのコマンドについては、110 ページの「netsc\_ipgateway」および 109 ページの「netsc\_ipaddr」を参照してください。正しい IP アドレスが不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

### 関連情報

- 95 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 82 ページの「showsc」

## netsc\_ipnetmask

ALOM の IP ネットマスクを指定するには、この変数を使用します。

表 5-7 netsc\_ipnetmask に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティ
変数の値の指定	68 ページの「setupsc」	
現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
変数の値の変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」

この変数のデフォルト IP アドレスは 255.255.255.0 (クラス C ネットワーク) です。

**注** - ALOM のネットワーク構成の取得に DHCP を使用している場合は、この変数を設定する必要はありません。netsc\_dhcp に true が設定されていると、setupsc スクリプトでは netsc\_ipnetmask の設定を求めるプロンプトが表示されません。詳細は、108 ページの「netsc\_dhcp」および 68 ページの「setupsc」を参照してください。

一般的な IP アドレスは 0 ~ 255 の 4 つの数字を小数点で区切って表記します。これは標準ドット表記と呼ばれます。

指定した IP アドレスと指定したサブネットマスクおよび ALOM IP アドレスが対応していない場合は、次のエラーメッセージが表示されます。netsc\_ipnetmask および netsc\_ipaddr には、それぞれサブネットマスクと IP アドレスが表示されます。

```
Error: Invalid IP netmask for IP address netsc_ipaddr and IP gateway netsc_ipgateway.
```

入力したすべての値に間違いがないことを確認します。これらのコマンドについては、110 ページの「netsc\_ipgateway」および 109 ページの「netsc\_ipaddr」を参照してください。正しい IP アドレスが不明な場合は、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

### 関連情報

- 95 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 82 ページの「showsc」

## netsc\_tpelinktest

この変数を使用すると、10BASE-T Ethernet 接続の完全性をテストできます。Ethernet 接続完全性テストがサポートされていないか、無効になっているハブで ALOM を使用している場合は、この変数に `false` を設定します。この変数の変更は、次回 ALOM をリセットしたあとで有効になります。テストの実行中は、Ethernet ネットワークのユーザーは ALOM にログインできなくなります。

表 5-8 netsc\_tpelinktest に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティー
変数の値の指定	68 ページの「setupsc」	
現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
変数の値の変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」

**注** – Ethernet 接続の完全性テストの有効または無効の設定は、ALOM とローカルハブで統一する必要があります。この設定が矛盾していると、通信できない場合があります。

この変数は、サンの一部のプラットフォームで使用可能な OpenBoot PROM の "tpe-linktest?" 環境変数と同じ機能です。

### 関連情報

- 95 ページの「ネットワークインタフェース変数」
- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 82 ページの「showsc」

## sc\_backupuserdata

この変数では、ALOM のローカルユーザーデータベース (ユーザーおよびパスワード、権限に関する情報) をバックアップするかどうかを指定します。この変数を `true` に設定すると、システム構成カード (SCC) が搭載されているシステムでは、SCC にデータがバックアップされます。ホストサーバーに SCC が搭載されていない場合、この変数は無効です。

setupsc スクリプトを実行すると、次の確認メッセージが表示されます。

```
Should the SC user database be stored on the SCC [n]?
```

この変数の値は、次のとおりです。

- true - ユーザーデータベースを SCC にバックアップします。
- false - バックアップしません (これはデフォルト値です)。

表 5-9 sc\_backuserdata に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティ
現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
変数の値の変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」

## sc\_clieventlevel

ALOM セッション時に ALOM シェルに表示する ALOM イベントレベルを指定するには、この変数を使用します。イベントのレベルには次の 4 種類があります。

- 0 (None) - イベントを表示しない
- 1 (Critical) - 重要度が Critical (高) のイベントのみ
- 2 (Major) - 重要度が Critical (高) および Major (中) のイベント
- 3 (Minor) - 重要度が Critical (高) および Major (中)、Minor (低) のイベント

この変数のデフォルト値は 2 (Major) です。

表 5-10 sc\_clieventlevel に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティ
変数の値の指定	68 ページの「setupsc」	
現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
変数の値の変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 96 ページの「管理対象システムのインタフェース変数」
- 82 ページの「showsc」

## sc\_cliprompt

ALOM シェルプロンプトを変更するには、この変数を使用します。デフォルトは sc> プロンプトです。

プロンプトの文字列には、16 文字まで指定できます。使用できる文字は、英数字およびハイフン、下線です。

表 5-11 `sc_cliprompt` に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティー
変数の値の指定	68 ページの「 <code>setupsc</code> 」	
現在の値の表示	82 ページの「 <code>showsc</code> 」	140 ページの「 <code>scadm show</code> 」
変数の値の変更	67 ページの「 <code>setsc</code> 」	139 ページの「 <code>scadm set</code> 」

## ▼ `setsc` コマンドを使用して `sc_cliprompt` 変数を変更する

sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc SC_cliprompt prompt
```

*prompt* は指定する ALOM コマンドプロンプトです。

たとえば、ホスト名が `ernie` でホストの ALOM 名が `ernie-sc` の場合、`ernie-sc` を ALOM シェルプロンプトに指定するには次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_cliprompt ernie-sc  
ernie-sc>
```

また、`setupsc` コマンドでこの変数を設定することもできます。詳細は、68 ページの「`setupsc`」を参照してください。`setupsc` コマンドでは、次のプロンプトが表示されます。

```
Enter the SC cli prompt (maximum of 16 characters) [sc] ?
```

デフォルトの `sc>` プロンプトを使用するには、Return を押します。

## ▼ scadm ユーティリティーを使用して sc\_cliprompt 変数を変更する

- サーバーのスーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm set cliprompt prompt
```

*prompt* は指定する ALOM コマンドプロンプトです。

### 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 98 ページの「システムユーザー変数」
- 82 ページの「showsc」

## sc\_clitimeout

自動ログアウトが行われるまでに ALOM シェルのセッションがアイドル状態になる時間 (秒) を指定するには、この変数を使用します。0 ~ 10,000 秒を指定できます。1 ~ 59 秒の値を指定すると、変数は自動的に最小値の 60 秒に設定されます。デフォルト値は 0 秒 (アイドル時間なし) です。

---

**注** – ALOM セッションが `console` モードの場合は、この変数が設定されていても自動ログアウトは行われません。詳細は、46 ページの「console」を参照してください。

---

たとえば、自動ログアウトの間隔を 60 秒に設定するには、ALOM シェルプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_clitimeout 60
```

`setupsc` コマンドでタイムアウトの値を指定することもできます。詳細は、68 ページの「setupsc」を参照してください。setupsc スクリプトでは、次のように値の入力を求めるプロンプトが表示されます。

```
Enter the SC CLI timeout in seconds (maximum of 10000s) [0]?
```

表 5-12 sc\_clitimeout に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティー
変数の値の指定	68 ページの「setupsc」	
現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
変数の値の変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 98 ページの「システムユーザー変数」
- 82 ページの「showsc」

## sc\_clipasswdecho

パスワードのエコー表示をオンまたはオフにするには、この変数を使用します。パスワードのエコー表示をオンにすると、ユーザーが ALOM にログインするときに入力した各文字がアスタリスク (\*) で画面にエコー表示されます。実際のパスワードは画面に表示されません。

この変数のデフォルト値は y (画面にアスタリスクで表示) です。

たとえば、この変数の値を n (エコー表示なし) に変更するには、ALOM シェルプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> setsc sc_clipasswdecho n
```

setupsc コマンドでこの変数の値を指定することもできます。setupsc スクリプトでは、次のように値の入力を求めるプロンプトが表示されます。

```
Should password entry echo '*'s [y] ?
```

表 5-13 sc\_passwdecho に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティー
変数の値の指定	68 ページの「setupsc」	
現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
変数の値の変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」



## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 98 ページの「システムユーザー変数」
- 82 ページの「showsc」

## sc\_customerinfo

ホストサーバーに関する情報や、ホストサーバーを ALOM に認識させるためのその他の情報を保存するには、この変数を使用します。setupsc ユーティリティから「Do you wish to configure the SC parameters [y]?」というメッセージが表示されたときに y と入力すると、次のプロンプトが表示されます。

```
Enter any customer data for this platform (maximum of 40
characters) []?
```

たとえば、次のように入力します。

```
Enter any customer data for this platform (maximum of 40
characters) []? This is the test lab server.
```

このコマンドの詳細は、68 ページの「setupsc」を参照してください。

表 5-14 sc\_customer\_info に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティ
変数の値の指定	68 ページの「setupsc」	
現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
変数の値の変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 98 ページの「システムユーザー変数」
- 82 ページの「showsc」

## sc\_escapechars

エスケープ文字シーケンスを変更するには、この変数を使用します。デフォルトでは、コンソールセッションから ALOM に戻る場合に使用するエスケープ文字シーケンスは **#.** (ハッシュ記号とピリオド) です。2 ~ 6 文字を指定して、エスケープ文字シーケンスをカスタマイズすることができます。

setupsc コマンドでこの変数の値を指定することができます。setupsc スクリプトでは、次のように値の入力を求めるプロンプトが表示されます。

```
Enter the console session escape sequence (2 characters). The first
character can be any printable characters or control-A through
control- Y except for control-C, control-D, control-H, control-J,
or control-M. The second character must be a ".". [#.]?
```

このコマンドの詳細は、68 ページの「setupsc」を参照してください。

表 5-15 sc\_escapechars に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティー
変数の値の指定	68 ページの「setupsc」	
現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
変数の値の変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 98 ページの「システムユーザー変数」
- 82 ページの「showsc」

## sc\_powerondelay

電源が投入されるまでサーバーを短時間待機させるには、この変数を使用します。この遅延は 1 ~ 5 秒の任意の間隔です。サーバーの電源投入を遅延させることで主電源のサージ電流を最小限に抑えることができます。これは、停電後にラック内の複数サーバーの電源を入れる場合に重要な機能です。

電源投入の遅延は `setupsc` コマンドで設定できます。`setupsc` スクリプトで次のメッセージが表示されたら、**y** を入力して遅延を有効にするか、**n** を入力して遅延を無効にします。

```
Should poweron sequencing be disabled [y]?
```

このコマンドの詳細は、68 ページの「`setupsc`」を参照してください。

ALOM コマンドシェルおよび `scadm` ユーティリティでは、この変数の値は `enable` と `disable` です。

たとえば、`scadm` ユーティリティで遅延を有効にするには、次のコマンドを入力します。

```
# set sc_powerondelay enable
```

遅延を無効にするには、次のように入力します。

```
# set sc_powerondelay disable
```

表 5-16 `sc_powerondelay` に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	<code>scadm</code> ユーティリティ
変数の値の指定	68 ページの「 <code>setupsc</code> 」	
現在の値の表示	82 ページの「 <code>showsc</code> 」	140 ページの「 <code>scadm show</code> 」
変数の値の変更	67 ページの「 <code>setsc</code> 」	139 ページの「 <code>scadm set</code> 」

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 98 ページの「システムユーザー変数」
- 82 ページの「`showsc`」

## `sc_powerstatememory`

ホストサーバーに電力が供給されると、サーバーの電源が投入されなくても、ALOM はすぐに動作します。ALOM はホストサーバーに電力が供給されると動作を開始しますが、サーバーは電源が投入されるまで起動しません。

sc\_powerstatememory 変数では、ホストサーバーの状態として false (ホストサーバーを停止状態にしておく) または true (電源を切ったときの状態にサーバーを復帰する) を指定できます。これは、停電のときやサーバーの場所を物理的に移動する場合に便利な機能です。

たとえば、ホストサーバーの動作中に電源が遮断された場合、sc\_powerstatememory 変数が false に設定されていると、電源が回復してもホストサーバーは停止したままになります。sc\_powerstatememory 変数が true に設定されていると、ホストサーバーは電源の回復時に再起動します。

この変数の値は、次のとおりです。

- true - 電源が切断されたときのホストサーバーの状態を記憶し、電源が再投入されたときにサーバーを記録した状態に復帰させます。
- false - 電源が投入されてもサーバーを停止状態にしておきます。

表 5-17 sc\_powerstatememory に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティー
変数の値の指定	68 ページの「setupsc」	
現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
変数の値の変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 98 ページの「システムユーザー変数」
- 82 ページの「showsc」

## ser\_baudrate

この変数はシリアル管理ポート (SERIAL MGT) のボーレートを設定します。この値はあらかじめ設定されており、変更することはできません。

デフォルト設定は 9600 です。

sc> プロンプトの場合

- この変数の現在の設定を表示するには、showsc コマンドを使用します。このコマンドの詳細は、82 ページの「showsc」を参照してください。

scadm ユーティリティーの場合

- この変数の現在の値を表示するには、show コマンドを使用します。詳細は、140 ページの「scadm show」を参照してください。

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 98 ページの「システムユーザー変数」
- 82 ページの「showsc」

## ser\_data

この変数はシリアル管理ポート (SERIAL MGT) のデータビット数を設定します。この値はあらかじめ設定されており、変更することはできません。

デフォルト設定は 8 です。

sc> プロンプトの場合

- この変数の現在の値を表示するには、showsc コマンドを使用します。このコマンドの詳細は、82 ページの「showsc」を参照してください。

scadm ユーティリティの場合

- この変数の現在の値を表示するには、show コマンドを使用します。詳細は、140 ページの「scadm show」を参照してください。

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 98 ページの「システムユーザー変数」
- 82 ページの「showsc」

## ser\_parity

この変数はシリアル管理ポート (SERIAL MGT) のパリティを設定します。この値はあらかじめ設定されており、変更することはできません。

デフォルト設定は none です。

sc> プロンプトの場合

- この変数の現在の設定を表示するには、showsc コマンドを使用します。このコマンドの詳細は、82 ページの「showsc」を参照してください。

scadm ユーティリティの場合

- この変数の現在の値を表示するには、show コマンドを使用します。詳細は、140 ページの「scadm show」を参照してください。

## 関連情報

- 95 ページの「シリアル管理ポート変数」
- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 82 ページの「showsc」

## ser\_stopbits

この変数はシリアル管理ポート (SERIAL MGT) のストップビット数を設定します。この値はあらかじめ設定されており、変更することはできません。

デフォルト設定は 1 です。

sc> プロンプトの場合

- この変数の現在の設定を表示するには、showsc コマンドを使用します。このコマンドの詳細は、82 ページの「showsc」を参照してください。

scadm ユーティリティーの場合

- この変数の現在の値を表示するには、show コマンドを使用します。詳細は、140 ページの「scadm show」を参照してください。

## 関連情報

- 95 ページの「シリアル管理ポート変数」
- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 82 ページの「showsc」

## sys\_autorestart

ALOM には、ホストサーバーを監視して、ホストサーバーのハングアップや動作の停止を検出する「ウォッチドッグ」機能があります。ホストからの応答を待機している間にウォッチドッグ機能がタイムアウトした場合の ALOM の動作を指定するには、この変数を使用します。ウォッチドッグ機能がサーバーの動作停止を検出すると、ALOM イベントログに記録されます。

sys\_autorestart には、次の 3 つのオプションがあります。

- none - ALOM イベントログへのイベントの記録のみを行います。
- xir - XIR (外部強制リセット) を実行します。XIR のタイムアウト値は、sys\_xirtimeout 変数 (デフォルトタイムアウト値は 900 秒、つまり 15 分) で設定されます。詳細は、125 ページの「sys\_xirtimeout」を参照してください。
- reset - サーバーをリセットして、Solaris オペレーティングシステムを起動します。詳細は、60 ページの「reset」を参照してください。

デフォルト値は `xir` です。

---

注 – `xir` および `reset` オプションの場合は、その動作について説明するログエントリに加えて、ALOM イベントログにもイベントが記録されます。

---

表 5-18 `sys_autorestart` に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティ
変数の値の指定	68 ページの「 <code>setupsc</code> 」	
現在の値の表示	82 ページの「 <code>showsc</code> 」	140 ページの「 <code>scadm show</code> 」
変数の値の変更	67 ページの「 <code>setsc</code> 」	139 ページの「 <code>scadm set</code> 」

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 96 ページの「管理対象システムのインタフェース変数」
- 82 ページの「`showsc`」

## `sys_consolegrablogout`

コンソールセッションの書き込みロックを別のユーザーが取得したときにユーザーセッションを自動的にログアウトするかどうかを指定するには、`sys_consolegrablogout` 変数を使用します。詳細は、46 ページの「`console`」を参照してください。

---

注 – Sun Fire V240 サーバーでは、この変数は常に `true` (デフォルト) に設定され、変更することはできません。

---

このパラメタの状態を表示するには、`sc>` プロンプトで次のように入力します。

```
sc> showsc sys_consolegrablogout
```

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 96 ページの「管理対象システムのインタフェース変数」
- 82 ページの「`showsc`」

## sys\_enetaddr

この変数はシステムソフトウェアによって自動設定されるため、値の設定や変更を行うことはできません。値はサーバーの Ethernet アドレス (MAC アドレス) から読み取られ、ALOM 変数として保存されます。

sc> プロンプトの場合

- この変数の現在の設定を表示するには、showsc コマンドを使用します。このコマンドの詳細は、82 ページの「showsc」を参照してください。

scadm ユーティリティの場合

- この変数の現在の値を表示するには、show コマンドを使用します。詳細は、140 ページの「scadm show」を参照してください。

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 96 ページの「管理対象システムのインタフェース変数」
- 82 ページの「showsc」

## sys\_eventlevel

ホストサーバーに送信する ALOM イベントのレベルを指定するには、この変数を使用します。イベントのレベルには次の 4 種類があります。

- 0 (None) – イベントを表示しない
- 1 (Critical) – 重要度が Critical (高) のイベントのみ
- 2 (Major) – 重要度が Critical (高) および Major (中) のイベント
- 3 (Minor) – 重要度が Critical (高) および Major (中)、Minor (低) のイベント

この変数のデフォルト値は 2 (Major) です。

表 5-19 sys\_eventlevel に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティ
変数の値の指定	68 ページの「setupsc」	
現在の値の表示	82 ページの「showsc」	140 ページの「scadm show」
変数の値の変更	67 ページの「setsc」	139 ページの「scadm set」



## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 96 ページの「管理対象システムのインタフェース変数」
- 82 ページの「showsc」

## sys\_hostname

sys\_hostname 変数はシステムソフトウェアによって自動設定されるため、値の設定や変更を行うことはできません。ホストサーバーを起動して ALOM との通信を開始すると、ALOM はサーバーのオペレーティングシステムからホスト名を読み取ってこの変数に保存します。

sc> プロンプトの場合

- この変数の現在の設定を表示するには、showsc コマンドを使用します。このコマンドの詳細は、82 ページの「showsc」を参照してください。

scadm ユーティリティの場合

- この変数の現在の値を表示するには、show コマンドを使用します。詳細は、140 ページの「scadm show」を参照してください。

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 96 ページの「管理対象システムのインタフェース変数」
- 82 ページの「showsc」

## sys\_xirtimeout

---

**注** – この変数は、sys\_autorestart 変数が xir に設定されている場合のみ機能します。

---

sys\_autorestart 変数を使用して指定した XIR (外部強制リセット) のタイムアウト値を設定するには、この変数を使用します。XIR が指定の時間 (秒) 内に完了しない場合、XIR は中止され、サーバーは強制的にハードリセットされます。タイムアウトを 0 秒に指定すると、ウォッチドッグの XIR イベントのあとに XIR がタイムアウトすることはありません。

タイムアウトに 0 秒以外の値を指定する場合は、900 ~ 10,800 秒 (15 分から 3 時間) を指定してください。1 ~ 899 の値を指定すると、値は 900 に設定されます。10,800 より大きい値を指定すると、値は 10,800 に設定されます。

この変数の値を `setupsc` コマンドの実行時に指定することもできます。この変数を `setupsc` を使用して設定すると、次のプロンプトが表示されます。

```
How many seconds should be allowed for an XIR to complete (maximum
timeout of 10800s) [900]?
```

表 5-20 `sys_xirtimeout` に関する処理

処理	ALOM シェルコマンド	scadm ユーティリティ
変数の値の指定	68 ページの「 <code>setupsc</code> 」	
現在の値の表示	82 ページの「 <code>showsc</code> 」	140 ページの「 <code>scadm show</code> 」
変数の値の変更	67 ページの「 <code>setsc</code> 」	139 ページの「 <code>scadm set</code> 」

## 関連情報

- 93 ページの「ALOM 構成変数の概要」
- 96 ページの「管理対象システムのインタフェース変数」
- 82 ページの「`showsc`」

## 第6章

---

# scadm ユーティリティーの使用方 法

---

この章では、システムコントローラ管理 (scadm) ユーティリティーの概要とこれを使用したシステムの管理方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 127 ページの「scadm ユーティリティーの概要」
  - 128 ページの「scadm ユーティリティーを開始する」
  - 128 ページの「scadm ユーティリティーへのパスを設定する」
  - 130 ページの「scadm コマンドの一覧」
  - 132 ページの「scadm コマンドの説明」
- 

## scadm ユーティリティーの概要

Solaris オペレーティングシステムの機能の一部であるシステムコントローラ管理 (scadm) ユーティリティーを使用すると、ホストサーバーにログインして ALOM に関するさまざまな処理を実行できます。

scadm コマンドは複数の機能を制御します。その中には ALOM の環境変数の表示や設定を行う機能もあります。コマンドの詳細は、130 ページの「scadm コマンドの一覧」を参照してください、構成変数の詳細は、93 ページの「ALOM 構成変数の使用」を参照してください。

scadm を使用するには、スーパーユーザーでホストにログインする必要があります。

---

**注** – サーバーで SunVTS™ ソフトウェアが動作していると、scadm ユーティリティーは機能しません。

---

scadm ユーティリティーの出力結果は stdout に出力されます。スクリプトで scadm を使用して、ホストシステムから ALOM を管理および構成することができます。詳細は、33 ページの「ALOM から警告を送信するスクリプトの作成」を参照してください。

scadm ユーティリティーの詳細は、scadm のマニュアルページを参照してください。システムプロンプトで **man scadm** と入力します。scadm のマニュアルページは、Solaris オペレーティングシステムの各バージョンの Solaris HW サプリメント CD に収録されています。

## ▼ scadm ユーティリティーを開始する

1. scadm ユーティリティーへのパスを設定します。  
詳細は、128 ページの「scadm ユーティリティーへのパスを設定する」を参照してください。
2. ホストシステムにスーパーユーザーでログインします。
3. スーパーユーザープロンプトで **scadm** と入力してから、使用するコマンドを入力します。  
詳細は、130 ページの「scadm コマンドの一覧」を参照してください。

---

**注** – サーバーで SunVTS ソフトウェアが動作していると、scadm ユーティリティーは機能しません。

---

## 関連情報

130 ページの「scadm コマンドの一覧」

## ▼ scadm ユーティリティーへのパスを設定する

scadm ユーティリティーへのパスを設定するには、次の 2 つの手順を実行します。

1. システムの正しいプラットフォーム名を調べます。  
詳細は、129 ページの「システムのプラットフォーム名を調べる」を参照してください。
2. システム上の scadm へのパスを設定します。

パスの設定方法については、Solaris オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。Solaris オペレーティングシステムで使用するコマンドシェルや、パス情報を記述するファイルの種類によって手順は異なります。

scadm ユーティリティーは次のディレクトリに存在します。

```
/usr/platform/platform-name/sbin
```

*platform-name* にはシステムのプラットフォーム名を指定します。

## ▼ システムのプラットフォーム名を調べる

- システムプロンプトで、**uname -i** と入力します。

次のような結果が表示されます。

```
% uname -i  
SUNW,Netra-240
```

表示される結果はサーバーのモデルによって異なります。この例では、ALOM ソフトウェアのデフォルトのインストールディレクトリは次の場所になります。

```
/usr/platform/SUNW,Netra 240/sbin
```

### 関連情報

- 128 ページの「scadm ユーティリティーを開始する」
- 130 ページの「scadm コマンドの一覧」
- 162 ページの「scadm のエラーメッセージ」

# scadm コマンドの一覧

scadm コマンドは ALOM コマンドと同様の機能を果たします。

## scadm コマンドの概要

次の表に、scadm ユーティリティーのコマンドの一覧を示します。

表 6-1 scadm コマンドの一覧

コマンド	説明	参照先
scadm help	scadm コマンドの一覧と、各コマンドの簡単な説明とその構文を表示します。	135 ページの「scadm help」
scadm コマンドの説明	日付と時間を表示します。	132 ページの「scadm コマンドの説明」
scadm shownetwork	現在のネットワーク構成情報を表示します。	141 ページの「scadm shownetwork」
scadm show	指定した ALOM 構成変数の現在の値を表示します。	140 ページの「scadm show」
scadm loghistory	ALOM イベントバッファに記録されたイベントを表示します。	136 ページの「scadm loghistory」
scadm resetrsc [- s]	すぐに ALOM をリセットします。-s オプションを指定すると、ソフトリセットが行われます。	137 ページの「scadm resetrsc」
scadm set	指定した ALOM 構成変数に指定の値を設定します。	139 ページの「scadm set」
scadm download	メインファームウェアまたは bootmon ファームウェアを ALOM のフラッシュ PROM にダウンロードします。	133 ページの「scadm download」
scadm modem_setup	サポート対象のプラットフォーム上でモデム通信を行います。Netra 240 ではモデムトランザクションの送信はサポートされていません。	137 ページの「scadm modem_setup」
scadm send_event [- c]	カスタムメッセージをイベントとして送信します。-c オプションを指定すると、イベントに重要度「高」が割り当てられます。	138 ページの「scadm send_event」

表 6-1 scadm コマンドの一覧 (続き)

コマンド	説明	参照先
scadm version [-v]	ALOM のバージョン情報を表示します。-v オプションを指定すると、詳細情報が表示されます。	148 ページの「scadm version」
scadm useradd	ALOM ユーザーアカウントを追加します。	142 ページの「scadm useradd」
scadm userdel	ALOM ユーザーアカウントを削除します。	143 ページの「scadm userdel」
scadm usershow	ALOM ユーザーアカウントに関する情報を表示します。	144 ページの「scadm usershow」
scadm userpassword	ユーザーパスワードを設定または変更します。	145 ページの「scadm userpassword」
scadm userperm	ユーザー権限を設定または変更します。	146 ページの「scadm userperm」

## ▼ scadm コマンドを使用する

scadm ユーティリティへのパスを設定してからホストシステムにスーパーユーザーでログインするか、cd コマンドで `/usr/platform/platform/sbin` ディレクトリに移動します。*platform* はホストサーバーのプラットフォーム名です。パスの設定およびサーバーのプラットフォーム名の確認については、128 ページの「scadm ユーティリティへのパスを設定する」を参照してください。

- コマンドを使用するには、ホストシステムのスーパーユーザープロンプトで次のように入力します。*command* には使用するコマンドを指定します。

```
# scadm command
```

## 関連情報

162 ページの「scadm のエラーメッセージ」

# scadm コマンドの説明

## scadm date

ALOM の日付と時間を表示するには、scadm date コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの showdate と同じ機能です。

---

注 - ホストサーバーは現地時間を使用しますが、ALOM は UTC を使用します。ALOM ではタイムゾーンの変換や夏時間の変更はサポートしていません。

---

### ▼ scadm date コマンドを使用する

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。
2. システムのスーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm date
```

次に例を示します。

```
# scadm date  
MON SEP 16 21:45:00 2002 UTC
```

date コマンドで指定する値の形式は mmddHHMMccyy.SS です。詳細は次のとおりです。

表 6-2 scadm date コマンドオプション

オプション	説明
mm	月
dd	日
HH	時 (24 時間制)
MM	分
.SS	秒



表 6-2 scadm date コマンドオプション (続き)

オプション	説明
cc	世紀 (年の上 2 桁)
yy	年 (年の下 2 桁)

## 関連情報

- 130 ページの「scadm コマンドの一覧」
- 162 ページの「scadm のエラーメッセージ」

## scadm download

ALOM ファームウェアをダウンロードするには、download コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの flashupdate と同じ機能です。コマンドの詳細は、50 ページの「flashupdate」を参照してください。

ALOM 製品ページのダウンロードサイトへのリンクは、次のサイトを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/alom.html>

ALOM ファームウェアは、メインイメージと起動監視 (bootmon) の 2 つで構成されます。

---

**注** – メインファームウェアイメージのダウンロードには最大 10 分程度かかることがあります。起動監視 (bootmon) イメージのダウンロードには数分かかることがあります。ダウンロードが完了すると、ALOM は自動的にリセットされます。

---



---

**注意** – ファームウェアのアップデート処理中に、scadm resetrsc コマンドを使用しないでください。ALOM を手動でリセットする必要がある場合は、アップデートが完了するまで待ってください。アップデート中に scadm resetrsc コマンドを使用すると、ALOM ファームウェアに障害が発生し、使用できなくなる場合があります。

---

## ▼ scadm download コマンドを使用する

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。
2. メインイメージをダウンロードするには、スーパーユーザープロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm download filename
```

*filename* はダウンロードするメインイメージファイル名です。

次に例を示します。

ALOM メインファームウェアをダウンロードするには、次のように入力します。

```
# scadm download/usr/platform/platform-name/lib/images/alommainfw
```

*platform-name* にはホストサーバーのプラットフォーム名を指定します。

3. 起動監視 (bootmon) をダウンロードするには、スーパーユーザープロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm download boot filename
```

*filename* にはダウンロードする起動監視ファイル名を指定します。

次に例を示します。

bootmon イメージをダウンロードするには、次のように入力します。

```
# scadm download boot /usr/platform/platform-name/lib/images/alombootfw
```

*platform-name* にはホストサーバーのプラットフォーム名を指定します。パスの設定およびサーバーのプラットフォーム名の確認については、128 ページの「scadm ユーティリティへのパスを設定する」を参照してください。

## コマンドオプション

download コマンドのオプションは boot のみです。

このオプションを指定すると、download コマンドは指定したダウンロードファイルで起動監視イメージをダウンロードします。

---

注 - メインファームウェアイメージのダウンロードには最大 10 分程度かかることがあります。起動監視イメージのダウンロードには数分かかることがあります。

---

## 関連情報

- 130 ページの「scadm コマンドの一覧」
- 162 ページの「scadm のエラーメッセージ」

## scadm help

scadm ユーティリティーで使用可能なコマンドとその構文を一覧表示するには、help コマンドを使用します。

## ▼ scadm help コマンドを使用する

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。
2. システムのスーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm help
```

次に例を示します。

コード例 6-1      scadm help コマンド

```
# scadm help
USAGE: scadm <command> [options]
For a list of commands, type "scadm help"
scadm- COMMANDS SUPPORTED
help, date, set, show, resetrsc, download, send_event, modem_setup, useradd,
userdel, usershow, userpassword, userperm, shownetwork, loghistory, version
SCADM - COMMAND DETAILS
scadm help => this message
scadm date [-s] | [[mmdd]HHMM | mmddHHMM[cc]yy] [.SS] => print or set date
scadm set <variable> <value> => set variable to value
scadm show [variable] => show variable(s)
scadm resetrsc [-s] => reset SC (-s soft reset)
scadm download [boot] <file> => program firmware or [boot] monitor
scadm send_event [-c] "message" => send message as event (-c CRITICAL)
scadm modem_setup => connect to modem port
```

## コード例 6-1 scadm help コマンド (続き)

```
scadm useradd <username> => add SC user account
scadm userdel <username> => delete SC user account
scadm usershow [username] =>show user details
scadm userpassword <username> => set user password
scadm userperm <username> [cuar] => set user permissions
scadm shownetwork => show network configuration
scadm loghistory => show SC event log
scadm version [-v] => show SC version (-v verbose)
#
```

## 関連情報

- 130 ページの「scadm コマンドの一覧」
- 162 ページの「scadm のエラーメッセージ」

## scadm loghistory

ALOM イベントバッファに記録されたすべてのイベントの履歴を表示するには、scadm loghistory コマンドを使用します。表示されるイベントには、サーバーリセットイベントおよびシステムの状態を変更するすべての ALOM コマンドまたは scadm コマンド (たとえば、ALOM コマンドシェルの reset、poweroff、poweron) があります。このコマンドは ALOM シェルコマンドの showlogs と同じ機能です。

ログに記録される各イベントの形式を次に示します。

```
date time errorcode: message
```

date time は ALOM が記録したイベントの発生時間を表します。errorcode はログ記録されたイベントのコード、message はイベントの簡単な説明です。

## ▼ scadm loghistory コマンドを使用する

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。
2. スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm loghistory.
```

イベントログエントリの例を次に示します。

```
MAR 08 13:41:21 wgs-48-49: 00060000: "SC Login: User admin Logged on."
```

---

注 – コンソールログに記録されているタイムスタンプはサーバーの時間を反映しています。ALOM イベントログのタイムスタンプは UTC です。

---

## 関連情報

- 130 ページの「scadm コマンドの一覧」
- 162 ページの「scadm のエラーメッセージ」

## scadm modem\_setup

scadm modem\_setup コマンドは Netra 240 サーバーではサポートされていません。外部モデムを設定して受信トランザクションをサポートする方法については、if\_modem 変数の説明を参照してください (詳細は、102 ページの「if\_modem」を参照)。

## 関連情報

- 130 ページの「scadm コマンドの一覧」
- 162 ページの「scadm のエラーメッセージ」

## scadm resetrsc

ALOM をリセットするには、scadm resetrsc コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの resetsc と同じ機能です。コマンドの詳細は、61 ページの「resetsc」を参照してください。



---

**注意** – ファームウェアのアップデート (scadm download または flashupdate) 処理中に、scadm resetrsc コマンドを使用しないでください。ALOM をリセットする必要がある場合は、アップデートが完了するまで待ってください。アップデート中に scadm resetrsc コマンドを使用すると、ALOM ファームウェアに障害が発生し、使用できなくなる場合があります。詳細は、133 ページの「scadm download」および 50 ページの「flashupdate」を参照してください。

---

## ▼ scadm resetrsc コマンドを使用する

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。
2. スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm resetrsc option
```

指定可能な *option* は `-s` です。

このコマンドを実行すると、ALOM がすぐにリセットされます。

---

**注** - scadm resetrsc コマンドの入力後にホストサーバーから応答がないと、すぐにリセットされます。

---

## コマンドオプション

resetrsc コマンドのオプションは `-s` のみです。

このオプションを指定すると、ソフトリセットが行われます。`-s` オプションを指定せずに scadm resetrsc コマンドを実行すると、ハードリセットが行われます。

## 関連情報

- 130 ページの「scadm コマンドの一覧」
- 162 ページの「scadm のエラーメッセージ」

## scadm send\_event

ALOM イベントログに記録されたすべてのイベントの警告を電子メールで送信することができます。

次の宛先にイベントを送信するには、scadm send\_event コマンドを使用します。

- 電子メール - mgt\_mailalert 構成変数で設定した電子メールアドレスに警告を送信します。詳細は、104 ページの「mgt\_mailalert」を参照してください。
- サーバーの syslog - このオプションは sys\_eventlevel 構成変数を使用して設定します。詳細は、124 ページの「sys\_eventlevel」を参照してください。
- ALOM にログイン中のすべてのユーザー - このオプションは sc\_clieventlevel 構成変数で設定します。詳細は、113 ページの「sc\_clieventlevel」を参照してください。

## ▼ scadm send\_event コマンドを使用する

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。
2. スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm send_event "message"
```

*message* にはカスタマイズしたメッセージを指定します。

次に例を示します。

-c オプションを使用すると、重要度が「高」のイベントが送信されます。

```
# scadm send_event -c "Restarting the server at 4:00 PM"
```

-c オプションを指定せずに `send_event` を実行すると、重要度が「中」のイベントが送信されます。

```
# scadm send_event "TEST"
```

### 関連情報

- 130 ページの「scadm コマンドの一覧」
- 162 ページの「scadm のエラーメッセージ」
- 30 ページの「カスタマイズした警告の送信」

## scadm set

ALOM 構成変数に目的の値を設定するには、`scadm set` コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの `setsc` と同じ機能です。詳細は、37 ページの「ALOM コマンドシェルの概要」を参照してください。

## ▼ scadm set コマンドを使用する

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。

2. スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm set variable value
```

*variable* には設定する変数名、*value* には変数の値を指定します。

次に例を示します。

```
# scadm set netsc_ipaddr 123.123.123.123
```

## 関連情報

- 130 ページの「scadm コマンドの一覧」
- 162 ページの「scadm のエラーメッセージ」

## scadm show

指定した ALOM 構成変数の値を表示するには、scadm show コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの showsc と同じ機能です。コマンドの詳細は、37 ページの「ALOM コマンドシェルの概要」を参照してください。

## ▼ scadm show コマンドを使用する

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。
2. スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm show variable
```

*variable* には変数名を指定します。

次に例を示します。

```
# scadm show netsc_ipaddr  
xxx.xxx.xxx.xxx
```



変数を指定せずに **scadm show** を実行すると、すべての変数の値が表示されます。

コード例 6-2      `scadm show` コマンドの出力例

```
# scadm show
if_network="true"
if_modem="false"
if_emailalerts="false"
sys_autorestart="xir"
sys_xirtimeout="900"
netsc_tpelinktest="true"
netsc_dhcp="false"
netsc_ipaddr="129.148.40.233"
netsc_ipnetmask="255.255.255.0"
netsc_ipgateway="129.148.40.254"
mgt_mailhost=""
mgt_mailalert=""
sc_customerinfo=""
sc_escapechars="#."
sc_powerondelay="true"
sc_powerstatememory="false"
sc_clipasswdecho="true"
sc_cliprompt="sc"
sc_clitimeout="0"
sc_clieventlevel="2"
sc_backupuserdata="true"
sys_eventlevel="2"
```

## 関連情報

- 130 ページの「`scadm` コマンドの一覧」
- 162 ページの「`scadm` のエラーメッセージ」

## `scadm shownetwork`

`scadm shownetwork` コマンドを使用すると、現在のネットワーク構成が表示されます。このコマンドは ALOM シェルコマンドの `shownetwork` と同じ機能です。コマンドの詳細は、80 ページの「`shownetwork`」を参照してください。

---

**注** – 最後にホストサーバーを起動してからネットワーク構成を変更した場合は、このコマンドの出力結果に変更後の構成情報が表示されないことがあります。変更後の構成を表示するには、サーバーを再起動してください。

---

## ▼ scadm shownetwork コマンドを使用する

このコマンドの出力結果は次の例と同様です。XXX.XXX.XXX.XXX にはネットワーク構成の IP アドレス、ネットマスク、Ethernet アドレスが表示されます。

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。
2. スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm shownetwork
SC network configuration is:
IP address: XXX.XXX.XXX.XXX
Gateway Address: XXX.XXX.XXX.XXX
Netmask: XXX.XXX.XXX.XXX
Ethernet Address: XX:XX:XX:XX:XX:XX
```

### 関連情報

- 130 ページの「scadm コマンドの一覧」
- 162 ページの「scadm のエラーメッセージ」

## scadm useradd

ALOM にユーザーアカウントを追加するには、scadm useradd コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの useradd と同じ機能です。コマンドの詳細は、85 ページの「useradd」を参照してください。

ALOM には、最大 15 件の一意のユーザーアカウントを追加できます。

## ▼ scadm useradd コマンドを使用する

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。
2. スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm useradd username
```

*username* には追加するユーザー名を指定します。

*username* には次の制限があります。

- 英字および数字、ピリオド (.)、下線 (\_)、ハイフン (-) を使用できます。

- 1 文字以上の英小文字を使用して、16 文字以内で指定する必要があります。
- 英字で始める必要があります。

ユーザー名にパスワードを割り当てるには、`scadm userpassword` コマンドを使用します。詳細は、145 ページの「`scadm userpassword`」を参照してください。

ユーザー名に権限レベルを設定するには、`scadm userperm` コマンドを使用します。詳細は、146 ページの「`scadm userperm`」を参照してください。

## 関連情報

- 130 ページの「`scadm` コマンドの一覧」
- 162 ページの「`scadm` のエラーメッセージ」

## `scadm userdel`

ALOM からユーザーアカウントを削除するには、`scadm userdel` コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの `userdel` と同じ機能です。コマンドの詳細は、86 ページの「`userdel`」を参照してください。

---

注 – デフォルトの `admin` アカウントを ALOM から削除することはできません。

---

## ▼ `scadm userdel` コマンドを使用する

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。
2. スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm userdel username
```

*username* には削除するユーザー名を指定します。

## 関連情報

- 130 ページの「`scadm` コマンドの一覧」
- 162 ページの「`scadm` のエラーメッセージ」

## scadm usershow

指定したユーザーの ALOM アカウントおよびユーザーに付与された権限、パスワードの割り当ての有無を表示するには、scadm usershow コマンドを使用します。権限およびパスワードの詳細は、146 ページの「scadm userperm」および 145 ページの「scadm userpassword」を参照してください。特定のユーザーに関する情報を表示するには、usershow コマンドのあとにユーザー名を指定します。ユーザー名を指定せずに usershow を実行すると、すべてのアカウントが表示されます。このコマンドは ALOM シェルコマンドの usershow と同じ機能です。コマンドの詳細は、91 ページの「usershow」を参照してください。

### ▼ scadm usershow コマンドを使用する

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。
2. 1 ユーザーの情報を表示するには、スーパーユーザープロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm usershow username
```

*username* には情報を表示するユーザー名を指定します。ユーザー名を指定せずに usershow を実行すると、すべてのアカウントが表示されます。

次に例を示します。

```
# scadm usershow
Username      Permissions   Password?
-----
admin         cuar         Assigned
wwilson      cuar         Assigned
jadams       --cr         None
```

コード例 6-3 scadm usershow の特定ユーザーの出力例

```
# scadm usershow wwilson
Username      Permissions   Password?
-----
wwilson      cuar         Assigned
```

## 関連情報

- 130 ページの「scadm コマンドの一覧」
- 162 ページの「scadm のエラーメッセージ」

## scadm userpassword

指定したユーザーアカウントのパスワードを設定または変更するには、scadm userpassword コマンドを使用します。このコマンドは ALOM シェルコマンドの userpassword と同じ機能です。コマンドの詳細は、87 ページの「userpassword」を参照してください。

## ▼ scadm userpassword コマンドを使用する

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。
2. スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm userpassword username
```

*username* にはパスワードを設定または変更するユーザー名を指定します。

このコマンドでは、現在のパスワードの入力は要求されません。

次に例を示します。

```
# scadm userpassword msmith
New password:
Re-enter new password:
```

## パスワードの制限

パスワードには次の制限があります。

- 6 ～ 8 文字で指定する必要があります。
- 2 文字以上の英字 (大文字または小文字) と 1 文字以上の数字または特殊文字を使用する必要があります。英字には大文字と小文字の両方が使用できます。
- ユーザーのログイン名と同じものは使用できません。また、ユーザーのログイン名の文字を逆にしたり並べ変えたものも使用できません。照合には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。

- 古いパスワードと 3 文字以上異なるものにする必要があります。照合には、大文字と小文字は同じ文字として扱われます。

## 関連情報

- 130 ページの「scadm コマンドの一覧」
- 162 ページの「scadm のエラーメッセージ」

## scadm userperm

指定したユーザーアカウントの権限レベルを設定または変更するには、`userperm` コマンドを使用します。このコマンドは `ALOM` シェルコマンドの `userperm` と同じ機能です。詳細は、88 ページの「`userperm`」を参照してください。

---

**注** – `ALOM` にアカウントが 1 つ (`admin` アカウント) しかない場合、このアカウントの削除や、このアカウントの **a** または **u** レベルのユーザー権限の削除を行うことはできません。

---

## 権限レベル

すべてのユーザーが `ALOM` 情報を参照できますが、`ALOM` の機能の実行や設定の変更には権限が必要です。ユーザーの権限レベルは 4 種類あります。

表 6-3 scadm userperm の権限レベル

権限レベル	説明
a	管理 (Administrative)。このユーザーには <code>ALOM</code> 構成変数の状態を変更する権限があります。詳細は、93 ページの「 <code>ALOM</code> 構成変数の使用」を参照してください。
u	ユーザー管理 (User administration)。このユーザーには、ユーザーの追加やユーザーの削除、ユーザー権限の変更、ほかのユーザーの権限レベルの変更を行う権限があります。詳細は、142 ページの「 <code>scadm useradd</code> 」および 143 ページの「 <code>scadm userdel</code> 」を参照してください。
c	コンソール権限 (Console permission)。このユーザーには、ホストサーバーのシステムコンソールに接続する権限があります。 <code>console</code> コマンドの詳細は、46 ページの「 <code>console</code> 」を参照してください。

表 6-3 scadm userperm の権限レベル (続き)

権限レベル	説明
r	リセット / 電源権限 (Reset/power permission)。このユーザーには、ホストサーバーのリセットや、サーバーの電源の投入または切断、ALOM の再起動を行う権限があります。これらの処理については、60 ページの「reset」および 57 ページの「poweron」、56 ページの「poweroff」、137 ページの「scadm resetrsc」を参照してください。

指定したユーザーに権限を割り当てない (権限レベル 0 を割り当てる) 場合は、ユーザーの権限は読み取り専用になります。これは新規 ALOM ユーザーアカウントのデフォルト権限レベルです。

**注** - ALOM をはじめて起動するとき使用するアカウントのデフォルトユーザー権限は `cuar` (フル権限) です。このアカウントは `admin` アカウントであるため、削除したり、権限を変更したりすることはできません。

ユーザーの権限レベルを参照するには、`usershow` コマンドを使用します。詳細は、144 ページの「`scadm usershow`」を参照してください。

## ▼ scadm userperm コマンドを使用する

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。
2. スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm userperm username perms
```

`username` にはアカウント、`perms` には設定または変更する権限レベルを指定します。

たとえば、ユーザー `msmith` に `c` および `r` のユーザー権限を割り当てるには、システムのスーパーユーザープロンプトから次のコマンドを入力します。

```
# scadm userperm msmith cr
```

## 関連情報

- 130 ページの「`scadm` コマンドの一覧」
- 162 ページの「`scadm` のエラーメッセージ」

## scadm version

ALOM のバージョン情報を表示するには、scadm version コマンドを使用します。

### ▼ scadm version コマンドを使用する

1. ホストサーバーにスーパーユーザーでログインします。
2. スーパーユーザーのプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
# scadm version option
```

指定可能な *option* は *-v* です。次に例を示します。

```
# scadm version
SC Version v1.3
SC Bootmon Version: v1.3.0
SC Firmware Version: v1.3.0
```

```
# scadm version -v
SC Version v1.3
SC Bootmon Version: v1.3.0
SC Bootmon checksum: 908462D2
SC Firmware Version: v1.3.0
SC Build Release: 38
SC firmware checksum: 11F7196A
SC firmware built: May 19 2003, 14:20:22
SC System Memory Size 8MB
SC NVRAM Version = a
SC hardware type: 1
```

### 関連情報

- 130 ページの「scadm コマンドの一覧」
- 162 ページの「scadm のエラーメッセージ」



# OpenBoot PROM の使用方法

OpenBoot PROM の一部の機能では ALOM をサポートしています。これらの機能を使用するには、ok プロンプトでコマンドを入力します。この章では、次の内容について説明します。

- 149 ページの「ALOM コマンドシェルと OpenBoot PROM プロンプトの切り替え」
- 150 ページの「reset-sc コマンド」
- 150 ページの「.sc コマンド」

## ALOM コマンドシェルと OpenBoot PROM プロンプトの切り替え

Solaris オペレーティングシステムがホストサーバーで動作している場合は、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> break
Are you sure you want to send a break to the system [y/n]? y
sc> console
ok
```

ホストサーバーにすでに OpenBoot PROM プロンプト (ok) が表示されている場合は、sc> プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> console
ok
```

OpenBoot PROM プロンプトから ALOM コマンドシェルに切り替える場合は、ok プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
ok #.  
sc>
```

---

**注** - #. (ハッシュ記号とピリオド) は、ALOM コマンドプロンプトに切り替えるときに使用するデフォルトのエスケープ文字シーケンスです。エスケープ文字シーケンスを変更するには、`sc_escapechars` 変数を使用します。詳細は、118 ページの「`sc_escapechars`」を参照してください。

---

ok プロンプトから Solaris オペレーティングシステムに戻るには、次のコマンドを入力します。

```
ok go
```

---

## reset-sc コマンド

OpenBoot PROM プロンプト (ok) から ALOM をリセットするには、`reset-sc` コマンドを使用します。

このコマンドを使用するには、ok プロンプトで `reset-sc` と入力します。

次に例を示します。

```
ok reset-sc
```

---

## .sc コマンド

ALOM を調べ、OpenBoot PROM (ok) プロンプトから ALOM の状態を取得するには、`.sc` コマンドを使用します。

次の手順に従って、このコマンドを使用します。

1. ALOM の `sc>` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
sc> break -y
```

2. OpenBoot PROM の `ok` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
ok setenv auto-boot? false
```

3. `ok` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
ok reset-all
```

4. `ok` プロンプトで次のコマンドを入力します。

```
ok .sc
```

次に例を示します。

コード例 7-1 `.sc` コマンドの出力例

```
ok .sc  
SEEPROM: OK  
I2C: OK  
Ethernet: OK  
Ethernet (2): OK  
CPU: OK  
RAM: OK  
Console: OK  
SC Control line: OK  
FlashRAM Boot CRC: OK  
FlashRAM Main CRC: OK
```



# 付録 A

## 障害追跡

ここでは、ALOM を使用するときの一般的な問題、ALOM シェルのエラーメッセージ、scadm の一般的なエラーメッセージ、および障害追跡の提案について説明します。この付録の構成は、次のとおりです。

- 153 ページの「モデム設定の障害追跡」
- 154 ページの「ALOM の問題の障害追跡」
- 155 ページの「ALOM によるサーバーの障害追跡」
- 156 ページの「ALOM シェルのエラーメッセージ」
- 162 ページの「scadm のエラーメッセージ」

## モデム設定の障害追跡

表 A-1 に、一般的なモデム設定の問題に対する解決方法を示します。

表 A-1 モデムの障害追跡

問題	解決方法
ALOM モデムが応答しない	正しく配線されていることを確認します。詳細は、 <code>if_modem</code> 変数を参照してください。
ALOM モデムの応答がすぐに途絶える	<code>if_modem</code> 変数が <code>true</code> に設定されていることを確認します。
ALOM モデムが応答しているが接続していないようだ	<ol style="list-style-type: none"><li>1. ALOM エスケープ文字 <code>#.</code> (ハッシュ記号とピリオド) を入力して、<code>sc&gt;</code> プロンプトに戻ることができるかどうかを確認します。</li><li>2. シリアル管理ポートとモデムポートの速度が同じ値に設定されていることを確認します。</li><li>3. データ圧縮を無効にしてみます。ほとんどのモデムが、<code>AT&amp;K0</code> モデムコマンドによって無効になります。</li></ol>

# ALOM の問題の障害追跡

表 A-2 に、一般的な ALOM の問題とその解決方法を示します。

表 A-2 ALOM 診断

問題	説明
ALOM にログインできない	<p>次の処置で ALOM のログインに関する問題の障害追跡を行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 接続している ALOM デバイス名 (bert-sc など) を確認します。該当するサーバーの ALOM 名の指定に間違いがないことを確認します。</li><li>• 使用している ALOM ユーザー名に間違いがないことを確認します。ALOM ユーザー名はシステムのユーザー名とは異なる場合があります。</li><li>• 使用している ALOM パスワードに間違いがないことを確認します。</li></ul>
telnet コマンドで ALOM に接続できない	<p>ALOM は 1 サーバーあたり、同時に 4 つの Telnet セッションをサポートします。最大数の Telnet セッションがアクティブな場合、さらに telnet コマンドで接続しようとすると、connection closed というエラーが発生します。次の例は、UNIX オペレーティング環境のシステムメッセージを示しています。</p> <pre>% telnet bert-sc Trying 129.148.49.120... Connected to bert-sc.Escape character is '^]'. Connection closed by foreign host.</pre>
Ethernet 接続で ALOM に接続できない	<p>まず、サーバーにスーパーユーザーでログインして、scadm version コマンドが成功するかどうかを確認します。成功した場合、ALOM は動作しているので、Ethernet の設定に問題があります。Ethernet 構成変数が正しく設定されているかどうかを確認するには、scadm show コマンドを使用します。</p> <p>Ethernet の障害追跡を次のように行うこともできます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• シリアル管理ポート (SERIAL MGT) を使用して ALOM にログインし、shownetwork コマンドで現在の設定を表示します。詳細は、80 ページの「shownetwork」を参照してください。</li><li>• ネットワーク上のほかのマシンにログインし、ping コマンドで ALOM が動作していることを確認します。ping コマンドの引数には、ホストサーバー名ではなく、ALOM のデバイス名 (servername-sc など) を指定してください。</li><li>• SunVTS 診断を実行して Ethernet 接続を検査します。外部 Ethernet をテストするには、正常に機能している 10M ビットのハブに装置を接続する必要があります。</li><li>• SunVTS 診断を実行して、ALOM カードを検査します。</li><li>• scadm version コマンドを使用して、ALOM の状態を検査します。</li></ul>

表 A-2 ALOM 診断 (続き)

問題	説明
ALOM から警告を受信できない	syslog の <code>sys_eventlevel</code> 変数および ALOM コマンドシェルの <code>sc_clieventlevel</code> 変数、電子メールによる警告の <code>mgt_mailalert</code> 変数の設定を確認して、指定した場所に適切なレベルのイベントが送信されていることを確認します。また、 <code>if_emailalerts</code> が <code>true</code> に設定されていること、および <code>mgt_mailhost</code> が電子メールによる警告用に正しく設定されていることを確認します。詳細は、113 ページの「 <code>sc_clieventlevel</code> 」および 104 ページの「 <code>mgt_mailalert</code> 」を参照してください。
ALOM のパスワードがわからない	ユーザーが ALOM のパスワードを忘れた場合やパスワードが無効であった場合は、サーバーにスーパーユーザーでログインし、 <code>scadm userpassword</code> コマンドを使用して新しいパスワードを設定します。ALOM ユーザーに新しいパスワードを通知してください。詳細は、145 ページの「 <code>scadm userpassword</code> 」を参照してください。
ALOM の一部の機能を使用できない	機能の実行には特定のユーザー権限が必要です。権限レベルを確認してください。詳細は、88 ページの「 <code>userperm</code> 」を参照してください。また、次の問題が存在する可能性もあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ALOM を使用してコンソールログの表示やサーバーコンソールへの接続を行うことができない。</li> <li>• サーバーをデバッグモードで使用したり、ALOM の <code>break</code> コマンドを使用したりすることができない。サーバーの回転式スイッチがロック位置に設定されています。</li> <li>• <code>poweroff</code> コマンドが機能しない。サーバーの電源がすでに切断されています。</li> <li>• <code>poweron</code> コマンドが機能しない。サーバーの電源がすでに投入されているか、回転式スイッチが強制スタンバイ位置に設定されています。</li> </ul>

## ALOM によるサーバーの障害追跡

ALOM は、サーバーが応答しない場合の障害追跡に便利です。サーバーが応答する場合は、サーバーに接続して Sun Management Center、SunVTS、OpenBoot 診断などの標準的な障害追跡ツールを使用します。

サーバーが応答しない場合は、ALOM アカウントにログインして次の処理を行います。

- ALOM イベントログとサーバー環境の状態で問題がないか確認します。詳細は、78 ページの「`showlogs`」および 71 ページの「`showenvironment`」を参照してください。
- コンソールログで最近のエラーメッセージを確認します。詳細は、49 ページの「`consolehistory`」を参照してください。

- システムコンソールに接続してシステムを再起動します。詳細は、46 ページの「console」を参照してください。

## システムコンソール書き込みロックの概要

複数のユーザーが ALOM からシステムコンソールに接続できますが、コンソールへの書き込みアクセスが許可されるのは一度に 1 ユーザーのみです (つまり、1 ユーザーのみがシステムコンソールにコマンドを入力できます)。ほかのユーザーが入力した文字は無視されます。これは「書き込みロック」と呼ばれます。この場合、ほかのユーザーセッションは「読み取り専用モード」になります。システムコンソールにアクセスしているユーザーがほかにいなければ、console コマンドを実行すると、自動的に書き込みロックを取得することになります。書き込みロック中のユーザーを表示するには、showusers コマンドを使用します。詳細は、84 ページの「showusers」を参照してください。

## タイムアウトしたホストサーバーのリセット

ALOM には、ホストサーバーのオペレーティングシステムの停止を検出する「ウォッチドッグ」機能があります。ウォッチドッグ機能は、ホストサーバーのオペレーティングシステムが動作しているかどうかを定期的に確認します。ホストサーバーから応答がないと、一定の時間が経過したあとでウォッチドッグがタイムアウトします。ウォッチドッグがタイムアウトを検出した場合に、ALOM コマンドシェルから reset コマンドでサーバーを手動でリセットする方法と、sys\_autorestart 変数を設定して自動でホストサーバーをリセットする方法があります。詳細は、60 ページの「reset」および 122 ページの「sys\_autorestart」を参照してください。

---

## ALOM シェルのエラーメッセージ

ここでは、ALOM コマンドシェルのエラーメッセージを種類別に示します。

- 157 ページの「使用方法に関するエラー」
- 158 ページの「一般的なエラー」
- 161 ページの「FRU エラー」

これらのメッセージは sc> プロンプトでコマンドを入力したときに表示されます。



## 使用方法に関するエラー

次の表に、コマンド入力時の構文に誤りがある場合に表示される使用方法に関するエラーメッセージを示します。正しい構文については、そのコマンドの説明を参照してください。

表 A-3 使用方法に関するエラーメッセージ

エラーメッセージ	コマンド / 説明	参照先
Error: Invalid command option. Type help to list commands.	Help	53 ページの「help」
Error: Invalid command options Usage: <i>usage string</i>	シェルコマンドは正しく入力されていますが、コマンドのオプションに誤りがあります。 <i>usage string</i> はコマンドオプションの正しい構文を表します。コマンドオプションを確認してからコマンドを再入力してください。	
Error: Invalid configuration parameter.	存在しない構成変数が <code>setsc</code> または <code>showsc</code> コマンドに指定されています。構成テーブルの構成変数と値を確認し、コマンドを再入力してください。	67 ページの「setsc」、 82 ページの「showsc」、 11 ページの「構成ワークシート」
Error: Invalid image. Please check file integrity and specified path.	<code>flashupdate</code> コマンドの実行時にエラーが発生しました。ダウンロードするファームウェアイメージのパスの指定が正しいことを確認してください。パスに問題がなければ、サーバーの管理者にファームウェアイメージの保存場所を確認してください。	50 ページの「flashupdate」
Error: Invalid setting for parameter <i>param</i> .	<code>param</code> に指定した構成変数の値に誤りがあります。使用する構成変数を確認し、コマンドを再入力してください。	11 ページの「構成ワークシート」
Error: Unable to program flash device when system is locked.	ホストサーバーの回転式スイッチがロック位置に設定されています。サーバーのマニュアルを参照して回転式スイッチを標準 (ロックされていない状態) の位置に設定してから、 <code>flashupdate</code> コマンドを再実行してください。	50 ページの「flashupdate」
Error: Unable to set clock while managed system OS is running.	ホストサーバーの動作中に <code>ALOM</code> の日付と時間を設定しようとした。 <code>ALOM</code> の日付と時間を設定する場合は、まずシステムの電源が切断されていることを確認してください。 <code>Solaris OS</code> はサーバーの起動時にシステム時間と <code>ALOM</code> 時間の同期をとります。また、サーバーの動作中にも定期的に同期を実行します。	

## 一般的なエラー

ALOM は次の一般的なエラーを通知します。

表 A-4 一般的なエラーメッセージ

エラーメッセージ	コマンド / 説明	参照先
Error adding user <i>username</i>	useradd コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージのあとにエラーの内容を説明する詳細メッセージが表示されます。	85 ページの「useradd」
Error: Cannot delete admin user	ALOM の admin ユーザーアカウントを削除しようとした。このアカウントを削除することはできません。	
Error changing password for <i>username</i>	userpassword コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージのあとにエラーの内容を説明する詳細メッセージが表示されます。	87 ページの「userpassword」
Error: Inconsistent passwords entered.	userpassword コマンドの実行時に入力した 2 回目のパスワードが最初のパスワードと異なりま	87 ページの「userpassword」
Error: invalid password entered. Password must be 6-8 characters, differ from the previous by at least 3 characters and contain at least two alphabetic characters and at least one numeric or special character.	入力したパスワードが無効です。パスワードの制限を参照し、パスワードを入力し直してください。	87 ページの「userpassword」
Error: invalid username string. Please re-enter username or type 'usershow' to see a list of existing users.	ユーザーアカウントの一覧に存在しない ALOM ユーザーアカウントを指定しました。有効なユーザーアカウントの一覧を表示するには、usershow コマンドを使用してください。	91 ページの「usershow」
Error displaying user <i>username</i>	usershow コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージのあとにエラーの内容を説明する詳細メッセージが表示されます。	91 ページの「usershow」
Error: Invalid IP address for gateway address <netsc_ipgateway> and IP netmask <netsc_ipnetmask>.	入力した netsc_ipaddr 変数の値が netsc_ipgateway 変数および netsc_ipnetmask 変数に指定した値と対応していません。アドレスに誤りがないことを確認してから、setupsc または setsc を再実行してください。	109 ページの「netsc_ipaddr」、 110 ページの「netsc_ipgateway」、 68 ページの「setupsc」、 67 ページの「setsc」

表 A-4 一般的なエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	コマンド / 説明	参照先
Error: Invalid IP netmask for IP address <netsc_ipaddr> and IP gateway <netsc_ipgateway>.	入力した netsc_ipnetmask 変数の値が netsc_ipgateway 変数および netsc_ipaddr 変数に指定した値と対応していません。アドレスに誤りがないことを確認してから、setupsc または setsc を再実行してください。	110 ページの「netsc_ipgateway」、111 ページの「netsc_ipnetmask」、68 ページの「setupsc」、67 ページの「setsc」
Error: Invalid IP gateway for IP address <netsc_ipaddr> and IP netmask <netsc_ipnetmask>.	入力した netsc_ipgateway 変数の値が netsc_ipnetmask 変数および netsc_ipaddr 変数に指定した値と対応していません。アドレスに誤りがないことを確認してから、setupsc または setsc を再実行してください。	110 ページの「netsc_ipgateway」、111 ページの「netsc_ipnetmask」、109 ページの「netsc_ipaddr」、68 ページの「setupsc」、67 ページの「setsc」
Error setting permission for <username>	userperm コマンドの実行中にエラーが発生しました。このメッセージのあとにエラーの内容を説明する詳細メッセージが表示されます。	88 ページの「userperm」
Error: Invalid username string. Please re-enter a username of no more than 16 bytes consisting of characters from the set of alphabetic characters, numeric characters, period (.), underscore (_), and hyphen (-). The first character should be alphabetic and the field should contain at least one lower case alphabetic character.	入力したユーザー名が無効です。ユーザー名の正しい構文を確認し、再入力してください。	85 ページの「useradd」
Error: Unable to execute break as system is locked.	ホストサーバーの正面パネルの回転式スイッチがロック位置に設定されています。回転式スイッチの位置を変更してから、break コマンドを再入力してください。	45 ページの「break」
Failed to allocate buffer for console mode	console コマンドの実行中に、コンソールへの接続に必要なメモリーを十分に割り当てることができませんでした。	46 ページの「console」
Failed to get password for <username>	userpassword コマンドの実行中に SEEPROM エラーが発生しました。コマンドを再実行してください。	87 ページの「userpassword」

表 A-4 一般的なエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	コマンド / 説明	参照先
Failed to set <variable> to <value>	setsc コマンドの実行中に SEEPROM エラーが発生しました。	67 ページの「setsc」
Invalid login	ログインに失敗しました。このメッセージはログインプロンプトに表示されます。	
Invalid password	userpassword コマンドで入力したパスワードが無効です。	87 ページの「userpassword」
Invalid permission: <permission>	入力したユーザー権限が無効です。	88 ページの「userperm」
Error: Maximum number of users already configured.	ALOM にすでに 16 件 (最大件数) のアカウントが設定されている場合にユーザーアカウントを追加しようとすると、このエラーが発生します。新しいユーザーアカウントを追加する前にアカウントを削除する必要があります。	86 ページの「userdel」
Passwords don't match	新しいパスワードの 1 回目と 2 回目の入力異なります。パスワードを再入力してください。	
Permission denied	許可されていないユーザー権限レベルのシェルコマンドを実行しようとした。	88 ページの「userperm」
Sorry, wrong password	入力したパスワードに誤りがあります。パスワードを再入力してください。	
Error: User <username> already exists.	追加しようとしているユーザーは、このサーバーの ALOM アカウントをすでに取得しています。	

# FRU エラー

次のエラーメッセージは、ALOM で FRU に関する問題が検出されたときに表示されます。

表 A-5 FRU に関するエラーメッセージ

エラーメッセージ	コマンド / 説明	参照先
Error: xxx is currently powered off.	xxx はコマンドの送信先 FRU の名前です。FRU は現在、電源が入っていない状態です。コマンドを実行する前に電源を入れる必要があります。	
Error: xxx is currently powered on.	xxx は poweron コマンドの送信先 FRU の名前です。FRU はすでに電源が入っている状態です。	57 ページの「poweron」
Error: xxx is currently prepared for removal.	xxx は removefru コマンドの送信先 FRU の名前です。FRU はすでに電源が入っていない状態で、取り外す準備ができています。	59 ページの「removefru」
Error: Invalid FRU name.	FRU コマンドにオプションを指定していないか、コマンドに無効な FRU 名を指定しています。FRU 名が有効であることを確認してから、コマンドを再入力してください。	74 ページの「showfru」

詳細は、38 ページの「ALOM シェルコマンド」を参照してください。

# scadm のエラーメッセージ

次の表に、scadm の一般的なエラーメッセージとその原因を示します。メッセージはアルファベット順です。

表 A-6 scadm に関するエラーメッセージ

エラーメッセージ	説明
Passwords didn't match, try again	userpassword コマンドの実行時には、パスワードを 2 回入力する必要があります。入力した 2 つのパスワードが異なる場合にこのエラーメッセージが表示されます。userpassword コマンドを再実行してください。詳細は、87 ページの「userpassword」を参照してください。
scadm: all user slots are full	ALOM にすでに最大件数の 16 件が設定されている場合にユーザーアカウントを追加しようとすると、このエラーが発生します。新しいアカウントを追加する前に既存アカウントを削除する必要があります。詳細は、86 ページの「userdel」を参照してください。
scadm: command line too long	コマンド行に入力した文字が長すぎます。使用したコマンドが有効であることを確認し、文字数を減らして再度コマンドを実行してください。
scadm: command unknown	使用したこのコマンドは scadm では無効です。有効な ALOM コマンドでも scadm コマンドとして存在しない場合は、ALOM からコマンドを実行する必要があります。詳細は、130 ページの「scadm コマンドの一覧」および 38 ページの「ALOM シェルコマンド」を参照してください。
scadm: could not read date from SC	scadm で ALOM から現在の日付と時間を取得中に、ALOM ファームウェアに未定義のエラーが発生しました。コマンドを再実行するか、ALOM からコマンドを実行してください。
scadm: could not send alert	send_event コマンドの実行中に、ALOM ファームウェアでのイベントの記録や警告メッセージの送信ができませんでした。詳細は、138 ページの「scadm send_event」を参照してください。
scadm: could not set date on SC	scadm で ALOM の現在の日付と時間を設定しようとしたときに、ALOM ファームウェアに未定義のエラーが発生しました。コマンドを再実行するか、ALOM からコマンドを実行してください。詳細は、132 ページの「scadm コマンドの説明」を参照してください。

表 A-6 scadm に関するエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	説明
scadm: couldn't add user	ユーザーアカウントの追加中に scadm に内部エラーが発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。詳細は、142 ページの「scadm useradd」を参照してください。
scadm: couldn't change password	ユーザーパスワードの変更中に scadm に内部エラーが発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。詳細は、145 ページの「scadm userpassword」を参照してください。
scadm: couldn't change permissions	ユーザー権限の変更中に scadm に内部エラーが発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。
scadm: couldn't delete user	ユーザーアカウントの削除中に scadm に内部エラーが発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。詳細は、143 ページの「scadm userdel」を参照してください。
scadm: couldn't get information on user	usershow コマンドの実行中に scadm に内部エラーが発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。詳細は、91 ページの「usershow」を参照してください。
scadm: download failed, SC reported erase error	flashupdate コマンドの実行中にハードウェアに関する問題が発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。
scadm: download failed, SC reported int_wp error	flashupdate コマンドの実行中にハードウェアに関する問題が発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。
scadm: download failed, SC reported range error	flashupdate コマンドの実行中にハードウェアに関する問題が発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。
scadm: download failed, SC reported verify error	flashupdate コマンドの実行中にハードウェアに関する問題が発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。
scadm: download failed, SC reported vpp error	flashupdate コマンドの実行中にハードウェアに関する問題が発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。
scadm: download failed, SC reported wp error	flashupdate コマンドの実行中にハードウェアに関する問題が発生しました。SEEPROM に問題がある可能性があります。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。

表 A-6 scadm に関するエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	説明
scadm: download rejected, rotary switch in secure mode?	サーバーの回転式スイッチがロック位置に設定されていると、flashupdate コマンドを実行できません。回転式スイッチの位置を確認してからコマンドを再実行してください。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。
scadm: Error downloading file	flashupdate コマンドの実行中にエラーが発生しました。コマンドを再実行してください。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。
scadm: ERROR, callback init failed	flashupdate コマンドの実行中にエラーが発生しました。コマンドを再実行してください。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。
scadm: Error, Invalid setting for parameter <i>param</i> .	<i>param</i> に指定した構成変数の値に誤りがあります。使用する構成変数を確認し、コマンドを再入力してください。詳細は、11 ページの「構成ワークシート」を参照してください。
scadm: Error, invalid configuration parameter.	存在しない構成変数が setsc または showsc コマンドに指定されています。構成テーブルの構成変数と値を確認し、コマンドを再入力してください。詳細は、67 ページの「setsc」または 82 ページの「showsc」、11 ページの「構成ワークシート」を参照してください。
scadm: ERROR, passwords didn't match	userpassword コマンドの実行時には、パスワードを 2 回入力する必要があります。入力した 2 つのパスワードが異なる場合にこのエラーメッセージが表示されます。コマンドを再実行してください。詳細は、87 ページの「userpassword」を参照してください。
scadm: ERROR, unable to set up message queue	download コマンドの実行中にエラーが発生しました。コマンドを再実行してください。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。
scadm: event message can't exceed 80 characters	send_event コマンドに指定するメッセージの長さは 79 文字までです。詳細は、138 ページの「scadm send_event」を参照してください。
scadm: file could not be opened	download コマンドの実行中にエラーが発生しました。scadm はコマンド行で指定されたファイルをオープンできませんでした。ファイルの指定に誤りがないことを確認して、コマンドを再実行してください。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。
scadm: file not a valid s-record	flashupdate コマンドの実行中にエラーが発生しました。指定したダウンロードファイルは有効な srecord ファイルではありません。ファイル名を確認してからコマンドを再実行してください。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。



表 A-6 scadm に関するエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	説明
scadm: INTERNAL ERROR in set date	date コマンドの実行中にエラーが発生しました。コマンドを再実行してください。詳細は、132 ページの「scadm コマンドの説明」を参照してください。
scadm: INTERNAL ERROR, overflow in callback	flashupdate コマンドの実行中にエラーが発生しました。コマンドを再実行してください。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。
scadm: invalid variable	set コマンドの実行中に無効な変数が入力されました。構成変数の一覧を確認してからコマンドを再実行してください。詳細は、139 ページの「scadm set」を参照してください。
scadm: invalid variable or value	set コマンドの実行中に無効な変数または値が入力されました。構成変数の一覧を確認してからコマンドを再実行してください。詳細は、139 ページの「scadm set」を参照してください。
scadm: malformed password	入力したパスワードが無効です。有効なパスワードの長さは 6 ~ 8 文字で、そのうち 2 文字以上を英字、1 文字以上を数字または特殊文字にする必要があります。
scadm: malformed username	入力したユーザー名の文字が無効です。
scadm: maximum username length is 16	入力したユーザー名の長さが 16 文字を超えています。16 文字以内でユーザー名を再入力してください。
scadm: SC did not respond during boot initialization	flashupdate コマンドの実行中にエラーが発生しました。コマンドを再実行してください。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。
scadm: SC failed to respond during download	flashupdate コマンドの実行中に、ALOM は正常に起動モードに入ることができませんでした。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。
scadm: SC firmware not responding	メイン ALOM ファームウェアが応答しません。このエラーは、ALOM の起動時、メインファームウェアに障害がある場合、または ALOM のハードウェアに問題がある場合に発生します。しばらく経ってから、コマンドを再実行してください。
scadm: SC not responding to requests	scadm に対して ALOM からの適切な応答がありません。ALOM が動作していることを確認してください。
scadm: ALOM returned fatal error	flashupdate コマンドの実行中に ALOM から特定できないエラーが返されました。コマンドを再実行してください。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。

表 A-6 scadm に関するエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	説明
scadm: ALOM returned garbage	このエラーはさまざまな状況で発生します。コマンドを再実行してください。
scadm: ALOM returned unknown error	download コマンドの実行中に ALOM から特定できない状態 (成功でも失敗でもない状態) が返されました。コマンドを再実行してください。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。
scadm: ALOM returned wrong response	ユーザーコマンドの実行中に ALOM から無効な応答がありました。これは ALOM または scadm ユーティリティの内部エラーであると考えられます。詳細は、127 ページの「scadm ユーティリティの概要」を参照してください。
scadm: ALOM unable to free up memory	このメッセージはさまざまな状況で発生します。scadm ユーティリティが ALOM ファームウェアから受信したメッセージを解放できませんでした。
scadm: Unable to reset ALOM hardware	resetsc コマンドの実行中に ALOM のハードリセットが失敗しました。詳細は、61 ページの「resetsc」を参照してください。
scadm: unable to send data to ALOM	ALOM に送信したデータが認識されませんでした。ALOM が動作していることを確認してください。
scadm: user already exists	追加しようとしているユーザーは、このサーバーの ALOM アカウントとしてすでに登録されています。
scadm: username did not start with letter or did not contain lowercase letter	追加する ALOM ユーザーアカウントのユーザー名の形式が無効です。useradd コマンドを参照して、コマンドを再実行してください。詳細は、85 ページの「useradd」を参照してください。
scadm: username does not exist	指定したユーザー名はこのサーバーの ALOM アカウントに関連付けられていません。
This program MUST be run as root	サーバーにスーパーユーザーでログインし、scadm を再実行してください。
USAGE: scadm <command> [options]	コマンドの一覧を表示するには、 <b>scadm help</b> と入力します。
USAGE: scadm date [-s]   [[mmd]HHMM   mmdHHMM[yyyy]][.SS]	scadm date の値の指定に誤りがあります。date コマンドの正しい構文を参照して、scadm date コマンドを再実行してください。詳細は、132 ページの「scadm コマンドの説明」を参照してください。
USAGE: scadm download [boot] <file>	scadm download の値の指定に誤りがあります。download コマンドの正しい構文を参照して、download コマンドを再実行してください。詳細は、133 ページの「scadm download」を参照してください。

表 A-6 scadm に関するエラーメッセージ (続き)

エラーメッセージ	説明
USAGE: scadm loghistory	scadm loghistory の値の指定に誤りがあります。loghistory コマンドの正しい構文を参照して、scadm showlogs コマンドを再実行してください。詳細は、136 ページの「scadm loghistory」を参照してください。
USAGE: scadm resetrsc [-s]	scadm resetrsc の値の指定に誤りがあります。resetrsc コマンドの正しい構文を参照して、scadm resetrsc コマンドを再実行してください。詳細は、137 ページの「scadm resetrsc」を参照してください。
USAGE: scadm set<variable> <value>	scadm set の値の指定に誤りがあります。set コマンドの正しい構文を参照して、scadm set コマンドを再実行してください。詳細は、139 ページの「scadm set」を参照してください。
USAGE: scadm show [variable]	scadm show の値の指定に誤りがあります。140 ページの「scadm show」で正しい構文を参照して、scadm show コマンドを再実行してください。
USAGE: scadm shownetwork	scadm shownetwork の値の指定に誤りがあります。141 ページの「scadm shownetwork」で正しい構文を参照して、scadm shownetwork コマンドを再実行してください。
USAGE: scadm useradd <username>	scadm useradd の値の指定に誤りがあります。useradd コマンドの正しい構文を参照して、scadm useradd コマンドを再実行してください。詳細は、142 ページの「scadm useradd」を参照してください。
USAGE: scadm userdel <username>	scadm userdel の値の指定に誤りがあります。143 ページの「scadm userdel」で正しい構文を参照して、scadm userdel コマンドを再実行してください。
USAGE: scadm userpassword <username>	scadm userpassword の値の指定に誤りがあります。145 ページの「scadm userpassword」で正しい構文を参照して、scadm userpassword コマンドを再実行してください。
USAGE: scadm userperm <username> [cuar]	scadm userperm の値の指定に誤りがあります。146 ページの「scadm userperm」で正しい構文を参照して、scadm userperm コマンドを再実行してください。
USAGE: scadm usershow [username]	scadm usershow の値の指定に誤りがあります。144 ページの「scadm usershow」で正しい構文を参照して、scadm usershow コマンドを再実行してください。



# 索引

---

## 記号

.sc コマンド, 150

## A

ALOM (Advanced Lights Out Management)

概要, 1

回路, 2

コマンド一覧, 38

コマンドシエル, 37

ソフトウェア, 1, 2

ALOM エラーメッセージ, 156 ~ 161

ALOM コマンド

bootmode, 42

break, 44

console, 45

consolehistory, 48

flashupdate, 50

help, 53

logout, 54

password, 55

poweroff, 56

poweron, 57

removefru, 59

reset, 60

setalarm, 62

setdate, 63

setdefaults, 65

setlocator, 66

setsc, 67

setupsc, 68

showdate, 70

showenvironment, 71

showfru, 74

showlocator, 77

showlogs, 78

shownetwork, 80

showplatform, 81

showsc, 82

showusers, 84

useradd, 85

userdel, 86

userpassword, 87

userperm, 88

usershow, 91

ALOM コマンドの入力, 37

ALOM ソフトウェアのカスタマイズ

setupsc の使用, 68

概要, 15

実行手順, 5

ALOM の概要, 1

ALOM の設定の開始, 5

ALOM のリセット, 18

ALOM ファームウェアのダウンロード, 51, 133

ALOM への接続、概要, 3, 31

ALOM へのログイン, 32

ALOM ポートの再構成, 20

## B

boot ログ, 48

bootmode コマンド, 42

break コマンド, 44

## C

CLI (コマンド行インタフェース), 1, 37

console コマンド, 45

consolehistory コマンド, 48

## D

DB-25 信号, 10

DHCP サーバーの情報、表示, 80

DHCP 変数, 108

## E

Ethernet

MAC 変数, 108

アドレスの変数, 124

接続の完全性, 112

ポート, 8

## F

flashupdate コマンド, 50

FRU

PROM の状態, 74

エラーメッセージ, 160

取り外し, 59

FRU の状態の表示, 74

## H

help コマンド, 53

## I

if\_modem 変数, 102

if\_network 変数, 101

IP 変数

アドレス, 109

ゲートウェイ, 110

ネットマスク, 111

## L

LED インジケータ、設定, 62

LED の状態, 20, 71

logout コマンド, 54

## N

NET MGT ポート, 8

netsc\_enetaddr 変数, 108

netsc\_ipaddr 変数, 109

netsc\_ipgateway 変数, 110

netsc\_ipnetmask 変数, 111

netsc\_tpelinktest 変数, 112

## O

OpenBoot PROM コマンド, 149

OpenBoot PROM プロンプト、サーバーに表示, 19

## P

password コマンド, 55

poweroff コマンド, 56

poweron コマンド, 57

## R

removefru コマンド, 59

reset コマンド, 60

reset-sc コマンド, 150

resetsc コマンド, 61

RJ-45 信号, 8

RJ-45/DB-25 の信号の変換, 9  
run ログ, 48

## S

sc コマンド, 37 ~ 91  
sc コマンドの help, 53  
scadm コマンド, 130 ~ 148  
    date, 132  
    download, 133  
    help, 135  
    loghistory, 136  
    modem\_setup, 137  
    resetrsc, 137  
    send\_event, 138  
    set, 139  
    show, 140  
    shownetwork, 141  
    useradd, 142  
    userdel, 143  
    userpassword, 145  
    userperm, 146  
    usershow, 144  
scadm コマンド一覧, 130  
scadm コマンドの使用, 131  
scadm の help, 135  
scadm のエラーメッセージ, 161  
scadm のパスの設定, 127  
scadm ユーティリティー、概要, 127  
sc\_backupuserdata 変数, 112  
sc\_clieventlevel 変数, 113  
sc\_clipasswdecho 変数, 116  
sc\_cliprompt 変数, 113  
sc\_clitimeout 変数, 115  
sc\_customerinfo 変数, 117  
sc\_escapechars 変数, 118  
sc\_powerondelay 変数, 118  
sc\_powerstatememory 変数, 119  
SER MGT ポート, 7, 14  
ser\_baudrate 変数, 120  
ser\_data 変数, 121  
ser\_parity 変数, 121

ser\_stopbits 変数, 122  
setalarm コマンド, 62  
setdate コマンド, 63  
setdefaults コマンド, 65  
setlocator コマンド, 66  
setsc コマンド, 67  
setup スクリプトの実行, 69  
setupsc コマンド, 6, 68  
setupsc スクリプトの実行, 21  
showdate コマンド, 70  
showenvironment コマンド, 20, 71  
showfru コマンド, 74  
showlocator コマンド, 77  
showlogs コマンド, 78  
shownetwork コマンド, 80  
showplatform コマンド, 81  
showsc コマンド, 82  
showusers コマンド, 84  
SunVTS ソフトウェア、制限, 127  
sys\_autorestart 変数, 122  
sys\_enetaddr 変数, 124  
sys\_eventlevel 変数, 124  
sys\_hostname 変数, 125  
sys\_xirtimeout 変数, 125

## T

telnet コマンド, 3, 31  
Telnet セッション、数, 37

## U

useradd コマンド, 85  
userdel コマンド, 86  
userpassword コマンド, 87  
userperm コマンド, 88  
usershow コマンド, 91

## X

XIR のタイムアウト, 125

## あ

アイドルセッション, 115

アラームの解除, 62

アラームの設定, 62

## い

### 一覧

ALOM エラーメッセージ, 156 ~ 161

ALOM シェルコマンド, 38

scadm コマンド, 130

scadm のエラーメッセージ, 161

### イベントの警告

ALOM シェル, 113

設定, 138

イベントの履歴, 136

イベントのレベル, 113, 124

イベントバッファの履歴, 78

## え

エスケープ文字、変更, 118

エラーメッセージ、一覧, 156

遠隔接続のロック解除, 156

## お

オプション、入力, 38

温度, 20, 71

## か

回転式スイッチ, 4

回転式スイッチの状態, 20, 71

回路, 2

書き込みアクセス, 45

書き込みロック

解放, 47

コンソール, 156

数、Telnet セッション, 37

環境, 20, 71

監視対象コンポーネント, 2

## き

強制停止

サーバー, 19

切り替え

プロンプト, 18

## け

警告

設定, 138

電子メール, 104

電子メールによる設定, 14

警告の状態, 20, 71

権限

admin アカウント, 32

scadm での設定, 146

設定または変更, 88

権限の設定, 146

現在のユーザー、表示, 84

現場交換可能ユニット

「FRU」を参照

## こ

更新

構成設定, 67

ファームウェア, 4

構成

ALOM, 68

計画, 6

作業, 5

変数, 15, 93 ~ 126



- 構成計画, 6
- 構成設定、変更, 67
- コネクタ, 8~10
- コマンドシエル, 37~91
  - 「sc コマンド」も参照
  - エラーメッセージ, 156
  - オプションの入力, 38
  - 数, 37
- コンソールと ALOM との切り替え, 18
- コンソールへの接続, 45
- コンソールユーザー
  - 表示, 84
  - 複数, 45
- コンポーネント、監視対象, 2

## さ

- サーバー
  - 強制停止, 19
  - ハードリセット, 61
  - プラットフォームの情報, 81
  - 問題, 154
- サーバーに OpenBoot PROM プロンプトを表示, 19
- サーバーの強制停止, 19, 60
- サーバーのリセット, 60, 156
- サーバーのリセット、オプション, 19

## し

- シエルプロンプト、変更, 113
- システム
  - 温度, 20, 71
  - コンソール、リダイレクト, 34
  - プラットフォーム名, 129
  - 変数, 96
- システムコンソールのリダイレクト, 34
- システムコントローラ管理, 127
- 自動再起動, 122
- 自分のパスワード
  - 変更, 55

- 出荷時設定, 65
- 障害追跡, 153
  - モデムの設定, 153
- シリアルポート, 7
  - データビットの設定, 121
  - パリティ, 121
  - 変数, 95
  - ボーレートの設定, 120
  - モデムの設定, 102
  - モデムの取り付け, 8
- 診断, 153

## す

- スイッチ、回転式, 4
- スクリプト、setup の実行, 69
- スクリプト、setupsc の実行, 21
- スタンバイ電源の状態, 2
- スタンバイモード、電源の供給, 56
- ストップビット、シリアルポート, 122

## せ

- 制御
  - 起動動作, 42
- セッション、アイドル, 115
- セッションの終了, 54
- 接続のクローズ, 54
- 設定
  - OpenBoot NVRAM 変数, 42
  - scadm ユーティリティのパス, 127
  - アラーム, 62
  - 外部モデム, 8
  - 構成変数, 139
  - 作業, 5
    - 「設定」も参照
  - 電子メールによる警告, 14
  - 日付, 132
  - 変数, 15
  - ユーザー権限, 88
- 設定、電子メールによる警告, 14

設定スクリプト, 69

## そ

装置の failed 状態、定義, 4

装置の fault 状態、定義, 4

ソフトウェア

カスタマイズ, 15

手順, 6

プリインストール, 1

## た

タイムアウト

サーバーのリセット, 156

設定値, 125

タイムアウトの設定, 125

## つ

通信ポート, 6

通知変数, 97

## て

データビット、設定, 121

デフォルト、リセット, 65

デフォルトの起動デバイス, 42

電圧の状態, 20, 71

電源状態, 119

電源状態の記憶, 119

電源装置の状態, 2, 20, 71

電源投入の遅延, 118

電子メールによる警告, 104

## と

取り外し、FRU, 59

## ね

ネットマスク変数, 111

ネットワーク

現在の構成の表示, 80, 141

変数, 95

有効化, 101

## は

変数

システムの XIR のタイムアウト, 125

ハードドライブの状態, 20, 71

ハードリセット、サーバー, 61

パス、scadm への設定, 127

パスワード

scadm での変更, 145

エコー表示, 116

規則, 56, 88

ほかのユーザーの変更, 87

バックアップ

ALOM 構成, 36

ユーザーデータ, 112

バッファのメッセージ, 48

パリティ、シリアルポート, 121

## ひ

日付

scadm での設定, 132

現在, 70

日付と時間の設定, 63

表示

現在の日付, 70

構成変数, 140

システムの情報, 82

ネットワーク構成, 141

ユーザー, 91

ユーザーアカウント, 144

ロケータ LED の状態, 77

## ふ

- ファームウェア
  - 新しいバージョンのインストール, 50
  - 更新, 4
  - 更新時の注意, 51
  - バージョン, 82
- 複数のオプション、入力, 38
- プラットフォーム、表示, 81
- プラットフォーム固有, 4
- プラットフォーム名、特定, 129
- プロンプト
  - 変更, 113
- プロンプトの切り替え, 18
- プロンプトの指定, 113

## へ

### 変更

- 権限, 88
  - 自分のパスワード, 55
  - パスワード (scadm を使用), 145
  - プロンプト, 113
  - ほかのユーザーのパスワード, 87

### 変数, 93 ~ 126

- DHCP, 108
- Ethernet, 108
- Ethernet アドレス, 124
- Ethernet 接続の完全性, 112
- IP アドレス, 109
- IP ゲートウェイ, 110
- アイドル時間の設定, 115
- イベントのレベル, 124
- エスケープ文字の変更, 118
- システムインタフェース, 96
- システムのホスト名, 125
- システムユーザー, 98
- 自動再起動, 122
- シリアルポート, 95
- シリアルポートのストップビット, 122
- シリアルポートのデータビットの設定, 121
- シリアルポートのパリティの設定, 121
- シリアルポートのボーレートの設定, 120

### 通知, 97

- 電源状態の記憶, 119
- 電源投入の遅延, 118
- ネットマスク, 111
- ネットワーク, 95
- ネットワークの有効化, 101
- パスワードのエコー表示, 116
- バックアップデータ, 112
- ホスト識別子, 117

## ほ

### ポート

- NET MGT, 8
- SER MGT, 7
- 再構成, 20
- ボーレート、設定, 120
- ホストサーバーの電源切断, 56
- ホストサーバーの電源投入, 14
- ホストサーバーの電源投入、sc コマンド, 57
- ホスト識別子, 117
- ホスト名の変数, 125

## ま

- マニュアルページの位置, 128

## も

### モデム

- 外部設定, 8
- コネクタ, 8
- 設定の障害追跡, 153
- 有効化, 102
- モデムの信号の変換, 9

## ゆ

### ユーザー

- 削除, 86
- 追加, 85

表示, 91

ユーザーアカウントの削除, 27, 86, 143

ユーザーアカウントの追加, 24, 85, 142

ユーザーセッションの情報, 84

ユーザーのデータ, 117

ユーザー名の制限, 85

ユニバーサル時間 (UTC), 64

## よ

読み取り, 48

読み取り専用のユーザー、表示, 84

読み取り専用モード, 45

## ろ

ログ, 48

ロケータ LED, 66

オン/オフの設定, 66

状態, 77